

2019年度 教師海外研修 報告書

サモア独立国

海外での経験を授業にして学校で実践しました!



海外に行ったことがなくても、国際理解教育をしたことがなくても、
参考になる授業案がいろいろ!

主催：独立行政法人 国際協力機構 北陸センター(JICA 北陸)

後援：文部科学省 外務省 富山県教育委員会 石川県教育委員会 福井県教育委員会



はじめに

この報告書は、2019年度に JICA 北陸が実施した「教師海外研修」についてまとめたものです。

「教師海外研修」は開発教育・国際理解教育に関心のある教員を対象に実施している国内と途上国での研修です。研修を通し開発途上国の現状、日本との関係や国際協力について理解を深めて頂き、その成果を次世代を担う児童・生徒への開発教育・国際理解教育に役立てて頂くことを目的としています。

JICA 北陸では 2019 年度、北陸地方の小学校、中学校、高校並びに特別支援学校からご応募頂いた 8 名の先生方にご参加頂き、金沢市での国内研修を経た後に大洋州のサモア独立国で海外研修を実施しました。

サモアは、南国特有の透き通る青い海と豊富な果実に恵まれた自然が美しい国である一方、経済発展に伴い様々な課題に直面しています。大らかな気質や家族・村民間の強い結び付きなど日本人にとって魅力的な側面がある反面、近代化によって変化した食生活がもたらした“土へ帰らない”ゴミの増加、高い肥満率、糖尿病の発生など、サモアでの対策・対応が追いついていない問題が近年顕在化しています。サモアの「国の発展」の結果生まれてきた課題、そしてこれからの望ましい「国の開発」を様々な側面から学ぶ為、参加教員は、青年海外協力隊の活動先、小学校、中高等学校、教育省、日本企業が建設している橋の現場など様々な場所を視察し、意見交換を行いました。また、サモア人家庭でのホームステイも体験してきました。

そして帰国後は参加教員全員が、国内研修と海外研修で得たこと、学んだことを活かし、各々が所属する学校で精力的に国際理解の授業を実践してきました。

今年度このプログラムにご参加頂いた 8 名の先生方のあふれる熱意と真摯な取り組みに敬意を表するとともに、所属学校の校長先生をはじめ関係の皆様のご理解とご支援に心から感謝申し上げます。参加教員にはプログラム終了後も開発教育・国際理解教育への継続的かつ果敢な取り組みを期待しています。本書が、開発教育・国際理解教育に関心をお持ちの、または関わっておられる全ての教育関係者の皆様にとり有用な参考の書となることを願っております。

2020 年 3 月

独立行政法人国際協力機構
北陸センター（JICA 北陸）
所長 菊地 和彦

目 次

はじめに

教師海外研修の概要	1
-----------	---

サモアでの研修報告：各訪問先についてレポート	4
------------------------	---

実践授業報告

〈小学校〉

福井県福井市社西小学校 大村 弥生 お互いを知って、仲良くなろう	21
-------------------------------------	----

石川県金沢市立鞍月小学校 田野 健 世界の未来と日本の役割	29
----------------------------------	----

〈特別支援学校〉

石川県立医王特別支援学校 村本 宗将 国際社会に生きる	45
--------------------------------	----

福井県立福井特別支援学校 高津 和幸 28 ダショー・ニシオカ（あすを生きる2）	59
---	----

〈中学校〉

石川県白山市立白嶺中学校 前川 麻耶 Unit4 Homestay in the United States (NEW HORIZON English Course Book 2)	65
---	----

石川県かほく市立河北台中学校 上谷 由喜 Unit 4 To Our Future Generations	76
--	----

〈高等学校〉

富山県立南砺平高等学校 道海 颯太 国際協力と経済発展	86
--------------------------------	----

富山県立上市高等学校 米澤 みのり サモアを通して、国際問題に対して自分にできることを考える	97
---	----

JICA 北陸 開発教育 支援メニューのご案内	107
-------------------------	-----

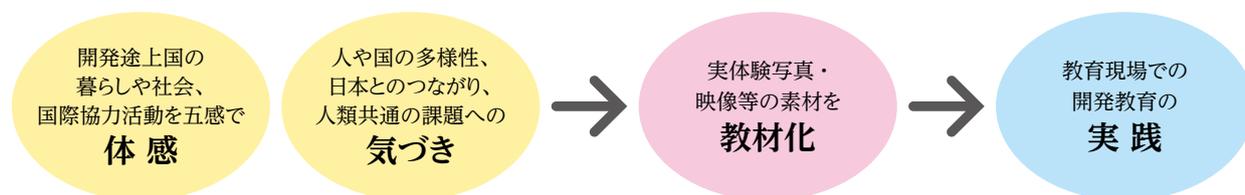
》 JICAの教師海外研修について

独立行政法人 国際協力機構（Japan International Cooperation Agency：JICA）は発展途上国が抱える様々な問題や課題を改善・解決していけるよう、途上国や日本で多面的に事業を展開している日本政府の専門機関です。

JICA は数多くある事業の一つとして、途上国を含めた海外や国際協力に対する理解を促進するための事業（国際理解教育 / 開発教育支援事業）を日本国内で子供達や一般の方々向けに行っています。

「教師海外研修」は開発教育・国際理解教育に関心のある教師及び教育委員会指導主事等を対象に実施している国内と途上国での研修です。研修を通し開発途上国の現状や国際協力の現場、日本との関係などについて理解を深めて頂き、その成果を次世代を担う児童・生徒への開発教育・国際理解教育に役立てて頂くことを目的としています。

子供たちが社会に出る時、外国の方達が身近な地域で住んだり働いたりすることが今よりも更に増えていることが予想されます。“国際理解・国際協力”は自分に関係ないことではなく、知っておくべき身近な出来事となりつつあります。本研修は子供たちの世界、視野、可能性を世界に広げるために、まずは教育現場にいる先生達がグローバルな知識や経験を積めるようプログラムをアレンジしています。また、研修終了後も、開発教育・国際理解教育に継続的に取り組み、地域で中核的指導者として活躍頂くことを期待しています。



こんな先生方におすすめ!

- ・グローバル教育、国際理解教育を今後北陸地域で実践し広めていきたい方
- ・既に国際理解教育を実践しているが、実体験が十分ではなく教育者として説得力が不足していると感じている方
- ・重要性を増す ESD(持続可能な開発のための教育) や SDGs(持続可能な開発目標)などを理解し、また今後のグローバル社会で必要になる国際的な知識や実体験を得たい方
- ・教員としてこれからも成長していくために、国際理解教育について他校の先生方と一緒に学びあいたい方
- ・観光では見られない開発途上国の学校や国際協力の現場などを訪問し、現地の人や子どもたち、協力する日本人と直接交流してみたい方



SDGs：国際社会が持続可能な社会を実現するため設定した世界共通の目標

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



応募資格

次の要件をすべて満たす方に応募資格があります。

- ① 応募および研修受講時点で富山県、石川県、福井県の国公立、私立の小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校、高等専門学校の教員（児童・生徒に開発教育・国際理解教育を継続的に実践できる立場にある教員）で、所属する学校の校長の推薦があること。
- ② 原則、JICA が実施している教師海外研修、JICA 海外協力隊、専門家、国際協力レポーター（ODA 民間モニター）等に JICA から派遣された経験がないこと。

参加者一覧（順不同 / 敬称略）

NO.	校種	氏名		学校名	担当教科 (担任学年)	県名
1	小学校	大村 弥生	おおむら やよい	福井県福井市社西小学校	4年生	福井県
2		田野 健	たの けん	石川県金沢市立鞍月小学校	6年生	石川県
3	特別支援	村本 宗将	むらもと そうすけ	石川県立医王特別支援学校	理科 3年生	石川県
4		高津 和幸	たかつ かずゆき	福井県立福井特別支援学校	英語 中学部 2、3年生	福井県
5	中学	前川 麻耶	まえがわ まや	石川県白山市立白嶺中学校	英語 小学5年生～中学3年生	石川県
6		上谷 由喜	うえたに ゆき	石川県かほく市立河北台中学校	英語 2年生	石川県
7	高校	道海 颯太	どうかい そうた	富山県立南砺平高等学校	地理歴史・公民 2年生	富山県
8		米澤 みのり	よねざわみのり	富山県立上市高等学校	英語 2年生	富山県
9	JICA スタッフ	武田 さやか	たけた さやか	JICA 北陸	開発教育支援事業	石川県
10		吉田 詩甫子	よしだ しほこ	JICA 北陸富山県デスク	推進員	富山県

1年間の研修の流れ & 2019年度の研修日程

国内 事前研修

1回目 2019年6月22日(土)

2回目 2019年7月20日(土)

海外研修

2019年8月11日(日)

～2019年8月21日(水)

国内 事後研修

2019年9月7日(土)

実践授業

9月～12月

報告会

2020年3月7日(土)

海外研修にむけた準備

国際理解の重要性、SDGs、JICA、国際協力、訪問国情報など、訪問する前に知っておくべきことを学び、また海外渡航に向けた必要準備事項について共有します。訪問国に派遣されていた元青年海外協力隊の経験談や過年度参加者との交流もあります。

知識編・渡航準備編



事前研修の様子

途上国での研修

海外研修中は JICA の国際協力プロジェクト現場や NGO、青年海外協力隊の活動先などを訪問し、実際に働いている方々と意見交換を行います。訪問国の現状、途上国を取り巻く課題などを様々な視点から捉え、考察します。見学先は訪問国・研修年度によって変わります。

実体験編



訪問した学校でソーラン節を披露する参加者

実践授業に向けた準備

海外研修を通じて考えたこと、学んだこと、感じたことを参加者間で振り返り、整理します。また、自分が立てた授業案をもとに、実践に向けて改善点などを意見交換し、児童・生徒に何をどう伝えるかブラッシュアップします。授業に使える国際理解ワークショップも体験します。

経験整理と授業案作り編



事後研修の様子

学校で体験・学びを還元

収集したデータや資料、実体験などを活用し、訪問国が抱える課題や国際協力、日本の役割、異文化などについて知り考える授業を9月から12月にかけて実施します。

実践編



多文化共生に向けて自分たちのアイデアを発表する生徒たち
かほく市立河北台中学校にて



福井市社西小学校での異文化理解授業

現在までの学びを一般市民に向けて発表

成果報告編

「どんな国際理解授業を行ったのか」、「その授業を受けた児童・生徒は何を感じ何を学び、どんな風に変化したのか」、一般の方々に向けて研修の成果を報告します。参集した方々の質問やコメントもさらに学びを深めます。



全員で現地の民族衣装を着て発表

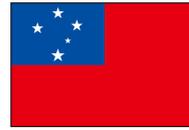
海外研修報告

≫ 研修国概要：サモア独立国

サモアは南太平洋上にある東京都の1.3倍程の小さな島国だ。サバイ島とウポル島というふたつの大きな島とその周辺の島々から構成されている。国民の9割を占めるのがポリネシア系サモア人だ。人口は約20万人。国内人口をはるかに上回る規模のサモア人がニュージーランドやハワイ等の海外で生活しており、彼らからの海外送金が本国サモアを支えている。農業と沿岸漁業を中心とした小規模経済国だが、観光と漁業を中心に成長してきた。

1968年にサモア人研修員の受入事業が始まり、1988年にはJICAサモア事務所がアピアに開設された。それ以降、今日まで本格的な二国間協力が行われてきた。

基礎教育、保健医療、防災など、JICAは様々な分野でサモアに対して支援を行っているが、近年は環境分野に力を入れている。生活の近代化に伴い廃棄物問題が顕在化しているにも関わらず、ごみの処理能力や分別は追い付いていないのが現状だ。ごみの減量化や適正処理が課題となっており、JICAはサモアで「大洋州地域廃棄物管理改善支援プロジェクト」を実施している。



基礎データ

面積	2,830 平方キロメートル (東京都の約 1.3 倍)
人口	約 20 万人 (2018 年、世界銀行)
首都	アピア
民族	サモア人 (ポリネシア系) 90%、 その他 (欧州系混血、メラネシア系、中国系等)
言語	サモア語、英語 (共に公用語)
宗教	キリスト教 (カトリック、メソジスト、モルモン教等)
GNI	1 人あたり 4,190 米ドル (2018 年、世界銀行)
経済成長率	0.7% (2018 年、世界銀行)
失業率	8.1% (2018 年、ILO 統計)

略史

1722年	オランダ人探検家 Roggeveen が視認
1768年	フランス人航海者 Bougainville が上陸
1860年代～	アピアが捕鯨船補給港として繁栄 ドイツ、英国、米国が勢力を競う
1899年	ドイツが西サモア (現在のサモア独立国)、 米国が東サモア (現在の米領サモア) を領有
1919年	ニュージーランドを施政権者とする 国際連盟委任統治領となる
1945年	国際連合信託統治領となる
1962年1月1日	独立 (但し独立記念日は 6 月 1 日)
1997年	国名をそれまでの「西サモア」から 「サモア独立国」に変更

援助実績

スキーム	額 (累計) / 人数 (延べ)
有償資金協力	45.98 億円 (2017 年度までの累計)
無償資金協力	330.99 億円 (2017 年度までの累計)
技術協力	147.60 億円 (2017 年度までの累計)
青年海外協力隊	552 人 (2019 年 12 月時点で 20 人派遣中)
シニア海外協力隊	133 人 (2019 年 12 月時点で 1 人派遣中)

人的つながり

項目	人数
サモアにおける 在留邦人数	86 人 (2017 年 10 月時点 外務省海外在留邦人調査統計)
在日サモア人数	73 人 (2018 年 6 月時点 法務省在留外国人統計)

サモアへの援助総額は 2017 年度までに累計 524.57 億円

出典：外務省ホームページ、JICA 海外協力隊ホームページ

2019年度 JICA 北陸 教師海外研修日程

日程		時間	項目	紹介 ページ	
1	8/11	日	PM	小松空港→成田空港 成田空港 18:30 出発	
2	8/12	月	PM	ニュージーランドのオークランドを經由し、サモアの首都アピアに到着	
3	8/13	火	AM	JICA サモア支所 訪問 ・サモアでの JICA 事業 概要紹介 ・サモアでの JICA ボランティア事業 説明 ・サモアの文化、教育制度について紹介 ・ホームステイガイダンス	6ページ
			PM	在サモア日本大使館 表敬訪問 JICA 無償資金協力：ヴァイシガノ橋梁架け替え工事現場 視察	7ページ 8ページ
4	8/14	水	AM	青年海外協力隊 活動先視察①：アアナ No2 カレッジ（中高等学校）を訪問・交流	9ページ
			PM	青年海外協力隊 活動先視察②：マノノ・ウタ小学校を訪問・交流	10ページ
				青年海外協力隊 活動先視察③：サモアサッカー協会を訪問・交流	11ページ
5	8/15	木	AM	JICA 技術協力：タファイガタごみ処理場 視察	12ページ
			PM	サモア国立博物館 訪問	13ページ
				サモア教育省 訪問	14ページ
				青年海外協力隊 活動先視察④：サモア気象局 訪問	15ページ
				サモアの伝統的な踊りを鑑賞（フィアフィアショー）	
6	8/16	金	AM	青年海外協力隊 活動先視察⑤：ロトマファイソサエティ障がい児者施設を訪問	16ページ
			PM	青年海外協力隊・シニア海外協力隊による中間報告会 参加	17ページ
				青年海外協力隊員との懇親会	
7	8/17	土	終日	農村でホームステイ	18ページ
8	8/18	日	終日	農村でホームステイ、成果報告会へ向けて準備	
9	8/19	月	AM	サモアでの成果を発表	19ページ
			PM	市内観光 サモア支所スタッフとの懇親会	
10	8/20	火	AM	市内観光	
			PM	サモアの首都アピアからニュージーランドのオークランドへ移動 オークランドで一泊	
11	8/21	水	AM	オークランドから日本へ移動	
			PM	成田空港を經由して小松空港に帰着 19:55	

サモア国の概要

研修日	1日目 2019年8月13日(火)
訪問先	JICA サモア支所

<訪問先でのプログラム内容(概要)>

- ・星野明彦支所長挨拶
サモア国の概要、日本の貢献度(プロジェクト)、経済発展による国の課題、サモアの学校について
- ・JICA ボランティア事業説明(加藤亮さん)
JICAの活動目的と内容、サモアに対する支援について
- ・サモア教育制度の説明(加藤亮さん)
教育制度とカリキュラムの内容、抱える課題、JICAの教育支援について
- ・サモアの文化、ホームステイの様子(洋子さん)
村の生活様式と伝統文化について
- ・JICA 事業説明(漆畑さん)
重点分野と主要協力案件について

<訪問して学んだこと>

JICA 職員の方々は、チャレンジ精神をもって現地の人たちと問題や夢を共有しながら支援を行っている。日本と同じ島国ではあるが、抱える課題は異なっている。経済成長や生活水準の向上によって新たに生じた問題にも向き合う必要がある。国の資源を生かした政策や取組もあり、世界の動きを先取りするものもある。プラスチックバックの禁止など、日本が見習うべきところもあった。

<個人の考察>

伝統的な生活を大切にしつつ、新しく欧米様式もうまく取り入れながら、生活をしている国であることが分かる。流行を追い、何でも取り入れることばかりが異文化理解ではないと感じた。また、村のコミュニティの在り方や生活スタイルからも、伝統を重んじたり家族を大切にしたりする国民だと理解できる。

国の人口よりも多い数のサモア人が海外で生活をし、家族に送金をしている。また、優秀な人材が海外に流出してしまっていることから国を支える人材を十分に確保できない、さらに輸出品が少なく国の利益が増えない、というサモアの現状から、その国の力だけで発展することは難しいと感じた。これは、東南アジアの発展途上国(カンボジアなど)と同じ課題であると感じた。

援助する国は、現地のニーズに合わせた支援をしていく必要があるが、同時に現地の人たちの国民性や生活スタイルを無視してまで発展を期待するものではないと思う。

JICAの支援活動は、異文化社会における相互理解の深化と共生をも目的としており、草の根外交員としての役割を果たすものでもある。私は、教育という分野でグローバル人材を育成することで国際協力においてその使命を果たしていきたい。

記 上谷 由喜(石川県かほく市立河北台中学校)



サモアならではの生産物を紹介する支所長



説明を聞く参加者

サモア＝「人間らしさが最後まで残っていく魅力的な国」

研修日	1日目 2019年8月13日(火)
訪問先	日本大使館

<訪問先でのプログラム内容(概要)>

サモア日本大使館を表敬訪問し、青木大使、貴志参事官から、サモアの人々の生活や外国との関わり、国の魅力についてお話を伺った。

<訪問して学んだこと>

① マタイ制度について

サモアでは村ごとにマタイというリーダーがいて、村を統治していることを学んだ。サモアは、国単位ではなく、村単位の統治が主として行われており、マタイのルールがサモアの国民のルールになる。また、マタイ制度から見られるように、年長者ほど敬われ、身分が高くなる。生活の中で見られる例として、食事は、年長者から順に食べ、食べ残しを年の順に食べたり、子は親の望む進路に進んだりする。

② 外国とのつながりについて

サモアは人口20万人ほどの小さな島国である。そのため、国内の資源だけでは十分な生活を送ることができず、外国から資源を輸入することが必要不可欠になっている。一方で、輸出できる資源は乏しく、現在はバナナやカカオなどの第一次産品を主産品として海外に輸出している。また、サモアには仕事が少ないので、各家族の数名が、主にニュージーランドやオーストラリアに出稼ぎに出ている。このように、外国と関わらなければならない国なので、国民はサモア語以外に英語も学習し、習得しなければならない。

③ サモアの魅力について

青木大使は、ある本の言葉を借り、サモアを「最後の楽園」と表現しておられた。食べ物に困らない、景色がきれい、外を歩けば子どもたちの笑い声が聞こえる、家族みんなで暮らせる、国民の誰もが「I'm very happy every day」と当たり前のように言う、そんな国だからだ。グローバル化の波にのまれても、人間らしさが最後まで残っていく、そんな魅力がサモアにはある。

<個人の考察>

青木大使と貴志参事官のお話で一番印象に残ったことは、今のサモアは、昔の日本によく似ているということだ。先進国になった現在の日本は、核家族化が進み、貨幣経済の荒波の中、働くことに生活の重心をおいている。日本での幸せは、お金がないと成り立たない、といっても過言ではない。一方で、サモアの人々は、マタイのもとで強く連結し、家族とともに自給自足の生活をしている。お金がなくても毎日幸せという。これがサモアの魅力だと感じる。しかし、グローバル化の波は止められない。ゴミ問題や気候変動問題といった近代的な問題が進行するにつれ、サモアの幸せは徐々に奪われていく。変わりゆくサモアに暮らす人々の幸せのためにも、我々先進国が支援することは重要なのだと感じることができた。

記 大村 弥生(福井県福井市社西小学校)



サモアの魅力を語る青木大使



日本大使館 集合写真

サモアと日本をつなぐ橋

研修日	1日目 2019年8月13日(火)
訪問先	ヴァイシガノ橋梁架け替え工事現場

サモアにある橋の中でも、計画・規模ともに最大なのがこのヴァイシガノ橋だ。JICA(無償資金協力)によるインフラ整備の实情や課題とはどのようなものだろうか。まずはJICAサモア支所にて、セントラルコンサルタント株式会社(設計および施工管理会社)の方から説明を受けた。

このヴァイシガノ橋梁架替計画は、JICAの無償資金協力の中でも一般無償に分類されるもので、日本のコントラクター(本事業の場合は鴻池組)がその施工を担っている。これによるメリットとして、施工者の顔が見えることから現地の方々から信頼を得られること、日本の技術力による高いクオリティの施工が行われること、が挙げられる。また、本事業は日本側が橋梁を完成させて終わり、ではなくサモア側の自立を促す技術支援の側面も持っている。サモアの下請け会社が日本企業の指示のもとで実質的な施工を担っており、そして完成後の維持管理を行っていくのはサモアの陸運局となっている。当然全ての技術が移転されるわけではないが、これらのことを踏まえていく過程の中で、数々の工程・様々なノウハウが現地の人々に伝えられていっている。そして、ヴァイシガノ橋が架け替えられ新しく生まれ変わることによって、サイクロンなどの自然災害に強く、耐荷力も増した交通インフラが整備される。

次に、実際に架け替え工事現場に行き、自分の目で現地の様子を確認しながら説明を受けた。現在利用されているヴァイシガノ橋は20世紀初頭にドイツによって施工されたものだそうで、橋の裏側をのぞき込むと損傷や劣化が数多く見られた。このままでは落橋の危険もあるそうで、橋の架け替えはサモアにとって喫緊の課題となっていた。一方、架け替え工事現場に目をやると、真新しいコンクリートで作られた橋台がそびえ立っていた。素人目にして、現状とは比べものにならないほどの重厚感と安定感を感じる。鴻池組の方が「日本の高い技術力による品質には自信がある」と胸を張るのもうなずける。海外で輝く日本の技術力はよく教科書や様々なメディアで取り上げられるが、実際にその現場を目の当たりにし体感したことは貴重な体験となった。また、現場にいたサモア人スタッフであるティモシーの話も印象的だった。彼は留学先で工学を専攻し、現在はサモアに戻ってこの事業に携わっているとのこと。日本の支援へ感謝を示すと共に、彼は自国に戻って仕事ができていることに満足していると話した。自分が学んだことや得た技術を故郷のために還元できることに誇りを感じているようだ。こうした優秀な現地人材が活躍する場を創出しているということも、日本による支援の大きな副産物ではないだろうか。

最後に、橋桁を製作する工場を訪問し、事業チームの1人であるPS三菱のスタッフから説明を受けた。ここで製作された橋桁が架け替え現場へと運ばれ、組み立てられる。工場と言っても屋根はなく、橋桁製作に必要な材料や大きな機材が置いてある広い作業場所という印象だ。そこにはすでに完成した何十本もの立派な橋桁が並べられていた。PS三菱の方からは、技術移転の難しさについて話を伺うことができた。開発途上国への支援のあり方について考えるとき、最終的にはその国が支援なしで歩いて行ける状態、いわば自立状態を目指すのがゴールの一つであると言える。この事業に携わっている方々の想いも例外ではなく、現地スタッフでも対応できる場所は積極的に任せ習得出来る様になっているとのことだった。例えばコンクリートで小さな穴を埋めるだけの単純作業であっても、サモア人の中にはうまくできない人が多くいるようだ。これは、サモア人の大らかな国民性が裏面に出てしまったケースかもしれない。細かい作業や正確さが要求される作業に対する苦手意識を克服し、クオリティの高い仕事ができるように指導することは、支援側(日本)にかなりの根気が必要になる。皮肉なことに世界トップレベルの技術力を持ち、ものづくりに対して妥協できない日本人だからこそ、サモア人のものづくりに対する意識とのギャップが大きくなり、悩んでしまう。私は、「技術移転さえできれば自立を促せる」、「技術移転さえできれば現地人材が育つ」と簡単に考えていたが、その技術移転のプロセスにはこちらが想像できないほどの大きな壁がいくつもあると知った。この工場で実際にその壁に直面してきた方から生の声を聞き、簡単に「技術移転」という言葉を発してはいけないと感じた。

ヴァイシガノ橋梁架替計画について学んだことで、望ましい支援のあり方とは何か、国が発展するとはどういうことなのか、といったことについて考えることができた。この事業には、そうした課題に立ち向かっている人々が確かにいた。支援する側はどこまで支援して、支援される側はどこまで任せるのか。教育現場における教員と児童・生徒との関係にも似たこの答えのない問題について、これからも考え続けていきたい。

記 道海 颯太(富山県立南砺平高等学校)



完成した新しい橋に使う橋桁



損傷・劣化が見える現在の橋



橋の架け替え作業 工事現場

サモアの子供も達から学ぶ

研修日 2日目 2019年8月14日(水)

訪問先 アアナ No2 カレッジ

<訪問先でのプログラム内容(概要)>

サモアのカレッジ(中高等学校)で活動する青年海外協力隊 松原さん(理科教育)による理科の授業を見学したのち、校内見学、松原さんとの意見交換、そして本研修参加者による文化交流を行った。

<訪問して学んだこと、個人の考察>

今回の訪問で初めに感じたことは、子供達がとてもエネルギッシュだということだ。比較的静かな児童生徒たちと普段学校で接しているせいか、なぜかこの学校が羨ましく思えた。理科の授業は生物で細胞分裂の学習を行っていた。大変失礼ながら、ここへ来る前は、途上国の教育は色々な意味でレベルが高くないと思っていた。しかし実際の授業では、日本と変わらない学習内容がしっかりと展開されており、驚いた。生徒のノートをとる様子を見ても、しっかりと黒板の内容を記録していた。(なかなかうまく記録できていない子供も見られたが、それは日本も変わらない。)

校内を回ると多くの子供達の学習する様子を見ることができた。皆、我々が来ると笑顔で挨拶をしてくれた。何事にも寛容、そしてどこまでも明るいサモアの人たちの良さを感じることができた。校内見学では、もう1つ大きな衝撃を受けた。当日は校長が不在だったらしい。そのため数名の教師が学校に来ていないという話を聞いた。我々の感覚からすると理解しがたいが、これもサモアの文化が生んだものだろう。

松原隊員との意見交換会では、松原さんが協力隊員になったきっかけや現在取り組んでいること、今後の目標などをお聞きすることができ、とても胸が熱くなった。

最後の文化交流ではよさこいソーランの披露、折り紙の紹介を行った。言葉がなかなか通じない、そして私が折り紙の折り方が途中でわからなくなり子供に教えてもらう、ということもあったが、ここでも色々なことを感じ、学ばせてもらった。

本訪問を通じて、多くを学んだ。1つはサモア人の本当に明るく、寛容な国民性。相手の失敗も明るく受け入れるサモアの人々の寛容さ。サモア人は時間を守れないなど、色々なことにおおらかだと言われる。しかし私はそれらの文化は、もっとも大切な相手、そして自分を大切に育てる心育てる一助となったのでは、と感じた。サモアには自然と「人の心育てる文化」が存在しているとも感じた。そして学び合うことの大切さ。教師の立場にいと、ついこれもあれも「教えたい」と思ってしまう。しかしサモアの子供達と交流する中で共に主体的に学ぶ大切さを改めて思い知らされた。

最後に、世界中の子供たちは皆、無限の興味、可能性を秘めていると思う。子供たちの興味関心を引き出し、そして子供たちの「やりたいこと」、「なりたい自分」に子供たちが近づいていけるよう、サポートをする。それが教育に課された最大の使命であると改めて感じさせられた。

記 村本 宗将(石川県立医王特別支援学校)



折り紙を通して交流



理科の授業の様子

好奇心いっぱい目を輝かせる子どもたちとの出会い

研修日	2日目 2019年8月14日(水)
訪問先	マノノ・ウタ小学校

<訪問先でのプログラム内容(概要)>

到着するなり用意してくださっていたお昼ご飯をライブラリーにていただいた。私たちのために昼食を用意してくださったのは保護者だという。それを先生や子どもたちが運んでくれた。

その後は文化交流をした。8年生(日本の中学1年生)約25名とまずは外で「ラジオ体操」を行った。初めてするにも関わらず、見よう見まねで上手に体を動かしていた。その顔はとっても生き生きとしていた。ラジオ体操の後は「南中ソーラン」を参加教員達から披露するつもりでいたのだが、青年海外協力隊員の小嶋さんが子どもたちにソーラン節を教えたことがありと知り、みんなで一緒にすることになった。大きな声で「ソーラン、ソーラン!」と声を出す子どもたちを見て、自然とこちらも笑顔になった。その後は、「書道・茶道・縄跳び・紙風船・けん玉・馬跳び」の6つの体験コーナーに分かれた。私が担当した書道コーナーでは、筆ペンで子どもたちの名前をカタカナで書き、それを見て子どもたちが自分の名前を書く、という活動を行った。子どもたちはできたものを大事そうに持ち帰っていた。彼らとの時間はあっという間に過ぎた。短い時間ではあったがとても充実した貴重な時間だった。

文化交流の後は、校長先生による7・8年生合同クラスの社会科の授業を見学した。先生の説明のほとんどが英語で、サモア語はところどころはさむ程度であった。子どもたちは「生産者と消費者の不平等さ」について、グループで話し合い、前に出て英語で発表していた。

<訪問して学んだこと>

熱意を持ったとても前向きな校長先生と意見交換をする中で、①教員の数の不足と②英語で授業をすることの難しさの2つが問題点としてあがった。教育省は30人の生徒に対して1人の教員と決めているらしいが、生徒数300人のこの学校には10人の教員がいなければいけないところ実際には6人しかいないという。教員の社会的地位は高いと言えるが給料が低いことから転職する人がいること、毎年10人がニュージーランドへ行く機会が与えられること、などが原因だそうだ。そして、校長先生は母語であるサモア語で考えさせるのがよいと考えるが、教育省からの指示もあり、試験も英語であることから、高学年では英語で授業を行っているとおっしゃっていた。

<個人の考察>

子どもたちの新しいことに対する好奇心の強さ、恥じらうことなくできるまでやってみようとする意欲、体を使って自分を表現する力、それらはものすごいパワーを持っていると感じた。なのに教員の側の問題で、子どもたちの良さを生かし切れていない。それが非常にもったいないと思った。ここの校長先生のような熱意にあふれた先生が増えれば、子どもたちの可能性も広がると思う。

記 前川 麻耶(石川県白山市立白嶺中学校)



一緒にラジオ体操



校長先生による社会科の授業

サモアサッカーが抱える問題について

研修日	2日目 2019年8月14日(水)
訪問先	サモアサッカー協会

<訪問先でのプログラム内容(概要)>

男性陣はU-21の代表選手トレーニングと一緒に参加させてもらった。最初はパス練習をして、その後はゲーム形式の練習に参加した。女性陣はその練習を見学した。

その後、監督(サモアサッカーのレジェンド的な方)にインタビューをし、またサッカーの指導者として活動されている青年海外協力隊の杉山さんとディスカッションを行った。最後にサッカー協会のオフィス内を見学した。

<訪問して学んだこと>

ゲーム形式の練習をしているときに、同じチームのサモア人が「とにかく前に行けばいいよ!」とアドバイスしてくれた。そのときは、おもてなしの精神でゴールを決めさせてくれるのかなと思っていたが、実際ゲームをし始めると、全員がフォワードのポジションについていた。そのときはこれがサモアのチームの戦術だと思っていたのだが、杉山さんの「協調性が弱いので、チームプレイが苦手。だから戦術が通らない。」という話を聞いた時に、こういうところでもサモア人の気質が表れるのかと気づいた。

また、サモア人の気質から楽しむことが優先されるため練習をなかなか真剣にしない、身体能力は高いが持久力がなかったり繊細さに欠けたりする、ということも分かった。なかなかサモアのサッカーのレベルが上がってこない理由が垣間見えた。

<個人の考察>

サモアのサッカーの「最大の課題点」は「プロリーグを作ることができない」ところにあると考える。プロリーグがあれば、「サッカー選手」という職業ができる。つまりサッカーでお金を稼げるようになる。サッカーでお金が稼げるようになると、サッカーを一生懸命する人が現れるだろうし、海外に人材が流出していくことも抑えられる。その結果、サモアサッカーのレベルが上がっていくと考えられる。すると、さらにサッカー人口が増えて好循環を迎えられるようになる。しかし、その「プロリーグを作ることができない」原因にそもそも「人がいない」という課題がある。また産業がないという課題点もサモアは抱えているため、プロリーグを支えるスポンサー企業も出てきづらいという状況が同時に存在している。そのことから改善の難しさを感じた。だからこそ、JICAは人を派遣してサモアサッカーの質を改善するところからテコ入れしていることに納得できた。

記 田野 健(石川県金沢市立鞍月小学校)



サッカー協会事務所にて



サモア代表選手との練習



集合写真

サモアのごみ問題

研修日 3日目 2019年8月15日(木)

訪問先 タファイガタごみ処理場

<訪問先でのプログラム内容(概要)>

環境省で働くサモア人スタッフ及びJICA専門家から本プロジェクトについてオフィスで説明を受け、そしてその後現地へ向かった。

ごみ処理場の入り口にある積載量計測橋にて、持ち込まれるごみの計量方法や種類、量、料金などについて説明を受ける。次に、植物性廃棄物を処理するためのコンポスト化プラント用敷地(まだ未建設)を見学し、またごみを廃棄する埋め立て地にて、処理場の現状や課題について話を聞いた。最後に、埋め立て地から出る汚水を処理する貯水槽を確認し、視察を終えた。

<訪問して学んだこと>

2010年よりJICAは、大洋州地域の廃棄物削減に向けた取り組み、J-PRISM(現在はフェーズⅡ2017年～2022年)を行っている。しかし、依然としてごみの量は減らず、2005年より30年間の予定でごみの埋め立てを行っているこの処理場は、期間の半分を待たずして埋め立て地の拡張を開始していた。ごみの山を見つめながら、このままではあつという間に処理場はごみで溢れかえり、処理能力もあつという間に限界を迎えてしまう、そんな不安と焦りを感じた。

サモアのような小さい南の島でもこれだけ深刻な状況にあると分かった。一つの国家や一つの地域のみでは解決できない喫緊の課題だからこそ、世界全体がその削減と処理にあたらなければならない、そう改めて感じた。

<個人の考察>

サモアではこれまで、昔の生活習慣からごみ処理への意識が低く、自然分解しない物もあちらこちらでポイ捨てしてきたそう。実際にポイ捨てされたゴミを色々な所で目にした。しかし、環境省のスタッフとJICA専門家の地道な取り組みにより、ごみに対する人々の意識は徐々に変わりつつあるようだ。また、島を取り囲む海の環境を守るため、サモアは今年から他の大洋州地域と同様にプラスチック袋の使用を禁止した。彼らの海を汚しているプラスチックは、彼ら自身が出したものより、日本などの環太平洋の先進諸国からのものの方が圧倒的に多い。にもかかわらず、まず自分たちから行動し始めていることに自然環境に対する彼らの愛を感じた。我々日本人も、早く彼らを見習って国としての取り組みを始めるとともに、ごみ問題に国民一人一人が真摯に向き合い自らの生活様式を変えていくべきだろう。アクションを具体的に取り組むべき時が既にきていると思う。

記 高津 和幸(福井県立福井特別支援学校)



ごみの量を計測できる橋



ごみ処理場(埋地)のごみ



汚水を処理する貯水槽

サモア唯一の国立博物館が担う役割とその価値

研修日 3日目 2019年8月15日(木)

訪問先 サモア国立博物館

サモア国内における唯一の国立博物館が、サモア国立博物館である。「国立博物館」と聞くと、何階建てにもなった大規模で立派な建物を想像するかもしれないが、サモア国立博物館は5つの展示室からなる2階建ての小さな博物館である。ただ、入り口から展示室に向かう階段の壁にはサモアの歴史を辿った写真の数々が展示されており、階段を上りながらサモアの歴史を学べる工夫がうかがえた。この日は学芸員であるアリナさんに館内を案内してもらい、様々な話を聞くことができた。

アリナさんによると、サモア国立博物館の展示品の多くは寄付によるものだそうだ。しっかりと体系的に整備された展示版や展示棚は、ニュージーランドを経由して整理されたものである。サモアの人々は伝統的に口承によって歴史や民話などを受け継いできた。そのため文字による伝承はあまり残っておらず、様々な文献を整理する方法も普及してこなかった。一般的な博物館の展示の多くは文字による説明が不可欠だが、こうした文化的背景からサモア国内だけで整備するには限界があったのだ。このように、何気ない展示であっても、サモアの文化的背景を踏まえるだけで見応えがあった。

また、サモアには植民地支配を受けていた歴史がある。1900年頃から第一次世界大戦中はドイツによる統治を受け、ドイツの敗戦後はニュージーランドによる統治を受けた。その間に先住民と欧米人との混血が進んだ。さらにニュージーランド統治時代からは中国人の流入も急増し、現在では人口全体の約4分の1が中国系との混血だという話もあった。ただ、アリナさんによると、たとえ混血が進もうと、国民の多くが「サモアに生きる者はみなサモア人だ」という認識を持っているそうだ。また、植民地時代には「Mau」という団体が独立運動を展開しており、その言葉の意味が「私たちはサモア人」であることから、昔から1つの国民としての結びつきが強いことがわかる。一方で日本はサモアほど混血が進んでいないためか、仮にある人が日本国籍であっても「ハーフ」や「純日本人」という言葉があったり、いわゆる「日本人でない」外見の人に対して好奇な目で見ることがあったりする。日本人は、一個人のルーツの違いに対して少し敏感であるように思う。アリナさんの説明によって、日本とサモアの間には、自分と同じ国に生きる人々に対する認識の違いがあることがわかった。さらに興味深かったのは、「サモア人の祖先がどこからやってきたのか」、に関する3つの説である。1つは、東南アジアからサモアに渡ってきたとする説。2つ目は、南アメリカから渡ってきたとする説。そして3つ目が、創造神である「Tagaloa (タガロア)」によって祖先が造られたとする説である。Tagaloaはサモアをはじめとするポリネシア地域で信仰されている神の1つで、ディズニー映画「モアナと伝説の海」の冒頭にも曲の中で登場していることで知られる。科学的な2つの学説と民間信仰による伝説が並存していることも、サモアならではのユニークな歴史認識ではないかと感じた。

以上のこと以外にも、サモアの歴史や文化について数多くのことを学ぶことができた。その意味で、たとえ小規模であってもこの国立博物館が担っている役割は非常に大きい。また、昨年度まで青年海外協力隊員としてこの博物館で活動されていた慶野さんが行っていた、段ボールで作った掲示物を展示したりワークショップを開催したりする企画は現在も継続されていた。隊員が去った後でも取り組みが残っていることから、本当に価値のあるボランティアをされていたとわかった。サモア国内の児童・生徒はもちろん、私たちのような国外からの入館者がサモアの歴史や文化的価値について知って広めていくために、これからもサモア国立博物館がますます発展していくことを願っている。

記 道海 颯太 (富山県立南砺平高等学校)



段ボールで作った掲示物



階段に掲示されているサモアの歴史に関する写真



2階建てのサモア国立博物館

「教員の質向上」で、負のスパイラルを断ち切りたい!

研修日 3日目 2019年8月15日(木)

訪問先 教育省(MESC)

<訪問先でのプログラム内容(概要)>

教育省にて、サモアで教員トレーニングを担当しているジェニーさんと、サモアと日本の教育について意見交換をした。ジェニーさんはとても熱心な方で、サモアの教育推進のために、日本から来た私たちの意見に熱心に耳を傾けてくださった。

<訪問して学んだこと>

①優秀な人材の海外流出に伴う、教員の質の低下について

サモアの教育課程は5歳児から始まる。Primary School(小学校)が8年間、College(中高等学校)が5年間である。その後にUniversity(大学)に進学するのは1割未満で、Universityに行ったとしてもその後は海外で働くことが主流となっている。なぜなら、サモアには学力を必要とする高収入な仕事がないからだ。サモアには優秀な人材が残らないので、教員の水準も必然的に低くなり、そして子どもたちに良い教育を与えられず、結局Universityに行くのは1割未満で・・・という負のスパイラルが起きている。

②サモアの教員の実態について

前日に見学させていただいたアアナ No2 College で校長先生がいないことを理由に教員が来なかったり、授業であっても指導や助言をしなかったりする教員の現状があったので、それについて意見交換をした。校長と連携し、ワークショップを開催したり面談を実施したりして、サモアの目指す教育カリキュラムや教員のあるべき姿を学校側に伝える努力を教育省は行っているようだ。しかし、たいていの現場の教員は、それを実行しない。理由は、基本的にサモアの教員には教員という仕事に対する意欲がないからだそうだ。(もちろん、意欲のある教員もいる。)意欲がない背景には、給料の安さが主原因としてあるようだ。教員になっても割に合わないという、すぐにやめてしまうことも多く、教員不足にもつながっている。

③英語を学ぶことについて

サモアは小さな島国なので、外国と関わらなければ生活していけない現状がある。そのため、サモア語の他に英語も話せなければならない。前日に訪問していたマノノウタ Primary School の校長先生は、サモア語と英語、両方を同時に教えることの難しさや読み書きが定着しないという課題について話されていた。ジェニーさんも幼いころから授業が全部英語になるという現状に対して難しさは感じていたが、国として仕方がないことだと考えておられた。ただこのような状況があることから、教育省としても二言語を使いながらも子供たちが学べるよう、どのように授業を進めれば良いのかを教員に理解してもらうためのワークショップなどを開催しているという。教員が学べるような環境を整えることにも注力されていると分かった。

<個人の考察>

意見交換の中で、ジェニーさんは「良い教員をつくるのが良い人材を育てることにつながる。良い人材が国をつくっていくので、まずは教員の質をあげたい」とおっしゃっていた。私は、この考え方にとっても共感することができた。日本の発展の根底には、優秀な人材を育ててきた徹底した教育があったからだ。サモアの教育における負のスパイラルをとめるためには、教員の質の向上に焦点をあてた支援が必要だと考える。今後、教育分野に先進国の支援が重点的に入るとよいのではないだろうか。支援を得て教員が変わっていけば、好奇心が旺盛な子どもたちは学ぶことの楽しさを知り、自ずと優秀な人材へと成長するだろう。そのとき、子どもたちはたくさんの将来を選択できるようになるのではないだろうか。

ジェニーさんとの意見交換を終え、私は日本で教員をしていることに誇りを感じる事ができた。なぜなら、授業を通して子どもたちに楽しく学ばせることができているだけでなく、子どもたちの成長を日々の学校生活の中で自分が実感できているからだ。サモアの教員は、残念ながらまだその喜びを知らない。だから給料にしか魅力を感じず、教員の意欲が低いだろう。教員という仕事の魅力がサモアの人たちにも分かってもらえるようになると嬉しい。

記 大村 弥生(福井県福井市社西小学校)

気候変動と自然災害

研修日 3日目 2019年8月15日(木)

訪問先 気象局

<訪問先でのプログラム内容(概要)>

- ・気象局内の施設見学、活動見学
- ・CEOとのディスカッション
- ・JICA ボランティアとの意見交換

<訪問して学んだこと>

- ・気象局は、天気予報、気候、津波・地震、オゾンに関することを扱っている。
- ・JICAの無償支援により整備された、国内に10基ある観測機で気象を5分から10分おきに観測し、分析・モニタリングしている。
- ・国民への周知は、気象局のウェブサイトが一番の発信源としつつ、TV・ラジオ・Facebook・気象アプリ・新聞・避難を促すサイレンなども活用している。タイムリーに情報を流すことに注力している。
- ・国民が1番恐れているのは、津波である。2009年に突然やって来た津波とその被害規模(約100人死亡)から恐怖心を抱くようになり、その結果災害意識が高まった。2番目に恐れているのはサイクロンである。サモアでは国全体を覆ってしまうくらいの規模のサイクロンも起こりうる。国へのダメージが大きく、経済の崩壊にもつながるので恐れている。
- ・防災教育も行っている。地域のコミュニティに対する啓発活動や学校での出前講座を通し、防災教育に取り組んでいる。
- ・気象局が果たす役割は、国の農業、文化、観光、健康といった分野に深く関わっており、人々の命を守ること、さらには国を守ることにつながっている。

<個人の考察>

日本(JICA)の無償支援が途上国に大きな成功をもたらしたと感じた。JWA(日本気象協会)が作成したDVDを学校での防災教育に使用するなど、日本の手厚い支援とその貢献度の高さを改めて実感した。(ちなみに、ここの気象局の地震・津波レーダーは、東日本大震災時の揺れも観測していた。)

近年は、気候変動による被害が世界的規模で多発しているが、サモアも例外ではない。サイクロンの強度が増したり、スコールが頻発したりするようになったという。気候変動はまさに地球規模で解決していく問題であり、日本でも気候変動をはじめとする環境問題や防災に対して意識を高めていく必要がある。

自分たちの国で行っていることが他の国にも影響を及ぼしていることを知り、そしてそのことについて自ら考え、最後はより良い未来のために行動を起こす。そんな風に動ける生徒を育てていきたい。そのためには先ず私たち教員が正しい知識をもつ必要がある。そして、生徒とともにこの課題に向き合い、取り組んでいく姿勢をもたなくてはならないと考える。2年生の総合的な学習の時間や3年生の英語の単元(Unit4)をベースに、教科横断的なカリキュラムを作成し、当事者意識を持てるような課題を設定する予定である。

記 上谷 由喜(石川県かほく市立河北台中学校)



気象を予測するシステムが日本の支援により導入された



気象局で働くスタッフと一緒にパチリ

人材育成が望まれるサモアの特別支援教育

研修日	4日目 2019年8月16日(金)
訪問先	ロトマファイソサエティ(障害児者施設)

<訪問先でのプログラム内容(概要)>

ロトマファイソサエティCEOの方と理学療法士として活躍する笹島隊員の案内で施設内を見学した。様々な国からの支援によって学習用具、補助具、水治療用プールなどが整備・導入されていた。Child Protect Officeでは、専門のカウンセラーが常駐しており児童生徒を虐待から守るための機能を担っていた。教室は、障害別ではなく年齢別にクラス分けがされており、それぞれのクラスで子どもたちが、各自の課題に取り組んでいた。また、布製品や彫刻などを作成する職業訓練場もあり、生徒たちがバザーなどの催しで販売するために製品の制作に励んでいた。笹島隊員は知識を活かし「遊びを通じた学び」で子どもたちの支援にあたっていた。周りのスタッフたちからの信頼も厚かった。

<訪問して学んだこと>

サモアには日本の特別支援学校のような公立の障がい児者向けの学校がなく、またサモアの障害児者施設が受けられる政府からの公的支援はわずかである。そのため、学校は主にNGOや外国からの支援で成り立っている。なのでロトマファイソサエティが運営しているスクールバスや配布されている文房具は無償で利用できるようになっていた。

スタッフは学校で活動するだけでなく、村を巡回し学習指導やリハビリ指導なども行っている。だが、特別支援教育に関する知識を有する専門家はこの学校にはほとんどいないというのが現状だ。従って、障害に合った支援は十分ではない、という現実がある。CEOのお話の中でも、サモアの特別支援教育に係る課題が多く示された。サモアではまずそもそも普通教育に課題が多いため、特別支援教育への公的支援はなかなか進まないこと。また、障害を持った子どもは過去に行ったことへの罰や呪いから生まれてくる、と考える習慣がサモアにはあることから、家の中に子どもを隠し施設に来させないこともあるそうだ。職業訓練を行っても、卒業後就職できる生徒はほとんどいないという現実もあるという。しかし教室の掲示物や子どもたちの笑顔、働く人たちの穏やかな表情からは、当施設にいるひとりひとりへの愛情を感じた。

<個人の考察>

外国からの支援によってもたらされた設備や物資は、活用されているものとされていないものがあった。サモアはゴミ、廃棄物処理の問題も抱えているため、外国で不要になったものをただ送るのではなく、現地のニーズと照らし合わせて無駄のない、使う人を思いやった支援を考えなければいけないと感じた。

特別支援教育に関しては、専門知識を持った人材の育成が早急に求められる。障害の把握は、その生徒の未来、命に関わることである。研修全体を通して支援のあり方に関して考えることが多かったが、命に関わる支援は第1優先に行われるべきだと私は考える。そのような現状で、笹島さんのような知識を持った隊員が果たす役割は大きく、大変意味のあるものだと感じた。そして、教育現場で働き、様々な知識を身につけられる環境にいる私たちだからこそできることもあると感じ、特別支援教育に問題を抱える国々に対してできることを還元していく方法を模索していこうと思った。

記 米澤 みのり(富山県立上市高等学校)



教室の掲示物



生徒が作成した彫刻作品



遊びを通してのリハビリ

世界で活躍する日本人から学ぶ

研修日	4日目 2019年8月16日(金)
訪問先	JICA事務所 (JICA ボランティア中間報告会)

<訪問先でのプログラム内容(概要)>

JICA事務所にて行われた、JICA ボランティア中間報告会に参加させていただきました。中間報告会では田中さん(小学校教育)、林さん(障害者・児支援)、佐藤さん(獣医・衛生)、飯沼さん(コミュニティ開発)の活動内容や感じた課題、今後の目標などについてお話を聞くことができました。

<訪問して学んだこと、個人の考察>

これまでの研修でも感じていたことではあるが、JICA ボランティアの方々の活動を実際に肌で感じる事ができたので、大きな感銘を受けた。それぞれ隊員の方々は、担当している分野における困難を解決、支援するために様々な努力を行ってこられた。元々期待・要請されていた支援活動における困難の他に、隊員の前には、言葉の壁、文化の壁が活動の中で立ちだかっていた。どの隊員の方々も、その中でもがき苦しみながらも、現地の人々に寄り添い、様々な取り組みを行い、そして協力を続けることで問題の解決に向かっていった。

今回の訪問を通じて、協力隊の活動、国際間の支援を少し身近なものとして感じる事ができた。その中で私は1つの考えに達した。スケールの大きな国際的な支援も草の根レベルの支援もそして私達が行う教育も大切にすべきことは変わらないということである。スケールの大きな国際間の支援も学校教育も、相手、自分をよく知ることがまず第一歩である。そして支援相手(教育では子どもたち)にどうなってほしいのか、または相手はどうなりたいのか、というニーズを踏まえてから、方策を考え、相手の手助けになることを実践する。このことがとても大切になると考えるに至った。

また、協力隊の方々の活動を考える中で、国際的に活躍する人材、グローバル人材について考えさせられた。これまでは国際的に活動する人といえば、自分とはかけ離れた雲の上の人という認識であった。しかし一人一人にお話を伺うと、共通して人と人とのつながりを大切にしている姿勢があることに気付いた。私は教育に携わる者の一人として、グローバル化が進んでいく社会で生きる子どもの育成にこれからも関わっていく。その子どもたちには、人と人との関わり、自分そして相手を大切に思う姿勢を持ってもらいたいと思う。

最後に、海外のとても困難な状況下で活躍する協力隊員の活動が、私に大きな感銘を与えたように、多くの子供達にも大きな感銘、誇りを与えてくれると思う。今回学んだことを教育の題材として取り上げ、多くの子供達に未来を切り開くきっかけを与えたいと思う。

記 村本 宗将(石川県立医王特別支援学校)



中間報告会 小学校教育 田中さんによる発表



中間報告会 障がい児者支援 林さんによる発表

サモア流のおもてなし

研修日	5日目 2019年8月17日(土)、6日目 2019年8月18日(日)
訪問先	ホームステイ(サポエ村・ウトゥラエラエ村)

<訪問先でのプログラム内容(概要)>

午前中に村に到着した後はそれぞれ各家庭に入り親睦を深めた。(あいにくの雨で予定されていた歓迎セレモニーは中止となった。)私がお世話になったファミリーは、店を営んでいたため、日課であるパン配達に同行させてもらい、昼食にはカップラーメンをご馳走になった。その後は近所の子供達と共に、美しく透き通った海で一緒に泳いだ。

夕方6時半になるとキリスト教の教会の鐘が鳴った。この鐘が、家の中へ入れ、という知らせだという。店も一旦閉店した。約10分後、再び鐘が鳴り、外出許可の知らせとともに再びホストファミリーは店の営業を始めた。

翌日は日曜日だったが、サモアの日曜日の朝は早く、村人たちは早朝からサモア伝統の「ウム料理」の準備に取りかかっていた。軽い朝食を終えるとすぐ、男性も女性も白い衣装に着替え支度をし、教会へ向かった。聖書を持った人々が次々と教会に集まり、9時にミサがスタートした。初めて耳にする賛美歌の歌声は大変美しく、そしてすばらしかった。今でも耳に残っている。1時間ほどお祈りをして帰宅すると、タロイモやバナナなど、たくさんのウム料理をご馳走になった。食事前には祈りを捧げ、年長者から順に食べていった。それがサモアのしきたりである。最後に私たち参加者全員が集めたお宅では、ココサモアという伝統の飲み物が振る舞われた。輪になり、お別れの歌をうたってくれたときは心が温かくなった。

1泊2日というわずかな時間の中でも、各家庭で気持ちの込められたサモア流おもてなしを堪能することができた。

<訪問して学んだこと>

一つ目は、年長者を敬う文化が根強いことである。食事においては、大人が食事を済ませてからでない子どもは席につけない。大人が食べているときは、子どもが飲み物を運び、食事が終わると手洗い用の水が入ったボウルとタオルを用意し持ってくる。大人が食事を終わると、子どもがその食器を片付け、ようやく食事にありつく。だが、子どもは大人が残したものを食べる。

二つ目は、村という大きな家族の中で子どもが育つということである。日本では母親の育児負担が大きくなりがちだが、サモアでは赤ちゃんを世話するのは母親だけではない。同じ村に住む親戚も自分の子どものように他の家の赤ちゃんたちに愛情をそそぐ。核家族化する日本で失われつつあることがサモアでは日常である。

<個人の考察>

たった1泊2日のホームステイであったが、中身の濃いとでも充実した時間を過ごすことができた。事前にサモアの生活や文化について多少学んではいたものの、実際に現地の家庭で生活を共にしたことによって新たな気づき、学びが大いにあった。サモアの人たちは皆温かく、「外国人」の私たちを快く受け入れてくれた。サモア人と日本人、遠く離れた地で環境や文化は異なっても、この地球上で共生している同じ「人」に変わりはないということを実感した。

「外国人」だから自分と違うのではなく、日本の中でも、学校の中でも、クラスの中でも自分と全く同じ人はいない。「多様性を認め、受け入れる心」を自分の生徒たちにも伝えていきたい。

記 前川 麻耶(石川県白山市立白嶺中学校)



ぬり絵やリコーダーを楽しむ子どもたち



ウム料理の準備



最後のお別れ

現地研修報告会

研修日 7日目 2019年8月19日(月)

訪問先 JICA サモア支所

現地研修のまとめとして、サモアで得た学びやサモアが抱える課題を改善するための提言などが参加者から発表された。サモア支所からは、星野所長をはじめ、今回の研修に尽力くださったボランティア調整員の中埜さん、加藤さんが参加して下さった。参加者は「環境」「教育」の2つの視点から、それぞれの視察先で感じたことを報告した。

「環境」分野における日本の無償資金協力事業や技術協力事業の取り組みからは、日本の技術力の高さや日本への信頼を感じたという発表があった。例えば、既存のごみの埋立て地のキャパシティがあと数年ほどしかない、というごみの問題をサモアは抱えているが、そのごみ問題に対して JICA は長年廃棄物を削減していくための支援を行っている。一方で、日本をはじめとする諸外国からの支援がサモアの国や人々にとって当たり前になってしまっている状況もあることから、自立と支援のバランスを取ることがサモアのためにも重要だという見解が示された。そして支援は結果的に人の幸せにつながるべき、という考えから、それを実現するための支援を行う際は、人的支援にするのかそれとも物的支援を行うのか、はたまた長期的スパンで関わるのか短期的にサポートするのかといった、やり方と時間軸を捉えた視点が大切だ、という見解もあった。結びでは、関係国の一人として責任を持つことや、グローバル人材を育てる側の一教員として自覚を持たなければならないという意思が示された。

「教育」分野では、サモアの子供たちは好奇心旺盛で何事も楽しむことができるという魅力や口承文化の中で培った優れた聴覚を持っているという長所がありながら、現在のサモアの教育システムは、そうした子供たちの良さを生かしてきていないという発表があった。そうした現状を見た教員たちからは、日常生活と関連付けた授業や学習指導、聴覚を活かした学習方法(耳が良いので)などが取り入れられると、よりサモアの子供たちの実生活と実態に合った学習内容と学習方法になる、という提案があった。また、英語や算数といった一般的な学力だけでなく、人権教育や職業教育をサモアの教育システムの中で充実させていけば、さらに一人ひとりの人生設計に合った教育になると思う、という発表もあった。

最後に、星野所長とボランティア調整員の加藤さん、中埜さんからお言葉をいただいた。日本の教育のプロフェッショナルとして、サモアで活動する隊員が今すぐできることを伝えるなど、日本とサモアが相互に高めあえるようにしてほしいとのメッセージがあった。また、今回の研修で学んだことを帰国後日本の教育現場で生かしてほしいとのエールをいただいた。研修全体を通し、参加者の皆さんの国際協力の現場で活躍する方々と積極的に交流する姿、またサモア人と一緒に楽しく過ごそうとサモアの風土になじむ姿が印象に残った。肌で感じ、頭で考えたことを今後学校で実践していく授業に生かしてほしいと感じた。

記 吉田 詩甫子 (JICA 北陸 富山県デスク)



発表の様子



実践授業報告

先生方が作成したワークシートや略案のデータを、
今後 JICA 北陸のウェブサイトで公開する予定です。

お互いを知って、仲良くなろう

氏名	大村 弥生	学校名	福井県福井市社西小学校
担当教科等	小学校 全教科	対象学年(人数)	4年生 (33名)
実践期間(時数)	令和元年 10月～12月 (8時間)		

実施概要

01 | 実践する教科・領域

道徳科 (外国語活動、社会科とも関連させて実践)

02 | 単元(活動)名

お互いを知って、仲良くなろう

03 | 授業テーマ

授業テーマ

「お互いを知って、仲良くなろう」

単元目標

- ・誰とでも良い関係を築きたいと考えることができる。
- ・多様な人と関わるためには、相手を知ることや自分のことを知ってもらうことが大切だと理解することができる。

関連する学習指導要領上の目標

- B 主として人との関わりに関すること「相互理解、寛容」
- C 主として集団や社会との関わりに関すること「国際理解、国際親善」

04 | 単元の評価規準

① 知識及び技能	<ul style="list-style-type: none">・世界には様々な国があり、日本とは違った生活や文化があることを理解している。・私たちの生活は、世界の国々や人、物を通して密接に関わっていることを理解している。
② 思考力、判断力、表現力等	<ul style="list-style-type: none">・他者との関わりについて考えている。・自分のことを伝えたり、相手のことを知ろうとしたりしている。
③ 学びに向かう力、人間性等	<ul style="list-style-type: none">・世界の人々の生活や考え方は日本とちがうことについて理解し、受け入れようとしている。・学級の友達と自分においても、生活や考え方がちがうことについて理解し、受け入れようとしている。

05 | 単元設定の理由・単元の意義

【単元設定の理由】

最近、グローバル化を感じる機会が増えた。近所のお店や工場には外国人が増え、学校にも他国籍の児童が増えている。企業は利益を求めて海外進出を始めており、海外で働く人も増えている。児童が外国人と関わらなければならない機会はすぐに巡ってくるだろう。そのとき、外国と日本は生活や文化が違うということを知っていたり、外国人とどのように関わると良いのか知っていたりすることはとても大切だ。同時に、相手を理解したい、自分を理解してほしいという姿勢も必要不可欠だろう。その姿勢を、学級の良好な人間関係作りにもつなげたい。このことから、今回の単元を設定した。

【単元の意義】

グローバル化が進む島国日本において、国際理解教育は必要不可欠である。また、小学校のころから、外国について学んだり、外国人とどう関わるか考えたりすることは、多くの日本人が抱えている外国人に対する苦手意識をなくすことにつながるだろう。

日本人は、自分をアピールできなかつたり、思っていることを我慢して相手に伝えなかつたりすることが頻繁にある。今求められているグローバル人材とは、ほど遠い実態だ。本単元で、相手を知るだけでなく、相手に自分を知ってもらおうという態度を育てることは、児童が将来生きていく社会の中で役に立つだろう。

【児童 / 生徒観】

本学級の児童は、明るく元気で、活発な児童が多い。好奇心が旺盛なので、とにかく知りたい、やってみたい、という意欲が高く、そういった学級の雰囲気がある。児童にとっては身近ではない世界についての学習であっても興味をもって考えることができるだろう。また、思いやりに溢れた児童たちなので、相手の立場に立って深く考えることができるだろう。

その反面、初対面の人と関わろうとしない様子が度々見られる。初めて出会う人に対しては、挨拶ができず、積極的に関わろうとしない。活発さや好奇心が発揮されるのは学級の中だけだ。本単元を通して、積極的に人と関わろうとする人間性を育て、高学年になったときに上手に低学年と関わり、まとめ上げる存在になってほしい。

【教材観】

道徳科の「国際理解、国際親善」「相互理解、寛容」の価値を学ぶために、本単元の「お互いを知って、仲良くなるう」というテーマを設定した。世界には日本とは違った生活や文化があることを理解したり、人との関わり方についての考えをもったりできるようになるだろう。また、福井県にある他国籍児童が多い小学校を例に挙げたり、外国から来た身近な物を見つけたり、教師の実体験に基づいた情報を使ったりして単元を進めることで、世界をより身近に感じさせることができるだろう。

【指導観】

本単元の導入で大切なのは、児童に外国のことを学ぶ必然性をもたせることだと考える。そこで、福井県にある他国籍児童が学級に多くいる学校を紹介することで、自分たちに身近な問題として意欲的に学習に取り組ませたい。それによって外国人とどのように関わっていくか考えることができるだろう。また、単元の終末には「外国人と日本人」という曖昧な関係から「学級の友達と自分」という身近な関係に切り替えて、深く考えさせる。本単元を通して、「外国人」や「友達」という他者とよりよく関わっていきたいという態度を育てることができるだろう。

06 | 単元計画 (全8時間)

時	小単元名	学習のねらい	学習活動	資料など
1 2	身の回りには世界があふれている	私たちの生活は、物や人を通して、世界の国々と密接に関わっているのだと理解させる。	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りの物が世界の国々と関わっていることを知る。 日本との関わりによって幸せになっている世界の人々がいることを知る。 日本との関わりによって不幸になっている世界の人々がいることを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> パワーポイント ワークシート
3 本時		<ul style="list-style-type: none"> 世界の人々と関わらなければならない時代になってきているのだと気づかせる。 誰とでも良い関係を築いていこうとする態度を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 福井県内に他国籍児童が多い小学校があることを知る。 自分の学級に外国人がいたらどう思うか、どのように関わるか考える。 他国籍児童の気持ちを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> パワーポイント 教材「読字の大切さ」「会話が聞き取れないことによるコミュニケーション困難」 資料「異なる容姿からいじめにあった生徒」
4 5	人との関わり方を考えよう	相手のことを知り、また自分のことを知ってもらおうという態度を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> 教師が現地でどのようにサモアの人と関わったかを知る。 外国人と上手に関わるためのコツを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> パワーポイント
6	学級の友達と改めて関わろう	学級の友達との関係をふり返らせる。	<ul style="list-style-type: none"> 身近な“ちがう人”である学級の友達と関わり、どのくらいのことを知っていて、知ってもらっているか伝え合う。 	
7 8	友達に、自分を理解してもらおう	相手を知り、自分を知ってもらおうことの大切さを感じさせる。	<ul style="list-style-type: none"> 自分の魅力や苦手なところ、どう関わってほしいかを「トリセツ」に書き、伝え合う。 友達とどう関わっていこうか考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート

07 | 本時の展開（3時間目）

本時のねらい

- ・誰とでも良い関係を築いていこうとする態度を育てる。
- ・世界の人々と関わらなければならない時代になってきているのだと気づかせる

過程時間	教員の働きかけ・発問および学習活動・指導形態	指導上の留意点（支援）	資料（教材）
導入 (5分)	・福井県内に他国籍児童が多い小学校があることを知る		・パワーポイント
展開 (35分)	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の学級に外国人がいたらどう思うか、どのように関わるか考え、発表する。 ・他国籍児童の日常を体験させる。 <ul style="list-style-type: none"> ① 文字が読めない ② 何を言われているか分からない ・資料を読み、他国籍児童の気持ちを知る。 	・児童の素直な気持ちを大切にす。	<ul style="list-style-type: none"> ・3種類の水 ・外国語による学習指示 ・資料「異なる容姿からいじめにあった生徒」
まとめ (5分)	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の学級に外国人がいたらどう思うか、どのように関わるか再度考え、発表する。 ・福井県内の他国籍児童が多い小学校の先生の想いや願いを知る。 ・感想を書く。 		・メッセージをよむ

08 | 評価規準に基づく本時の評価方法

不安を感じながらも、誰とでも良い関係を築いていこうと考えているかどうかを、ノートの内容や発言を通して評価する。

09 | 学習方法及び外部との連携

- ・他国籍児童が多い学校の紹介

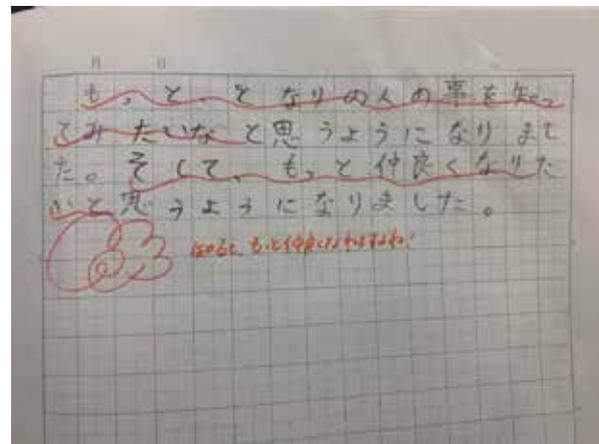
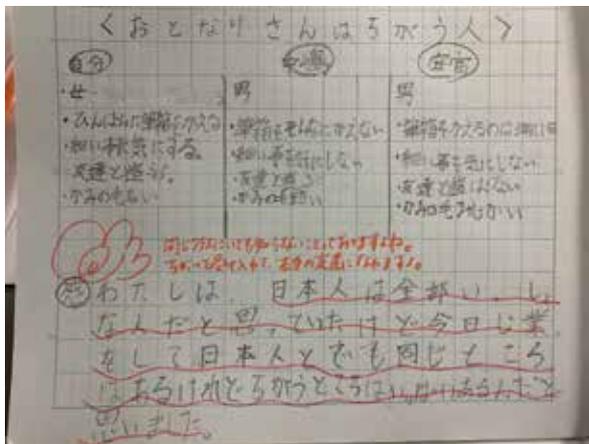
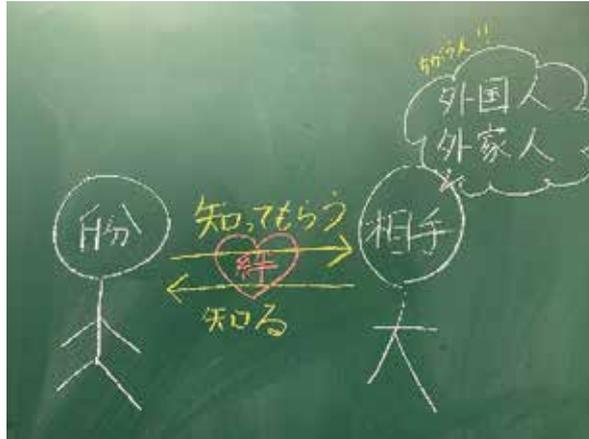
外国人と関わらなければならない状況を身近に感じてほしかったので、県内の小学校の現状を紹介した。また、その学校の校長先生から、児童へのメッセージをいただいた。メッセージを届けることで、児童にとって身近な問題であることを強調できると考えた。

10 | 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組

- ・担当学年での授業
- ・校内教員に向けての研修

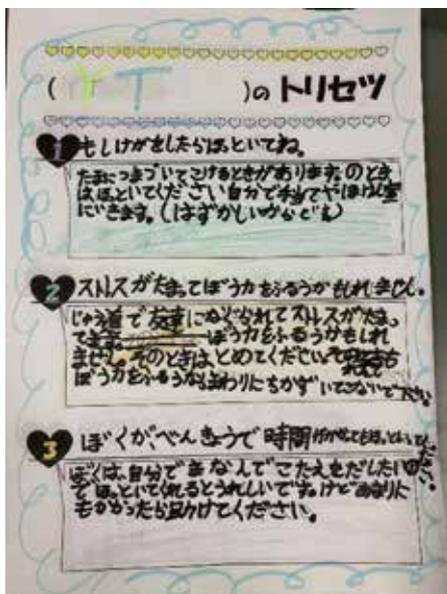
〈第6時「クラスの友達との関わりをふり返ろう」〉

何でも知っていると思っていた友達も、自分と全然違う生活や価値観を持っていることを知り、驚いていた。友達ともっと関わってみたいという意欲が高まった。



〈第7時、8時「トリセツを書いて自分のことを知ってもらおう」〉

2年間一緒にいる友達に自分のことをもっと知ってほしい、相手のことをもっと知りたい、という気持ちが伝わってくる実践であった。人間関係で悩んでいる児童が素直に自分の弱さを伝えるなど、赤裸々に語る姿が印象的だった。授業後は、トリセツの願いをかなえようとしている児童の姿が見られた。



● 担当クラス以外での実践・報告について (内容・対象人数)

- ・所属校の職員会議で研修内容を報告 対象人数：教員25名
- ・他教員による国際理解授業参観 対象人数：教員数名
- ・同学年他クラスで実践授業を2時間実施 対象人数：33人

● 授業者による自由記述

教師海外研修では、本当にたくさんの視点から国際理解について学び、考え、それらを現地の方々や共に参加した仲間たちと共有し、深めることができた。しかし、その学びを授業に落とし込むことは容易ではなかった。研修前の段階から“人との関わり”に視点を置いて授業作りに取り組みようと決めていたが、研修でたくさんの視点に触れ、子どもたちに伝えたいことが増え、迷うこととなった。今ふり返ると、国際理解教育に対する理解や学びが事前に足りなかったのだと感じている。しかし、その悩んだ時間はとても大切な時間であった。悩む中で、自分が本当に子どもたちに伝えたいことは何なのか、視点を絞っていくことができたからだ。そして結局は、“人との関わり”の視点から実践に取り組むことに納得することができた。

今回、研修に参加した教員は、研修に参加していない先生方も実践できる授業を作ろうと努力をした。しかし、この授業に取り組むためには、自分なりの国際理解に関する知識や考えをもっていなければならない。その土台があつてこそ、今回研修に参加した教員の思いが詰まった授業が本当の意味で実践できるのではないだろうか。

【参考資料】

作文「異なる容姿からいじめにあった生徒」

JICA 国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト

2017 年度 独立行政法人 国際協力機構 北陸支部長賞 受賞作品

https://www.jica.go.jp/hokuriku/enterprise/kaihatsu/essay/ku57pq00000j5uv1-att/essay2017_j01.pdf

【資料 (教材)】

パワーポイント

クラスに7人います 何のことだろう？

1



2



3



クラスに外国籍のお友達が7人います！
となりのとなりの市での話です！

4

日本語を話せる子もいるけれど・・・

基本は、**ポルトガル語**

日本人側の立場だったら・・・どうする？

5

始

今のあなたの気持ちはどちらですか？

すすんで関わりたい できれば関わりたいくない

6

まずは、外国籍の子どもたちの立場を体験してみよう！

お腹がいたくなつた時
どれを、飲む？

読めない文字 体験編

① ② ③

毒(どく) 水 薬

タイ語やアラビア語など、子どもが読めない文字を「水色枠」に入れ、読めないと日常生活にも困ることを体験させる。

参考文献：特定非営利活動法人 国際教育協会/DEAR

7

まずは、外国籍の子どもたちの立場を体験してみよう！

聞き取れない言語 体験編

何て言ってるのでしょうか？

中国語など、子どもが聞き取れない外国語をスマホなどで流し、先生が何を指示しているかあててもらう。言語が聞き取れないと、授業についていくのが難しいことを体験する。

8

まずは、外国籍の子どもたちの立場を体験してみよう！

容姿の違い 実際にあったこと編

こんなことがあったの

容姿の違いからいじめにあった外国籍の生徒の作文を読む。どんな気持ちになるかを想像させる。

作文：JICA国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト
2017年度 独立行政法人 国際協力機構 北陸支部長賞 受賞作品

9

今

色々なことを知った今、あなたの気持ちはどちらですか？

関わりたい 関わりたいくない

10

どうすれば関わられますか？



11

世界の未来と日本の役割

氏名	田野 健	学校名	金沢市立鞍月小学校
担当教科等	全科	対象学年(人数)	6年1組 (36名)
実践期間(時数)	令和元年12月5日～18日 (7時間) / 本時: 12月12日 (木) 5時間目		

実施概要

01 | 実践する教科・領域

社会 (公民)

02 | 単元(活動)名

世界の未来と日本の役割

03 | 授業テーマ

授業テーマ

「日本や国際連合加盟国による国際協力の実際と我が国の責任」

単元目標

我が国の国際交流や国際協力の様子、国際連合の働きを調べ、世界平和の大切さと我が国が世界において果たしている重要な役割について考えるようにする。

関連する学習指導要領上の目標

(3) 学習する問題を追及・解決する活動を通して、グローバル化する世界と日本の役割について次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 我が国と経済や文化などの面でのつながりが深い国の人々の生活は、多様であることを理解するとともに、スポーツや文化などを通して他国と交流し、異なる文化や習慣を尊重し合うことが大切であることを理解すること。

(イ) 我が国は、平和な世界の実現のために国際連合の一員として重要な役割を果たしたり、諸外国の発展のために援助や協力を行ったりしていることを理解すること。

(ウ) 地図帳や地球儀、各種資料で調べ、まとめること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力を身に付けること。

(ア) 外国の人々の生活の様子などに着目して、日本の文化や習慣との違いを捉え、国際交流の果たす役割を考え、表現すること。

(イ) 地球規模で発生している課題の解決に向けた連携・協力などに着目し、国際連合の働きや我が国の国際協力の様子を捉え、国際社会において我が国が果たしている役割を考え、表現すること。

04 | 単元の評価規準

① 知識及び技能	資料を活用して、平和な国際社会の実現に努力している国際連合の働きや我が国の国際協力の様子を理解し、それらに対し我が国が世界において重要な役割を果たしていることを理解している。
② 思考力、判断力、表現力等	国際協力の様子や国際連合の働き、平和や発展への人々の願いなどについて調べ、それらに対して我が国が世界において重要な役割を果たしていることを考え、それを適切に言語などに表現している。
③ 学びに向かう力、人間性等	世界平和の大切さ、我が国が世界において果たしている重要な役割の大切さを考えようとしている。

05 | 単元設定の理由・単元の意義

【児童 / 生徒観】

本学級は第6学年36名で構成されている。社会科の学習についてはとても意欲的で、それぞれの意見に対して批判的に考え、「質問」や「反論」をすることを大切に、討議をしながらこれまで学習を進めてきた。

本単元は本来、歴史学習を通して「国のための国民」ではなく、「国民のための国」へと変化してきたこと、そして「平和」を実現するために人々はどのような努力をしてきたのかということや、公民分野で三権分立や国民民主権を実現するための制度など、国の仕組みを学習し、日本のような先進国であるアメリカや韓国、中国などを学習して世界の多様性を知った上で学習する内容である。しかし今回は、太平洋戦争の敗戦までしか歴史を学習しておらず、まだ「国のための国民」で理解が止まっている。また、公民分野を一切学習しないまま本単元に入っているため、「国会」や「内閣」など、「国」が何たるかと言うことを十分に理解できていない。また、世界の多様性への理解が不十分である。そのため、そういった部分を配慮しながら単元構成をしていく必要があると考えている。

【教材観・単元の意義】

本小単元は、日本そして国際連合加盟国が世界の平和に対して重要な役割を果たしているということについて、広い視野から考えることをねらいとしている。グローバル化が急速に進展する現在の社会において、我が国の国際協力の様子や国際連合の役割を学習することは、これからいろいろな国籍の方たちと会うことになる子どもたちにとって、親善や理解を深めようとする態度や、地球人としての資質や能力、判断力を育成することができるという点でも意義深いと考えている。

【指導観】

ここで留意したいのは、この「重要な役割を果たしている」というのは、「成果」だけではないということだ。「重要な役割を果たしている」からこそ発生している「課題や問題」も取り上げていくことが、これからの世界の平和を担う子どもたちにとっては、重要な思考材料になると考えている。また、これはあくまでも「世界の平和」を学習する内容であるため、一か国だけを取り上げて学習するのは適切ではないと考えている。

そのため本小単元では、単元の序盤では「アジア」「オセアニア」「アフリカ」「中東」「中南米」「北アフリカ」が抱える問題点について学習し、その後、いくつかの国をピックアップし、具体的な問題点と、日本や国際連合加盟国が果たしている役割について考えられるようにしていく。今回は日本や国際連合加盟国の国際協力対象国として、サモアとグアテマラを取り上げ、国際連合加盟国としてはニュージーランドとオーストラリアとイギリスの取り組みを取り上げることとする。

06 | 単元計画 (全7時間)

時	小単元名	学習のねらい	学習活動	資料など
1		世界の貧困と貧困国の暮らしを知ることができる	<ul style="list-style-type: none"> 世界の貧困の実態を知る 貧困で苦しんでいる人が全人口の80%も居るんだ! <貧困で困っている国の人はどんな生活をしているのだろう?> 調べる ([資料1] 配布) 交流する 安い賃金で労働をしている 大人も子供も働いている 子供が学校に行っていない 日々の生活が大変そう ●こんな生活について、どう思う? 学校に行かなくていいな 大変そう… など <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 貧困国の貧困層の暮らし、生活状況は、なかなか過酷なんだな </div>	[ハゲワシと少女] [5歳未満の栄養不良の子供の割合] 絵本「おかえり、またあえたね」
2	世界の未来と日本の役割	貧困国の貧困の原因を知ることができる	<ul style="list-style-type: none"> <貧困国の国民は、どうしてこんな生活をしなくてはいけないんだろう?> 予想 戦争が原因じゃないかな 気候の問題じゃないかな 社会や政治の問題じゃないかな 検証 (貧困の原因を見つけよう!) アジア・オセアニア→政治 (古い制度)、紛争 中東・北アフリカ→紛争や戦争、政治不安定 ※石油産油国: 利益を求めて→色々な国の介入 アフリカ→紛争、厳しい自然 中南米→貧富の差が激しい <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 紛争や戦争・政治・自然環境・他国の介入が原因だ </div> <ul style="list-style-type: none"> 世界の平和や安全を守り人々の暮らしをよりよくするために「国際連合」が設立された <日本や国際連合は世界の平和や安全のためにどんな事をしているのかな?> 	[資料2]
3		日本などの国際連合加盟国がどのような国際協力をしているか知ることができる	<ul style="list-style-type: none"> 復習 世界の平和や安全を守り人々の暮らしをよりよくするための組織 = 「国際連合」 補足説明 日本政府が支援を行うための日本独自の組織 = JICA 日本政府や国連などの公的な機関に関係なく、個人的に支援している団体 = 「NGO」 <世界の平和や安全の実現のために日本や国際連合はどんな支援をしているのかな?> 	

		<ul style="list-style-type: none"> ・国際連合がやっていることをノートに書き出していく ・班で交流しながらグルーピングしていく（3つのグループにわけける） ・各班の結論を全員で交流 ※その際教師は「お金」「もの」「人」に最終的に集約できるように意図的に板書する <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>「人」と「お金」「物資」を色々な団体が支援しているんだな</p> </div>	[サモアの青年海外協力隊の方の写真]
4 本時	我が国の国際協力の様子を捉え、国際社会において我が国が果たしている役割を考え、表現することができる	<ul style="list-style-type: none"> ・復習 支援の方法「人」「もの」「金」 ・サモアの「障がい児」を取り巻く問題点共有 <サモアが抱える問題を解決するために、日本はどんな「人」を通した支援をしたのだろうか?> ・予想 教師を送って、「呪いではない」ということを教える 装具を作れる人を送ってものづくりの技術を伝える ・検証 理学療法士（リハビリ・トレーニング）だった リハビリをしたり、連携をしたり、ネットワークを作ったりしたんだな たくさんの子が救い出された 「呪い」という間違った考えを少し改善できたのでは ●笹島さんがサモアに起こした変化は良い面ばかりなのかな？ 障害のある子に必要な器具が、更に不足することに <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>理学療法士さんを送った その結果、たくさんの子が救い出された しかし、必要な器具が、更に不足することに・・・</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・「誰」と「任務」の両方を考えさせる。 ・「誰」「したこと」「問題解決したか?」という視点で検証 [笹島さんの写真] <p>[笹島さん：できること・任務・実際にやっていたこと・成果・課題]</p>
5	地球規模で発生している課題の解決に向けた連携・協力の難しさについて考えることができる	<ul style="list-style-type: none"> ・困っていたことを確認（復習） 子ども達のための補助器具が足りない ・国際連合加入国（NZとオーストラリア）の支援を紹介 <笹島さんが“物”の支援で困っているのはなぜ?> ・予想 数が足りないのでは？ お金を要求されるのでは？ 使えない物がたくさんあるのでは？ ・検証 支援元に資格と知識がないため私達の活動先では使用しない（できない）医療品などが送られてくる 送られてきた補助器具の中で実際に使えるものは50% おもちゃや教具の場合は80% ●でも、これって何が問題なの？ 	<p>[笹島さんの写真]</p> <p>[笹島さんのインタビュー]</p> <p>[プレゼン資料]</p>

		<ul style="list-style-type: none"> ・調べる ごみ処理場があと15年程度しか使えない ●“物の支援”をするときに大切なのはどんなこと? ちゃんとニーズを確かめる その国の状況をしっかり理解すること <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>使えない物や要らないものも入っていて、結果的にゴミ問題を抱えているサモアにとっては逆に負担になっている面もある 大事なのはちゃんとニーズを確かめることなんだな</p> </div>	[プレゼン資料]
6	世界の未来と日本の役割 国際社会が抱える貧困問題の根源について考えることができる	<ul style="list-style-type: none"> ・グアテマラの生活を知る これだけの支援をしているのに、「働いても働いても生活が苦しい」の!? ・グアテマラの基幹産業を調べる（地図帳） コーヒーだ! ・コーヒー生産国の多くが貧困国であることを確認 <どうしてコーヒー産出国の国民は働いても働いても生活が苦しいのか?> ・予想 コーヒーが安売りされてるんじゃないかな? ・検証 コーヒー豆の市場価格は決して安いわけではないということを確認 ・再検証 取り分が少なすぎる!その上、2回の価格暴落を経験し、さらに2013年にまた下がったとなると・・・ 富裕国がコーヒー原産国に正規の価格を教えずに、安い価格で買い取ってしまっているんだ ●実際、1%以下が原産国に行くとして、残りの99%はどこに行くと思う? →99%の内のほとんどが富裕国に入るんだ <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>利益のほとんどを先進国が搾取してしまっているから、利益が生産国へと回っていかないということが原因なんだな</p> </div>	<p>[グアテマラの生活]</p> <p>[世界のコーヒー生産量ランキング]</p> <p>[amazon コーヒー豆ランキング][スターバックス グアテマラコーヒー]</p> <p>[コーヒー危機ってなんだろう?]</p> <p>[グアテマラと日本GDP比較]</p>
7	世界の平和に対する日本の課題を知ることができる	<ul style="list-style-type: none"> ・フェアトレードを知る ・日本とイギリスのフェアトレード製品の価格比較 通常製品: € 2.00 (€ 1=120円 → 約240円) フェアトレード: € 2.20 (€ 1=120円 → 約264円) <日本のフェアトレード製品の値上げ幅が大きいのはなぜ?> ・予想 一個でたくさんの収益を生産者に送ろうとしているのでは?・・・日本人の優しさ 他国は他の製品でもフェアトレードを取り入れているからではないか 日本は遠いから輸送コストがかかってしまうのでは 	[普通のインスタントコーヒーとフェアトレードのインスタントコーヒー 価格比較]

	世界の未来と日本の役割	<ul style="list-style-type: none"> ・検証 みんなが買わないから高いまま =日本人が優しいのではなく、むしろ… ●貧困国のために私たちは何ができるのかな？ フェアトレードということを広めていくことが大切だ <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>日本の国際理解が遅れている だから、フェアトレードが進んでいない これから、買うときに値段だけでなく、その商品が フェアな商品なのかも考えていくことが大切なんだな</p> </div>	[資料を読んで]
--	-------------	--	----------

07 | 本時の展開 (4 時間目)

本時のねらい

世界の国が抱えた課題の解決に向けた日本の人的支援に着目して、我が国の国際協力の様子を捉え、国際社会において我が国が果たしている役割を考え、表現すること。

過程時間	教員の働きかけ・発問および学習活動・指導形態	指導上の留意点 (支援)	資料(教材)
導入 (5分)	<ul style="list-style-type: none"> ・復習 支援の方法「人」「もの」「金」 ・サモアの「障がい児」を取り巻く問題点共有 <ul style="list-style-type: none"> ①正しい知識がない国民が多いため「障がい者」を「呪い」だと捉えている国民が多い。だから障害のある子ども達の多くは家の中に隠されている。 ②障がい児が必要なトレーニングを受けられていない為 日常を過ごす上での基本動作ができない人が多い。 ③車いすや補聴器などの補助器具がない。 		<ul style="list-style-type: none"> ・[サモア問題点]
展開 (30分)	<p><サモアが抱える問題を解決するために、日本はどんな「人」の支援をしたのだろうか?></p> <ul style="list-style-type: none"> ・予想 教師を送って「呪いではない」と教える。 装具を作れる人が物作りの技術を伝える。 ・検証 理学療法士だった。 リハビリをしたり、連携をしたり、ネットワークを作ったりしたんだな。 たくさんの子が救い出されて必要なケアを受けることができるようになった。 たくさんの子供が表に出てきたということは、「呪い」という間違った考えを少し改善できたのではないかな？ ●笹島さんがサモアに起こした変化は良い面ばかりなのかな？ 成果 障害のある子に必要な器具が、更に不足することに。 	<ul style="list-style-type: none"> ・成果が出てこない場合「●笹島さんが行ったことでサモアにはどんな変化が起きたのかな？」と発問 	<ul style="list-style-type: none"> ・予想の視点は「誰」+「任務」 ・[笹島さん:任務・実際にやっていたこと] ・[笹島さん写真]

まとめ (10分)	理学療法士さん。その結果、たくさんの子が救い出された。しかし、必要な器具が、更に不足することに…		
---------------------	--	--	--

08 | 評価規準に基づく本時の評価方法

「世界の国が抱えた課題の解決に向けた日本の人的支援に着目して、我が国の国際協力の様子を捉え、国際社会において我が国が果たしている役割を考え、表現しているか」という点について、授業中の発言やノートの記述を基に評価する。

09 | 学習方法及び外部との連携

外部との連携

授業実践に関連して連携した人

Loto Taumafai Society（日本で言う特別支援学校）に派遣されている理学療法士の笹島みさきさん。

連携に至る背景及び効果

連携に至る背景としては、日本に帰ってきてから教材開発を兼ねて教材研究をしている際、疑問に思ったことがあり、JICA 経由で連絡先を教えてもらい、メールでやり取りをするようになった。

笹島さんと連絡をしていく中で、笹島さんがサモアでどのような活躍をされ、その活動によってどのような変化が起こったのか。そして、現地で働く現地の人々が何を感じているのか。現地で活躍している隊員だからこわかる、各国の国際支援の成果と課題もハッキリと知ることが出来た。

また、その連携によって、「笹島さん」という具体的な「人」と子どもたちが会うことができた。「笹島さん」の思いや願いを知ることによって、世界の国々が抱える問題や日本が行っている支援を「自分事」としてとらえやすくなるという効果があったと考えられる。

学習方法

学習形態の工夫

本単元の4時間目（本時）の中盤は、討論形式で学習者同士の交流を中心に学習を進める活動をする。その活動の目的は「国際協力には様々な選択肢がある」ということを理解することだ。そしてそれぞれの支援の選択肢には一長一短があるため、国際協力にいわゆる「正解」が存在しないという「国際協力の難しさ」について実感をもって理解できるようにすることである。

教材（素材）と子どもたちとのつなぎ方

「笹島さん」と子どもたちとの出会わせ方については、skype でのビデオ通話や動画なども考えたが、画像と紙媒体資料を使用することにした。当然、skype や動画の方が子どもたちにとっては内容を理解しやすく、意欲も喚起しやすい。しかし、skype を用いた授業は「笹島さん」と直接接点がある授業者にしかできず、動画はその学校の ICT 環境や授業者の ICT に対する積極性によって左右されてしまうため、「汎用性」に欠ける。それに対して、「画像」や「紙媒体資料」は全ての教員にとって「身近な教材」となるため、この方法の方が誰もが実践しやすい授業実践になりうると考えた。以上のような理由で、画像と紙媒体資料による単元構成・授業構成とし、より汎用性の高い授業実践となるように心がけた。

10 | 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組

- ・9月度全校朝会において、「国際理解」に関するプレゼン
- ・11月度授業参観において、「SDGs」に関する授業の実践
- ・本単元の指導案や資料を同学年担任団と共有して共通実践
- ・金沢大学授業力向上特別セミナー@金沢大学附属小学校においてパネリストとして実践発表
- ・本単元の指導案と資料を校内サーバーにアップロードし、次年度以降に向けてのアーカイブス化
- ・サークルや個人的な学習会において、国際理解教育に関する情報を交換

自己評価

● 苦労した点

- ・学習指導要領や教育課程に位置付いた授業を組み立てるために、今回の教師海外研修で得た情報の取捨選択と焦点化。
- ・帰国後からの再調査（現地の隊員の方からのメールでの聞き取り）。

● 改善点

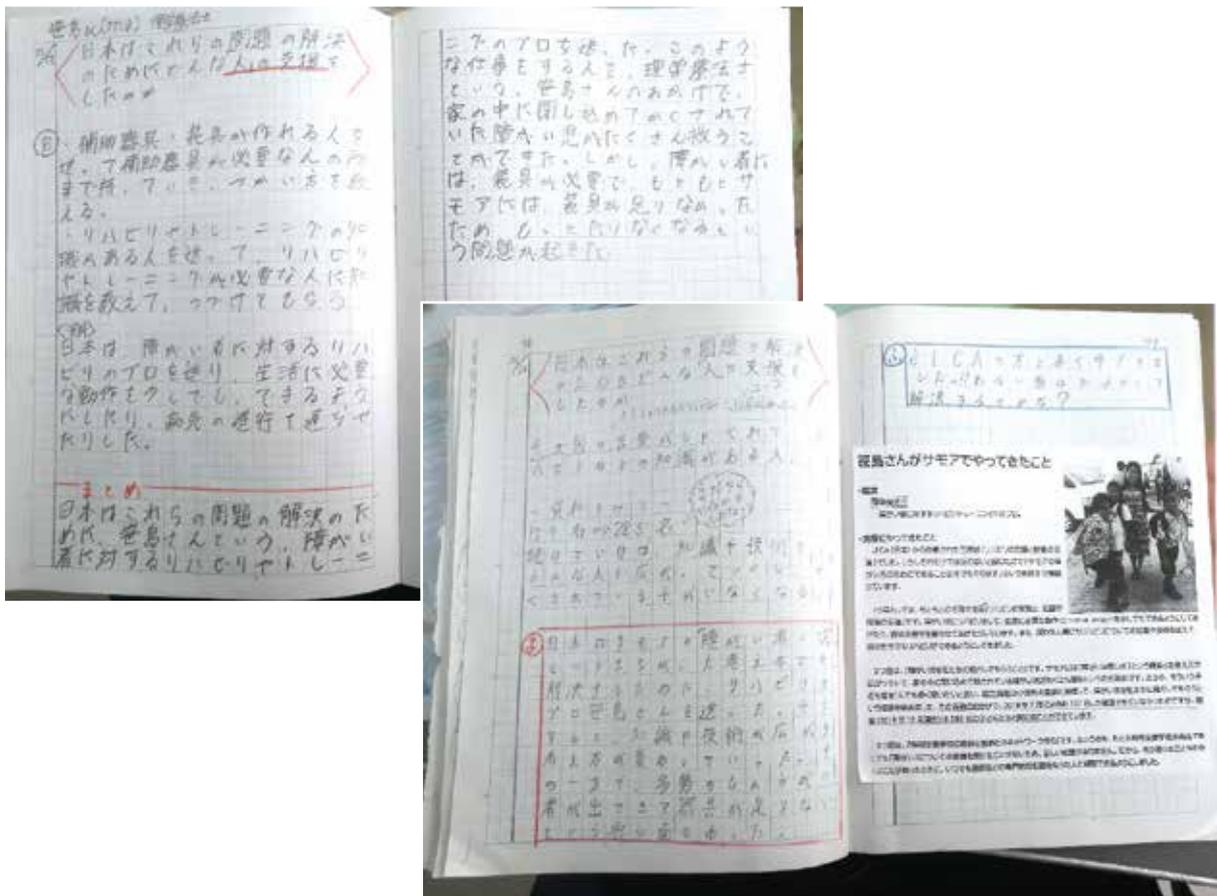
- ・単元後半のフェアトレードの学習では「コーヒー」を題材として取り上げたが、子ども達にとって「コーヒー」は身近な題材ではなかったため、「サッカーボール」や「チョコレート」の方が分かり易いように感じた。ただ、それについての資料を見つけるのが大変かもしれない。

● 成果が出た点

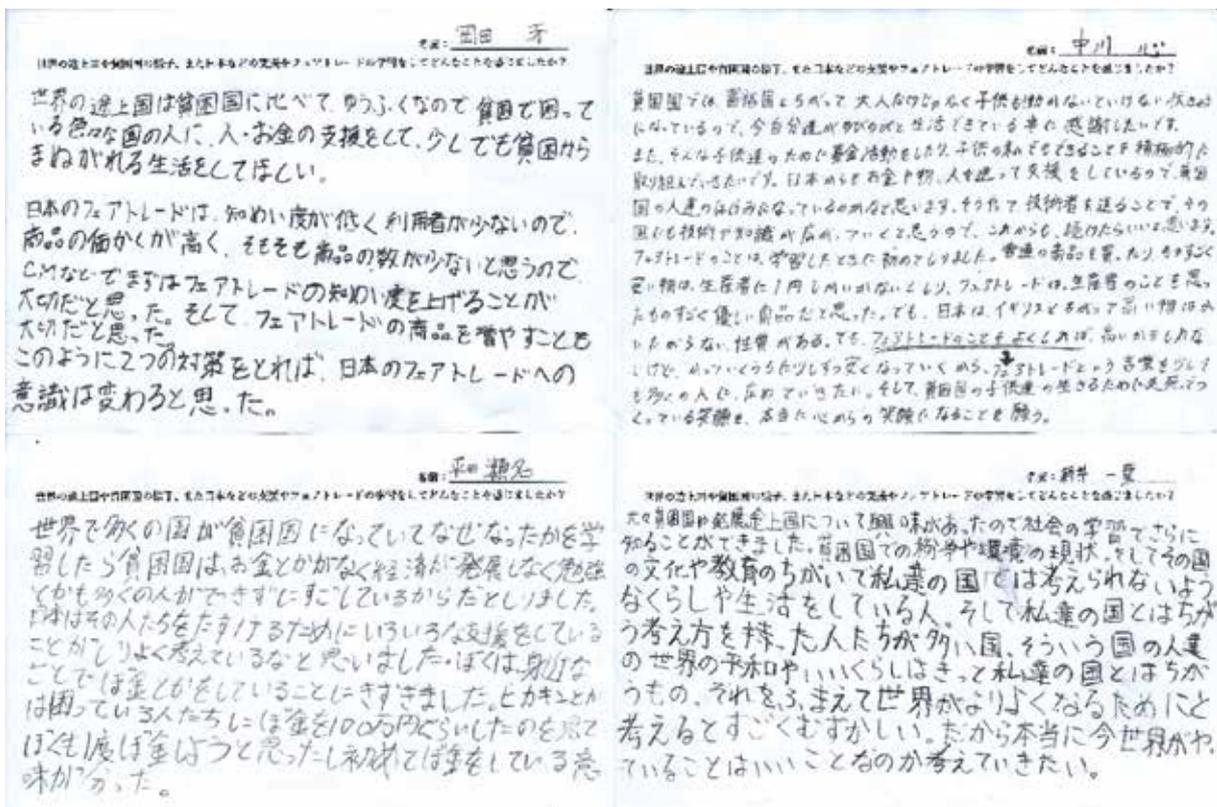
- ・「世界から貧困がなくなること」や「世界が平和になること」を願うという趣旨を卒業文集にも書く児童がいた。また、日記の中に「募金を初めてしてきた。意外と沢山の人がしていて、嬉しかった。」という記述があったりするなど、国際協力の重要性や今世界が抱えている問題に対し多くの児童の理解が深まった。
- ・授業を共通実践した先生からも休日に「フェアトレードの商品、やっと見つけた!でも、やっぱり高いからこれじゃ売れないね・・・」というLINEの連絡が来るなど、子どもだけでなく、教師も国際協力に対する意識が高くなった。
- ・学習をする前は、「支援」というとやはり「良い変化」が起こるというイメージだったが、「支援」をすることももちろん良い面も表れるが、デメリットも生じてしまうということを理解することができた。そこから、「支援」の難しさを感じることができていた。
- ・国際支援への興味が生まれた児童がたくさん居た。
- ・14.児童の学びの軌跡[単元後のふりかえり]からもわかるように、児童達は日本に生きている人がもっている“常識”や“普通”が、他の国でも同じということはなく、他の国では全く違う価値観があるということを理解できた。数名の児童は、だからこそ、日本が良かれと思って行っている支援が本当にその国にとっても良い支援なのかということを考えなくてはいけないという意識をもてた。

● 学びの軌跡 (児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)

[本時のノート]



[単元後のふりかえり]



● 担当クラス以外での実践・報告について (内容・対象人数)

- ・同学年他クラス (3クラス) で、共通実践 (単元全て)
児童 38 人+ 37 人+ 37 人
- ・9月度全校朝会において、「国際理解」に関するプレゼン
児童 800 名+教師 40 名
- ・11月度授業参観において、「SDGs」に関する授業の実践
児童 36 名+保護者 33 名
- ・金沢大学授業力向上特別セミナー@金沢大学附属小学校においてパネリストとして実践発表
対象人数: 教員 86 名

● 授業者による自由記述

- ・現地へ派遣される前に

現地での研修で得られる情報量は莫大。しかし、ただ受動的に情報をキャッチしているだけでは、帰国後に情報を焦点化しようとしても、結局使えない情報だったりすることが多い。だから予め、教科を絞って、その教科の全ての学年の全ての単元と、それぞれの単元の重点項目や指導事項を確認しておくことが大切。そうすることで、現地では現地の隊員や現地の人に意図的な質問をすることができて、教材化しやすい形で残すことができた。

- ・現地での研修について

研修と研修の間の時間は、町中を歩いていると良い。思わぬ出来事と遭遇できたり、住民の方と話せたりした。

例えば私の場合は、サモアや NZ に行って驚いたのは日本車の多さだった。だから、5年生の自動車の単元で使える資料として、日本から輸出された自動車はどう使われているのか。また、その良さと悪さは何か。それがわかる資料を作りたくて、トランジットで訪れた NZ やサモアの人にインタビューをして回っていた。そこでわかったのが、良さとしては「日本車は安い。でも、世界のどの国のメーカーよりも壊れない。特にトヨタ車。だからこそ、NZ やサモアでの日本車のシェア率が80%程度 (NZ スーパーの駐車場で客待ちをしていたタクシードライバー情報)」ということがわかった。一方で、サモアの道を歩いていると、日本車が道のど真ん中で故障して動けなくなっているということをよく目にした。そこから、悪さとしては、「日本車は耐久性が高い。だからこそ、日本の中古車はまず NZ などに輸出され、そこで使われた後、サモアなどの途上国に輸出されているため、いくら耐久性が高い日本車とはいえ、さすがに故障する。そして、サモアで産業廃棄物と化した車体の処分は、日本ではなく、ゴミ処理能力に抱えているサモアで行われる。」ということもわかった。そこで、日本車が壊れる瞬間を動画で撮影したく、町を歩いていた。結果としては最終日の前日に撮影成功することができた。

このように、現地に行くと日本では得ることが到底できないような資料や知識を得ることができる。だから、時間を有意義に過ごすと思う。

- ・現地では教員と JICA スタッフとで綿密にコミュニケーションをとることが大切

今回の研修では、「実際の国際支援の様子を見て、それを教育に落とし込む」ということが目的で、JICA と教員との間でその目的意識は共通理解されていた。しかし、「国際理解教育を行ったことがない教員も実践することが出来る様汎用性を持たせた指導案・教材を作成する」、というのが今回初めての試みだったということや、JICA スタッフと教員との土俵の違い (JICA スタッフは国際支援のプロで、参加教員は教育 (国際理解教育を含む) のプロ) からか、JICA 側は目標の前段である「実際の国際支援の様子を見」せたいという意識が強く、教員側は後段のいかに「教育に落とし込む」べきかという意識で思考していたように感じた。研修を提供する側の意識と研修

を受ける側の意識が1つ1つの訪問でもズレていたことから、その小さなズレが研修期間の間に積み重なって、最終的にどちらにとっても嫌な思いをする出来事が生じてしまった。だからこそ、研修内容を学習指導要領に落とし込む上で、1つ1つの研修において、JICA 側としては何に重点をおいて研修を行いたいのか。教師側は、その研修でどんなことを知りたいのかを明確にしておく。両者の考え・想いをお互い理解した上で研修をすると、より効果的な研修になると感じた。

【参考資料】

- 石井 光太「おかえり、またあえたね ストリートチルドレン・トのものがたり」東京書籍 2011.2.2
- 田沼 武能「学校に行けないはたらく子どもたち」シリーズ 汐文社 2004.12.1
- 渡辺 龍也「考えよう!やってみよう!フェアトレード」シリーズ 彩流社 2015.12.26

【資料 (教材)】

パワーポイント：全校朝会でのプレゼン (2 学期始業式)



1



2



3



4



5



6



7



8



9



10



11



12



13



14



15



16



17



18



19



20

ホームステイをして気づいたこと

21



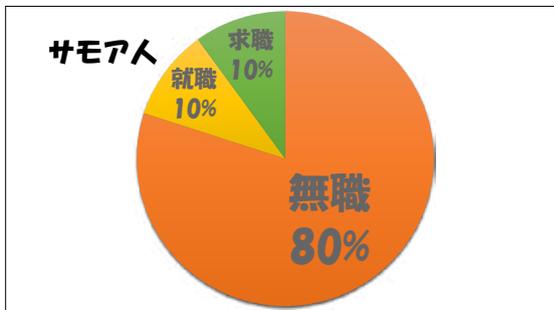
22



23



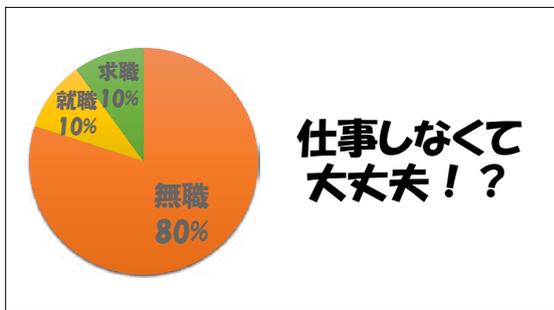
24



25



26



27

仕事をしなくても良い理由

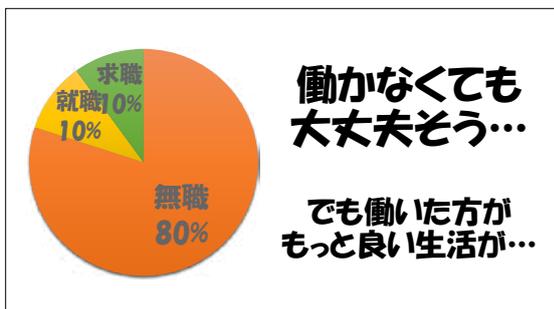
28



29



30



31



32

Do you think
your life is happy?
この生活は幸せ？

33



34

Why?
なんで？ (楽だから？)

35



36

 サモア	日本
<ul style="list-style-type: none"> ・「お金」は要らない ・寿命が短い <small>大切なこと</small>	<ul style="list-style-type: none"> ・全てにお金が必要 ・寿命が長い <small>大切なこと</small>
【家族との時間】	【仕事すること】

37



働かなくても大丈夫そう…

~~でも働いた方がもっと良い生活が…~~

日本人の価値観

38

 サモア	「相手を理解する」 って大事！
<ul style="list-style-type: none"> ・「お金」は要らない ・寿命が短い <small>大切なこと</small>	<small>無職</small> <small>納得できました？</small> サモア人が仕事をしない理由 = 「幸せ」
【家族との時間】	

39

「相手を理解する」
って大事！

友達同士でも同じこと…

40



教師海外研修
8/11-21

サモア



ファフェタイラバ

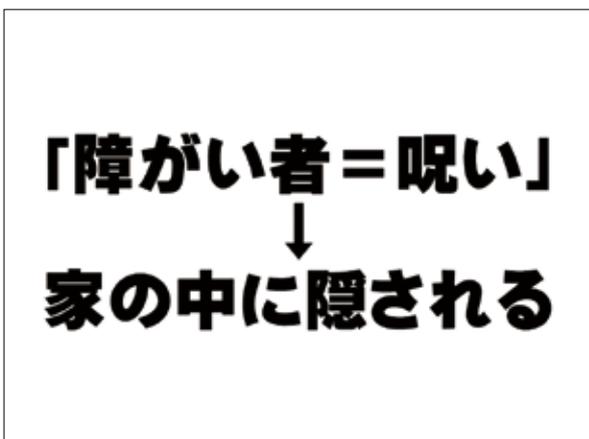
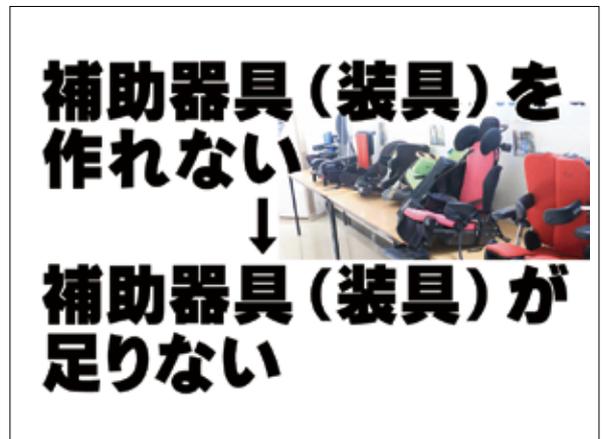
(ありがとうございました)

41

2 学期始業式 発表の様子



障がいを持つ子供たちを取巻くサモアの特別支援学校での状況





ニュージーランドやオーストラリアなどから、補助器具（装具）やトレーニングなどで使う道具やおもちゃを支援物資として無償で支援してもらっています。

しかし、トレーニングで使う道具の中で実際に使えるのは80%程度。補助器具（装具）に関しては言えば50%程度しか使うことができません。というのも、壊れていたり、その子どもに合わなかったりするので。壊れているものや体に合わないものは、修理や調整をすれば使えるのですが、それができる人（技術者）もサモアにはいないので、結局修理・調整できないというのが現状です。使えない物は、今は保管されています。



補助器具（装具）



トレーニングで使う道具やおもちゃ

笹島さんがサモアでやってきたこと

・職業

理学療法士

障がい者に対するリハビリ（トレーニング）のプロ



・実際にやってきたこと

JICA（日本）から依頼された任務は「リハビリの知識と技術の伝達」でした。しかしそれだけでは足りないと感じたので「サモアの障がいのために行き届かないことでもやります」という気持ちで頑張っています。

1つ目としては、もともとの任務である『リハビリの実施と、知識や技術の伝達』です。障がい児にリハビリをして、生活に必要な動作（立つ・食べる・歩くなど）を少しでもできるようにしてあげたり、症状の進行を遅らせてあげたりしています。また、周りの人達にもリハビリについての知識や技術を伝えて、自分たちでもリハビリができるようにしてきました。

2つ目は、『障がい児を私たちに紹介してもらおうこと』です。サモアには「障がいは呪いだ」という間違った考え方が広がっていて、家の中に閉じ込めて隠されている障がい児がたくさんいるというのが現状です。だから、そういう子ども達を1人でも多く救いたいと思い、国立病院の小児科の医師と連携して、障がい児を私たちに紹介してもらおうという活動を始めました。その活動のおかげで、2018年7月には合計157名しか確認できていなかったのですが、現在（2019年12月現在）は285名の子どもたちと関わることができています。

3つ目は、『特別支援学校の教師と医師のネットワーク作り』です。というのも、たとえ特別支援学校の先生であっても「障がい」についての教育を受けたことがないため、正しい知識がありません。だから、何かあったことやわからないことがあったときに、いつでも医師などの専門的な知識をもった人に相談できるようにしました。

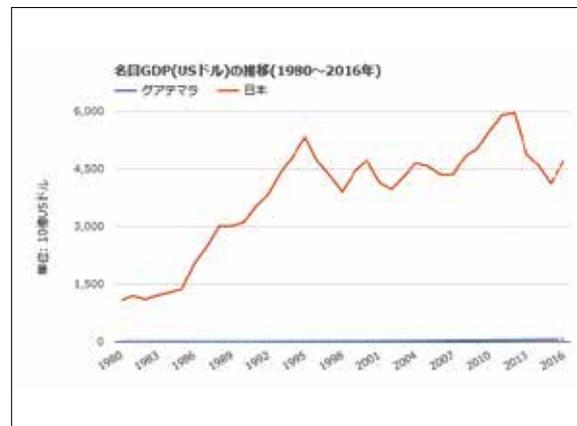
世界のコーヒー生産量ランキング

世界のコーヒー生産量ランキング

- 1位 **ブラジル** : 2,680,515 トン
- 2位 **ベトナム** : 1,542,398 トン
- 3位 **コロンビア** : 754,376 トン
- 4位 **インドネシア** : 668,677 トン
- 5位 **ホンジュラス** : 475,042 トン

出典：FAO 2017年

グアテマラと日本の GDP 比較



コーヒー価格比較

普通のインスタントコーヒー（100g）



716 円

フェアトレードのインスタントコーヒー（100g）



1259 円

国際社会に生きる

氏名	村本 宗将	学校名	石川県立医王特別支援学校
担当教科等	理科	対象学年(人数)	小中高等部児童生徒 (7名)
実践期間(時数)	2019年10月～11月 (6時間)		

実施概要

01 | 実践する教科・領域

総合的な探究(学習)の時間

02 | 単元(活動)名

国際社会に生きる

03 | 授業テーマ

授業テーマ

「世界に目を向けよう! ～きっと誰かの力になれる～」

単元目標

日本と途上国との関係を学習する中で、世界に目を向け、そこに存在する問題に対し、自分なりの解決策を考え、提案することができる。

関連する学習指導要領上の目標

- ・実社会や実生活と自己との関わりから問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができる。
- ・探求に主体的に・協働的に取り組むとともに、お互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする。

04 | 単元の評価規準

① 知識及び技能	日本と世界各国、自分と世界のつながりを理解する。
② 思考力、判断力、表現力等	途上国の現状を理解し、見いだした問題に対し、自分なりの解決策を考えている。
③ 学びに向かう力、人間性	海外の国々に興味関心を持ち、他児童生徒と協力し学習を進めようとしている。

05 | 単元設定の理由・単元の意義

【単元の意義】

本単元は国際理解に関する題材を扱う。この題材は学習者の学習到達度によらず、すべての学習者がそれぞれのレベルで同じテーマで学習ができる。そのため少人数校である本校においても協働学習の機会を設定できる。さらに児童生徒はグローバル化の進む社会の中でこれから生きていく。その多様性を原動力とし、持続可能な社会の担い手として、個人と社会の成長につながるような新たな価値を生み出していくことが一人一人に期待されている。本単元を通して、このような姿勢を身につけさせていく。

【児童 / 生徒観】

本授業は小学生2名、中学生3名、高校生2名が参加する合同授業の形態で行う。どの児童生徒も普通の授業は1対1などの少人数で行っており、他児童生徒との協働学習の機会は多くはない。他者に干渉されることや誰かと活動することに苦手を感じる児童生徒が多い集団である。また食べ物や体型に関する話題に敏感な児童生徒が多く、取り上げる教材には注意が必要である。また児童の中には書くことや集中して話を聞くことが苦手な生徒もいる。児童生徒は静かで発言は少ないものの、学習に対する意欲は高くどの授業にも熱心に取り組む姿勢が見られる。どの児童生徒も国際理解に関する学習は本校では受けてはいない。海外の国や他者への興味関心はあまり高くはないが、興味を示す生徒もいる。

【教材観】

本単元では国際理解教育として、テーマを「世界に目を向けよう!」と設定した。日本と途上国の間の関係を主な題材にすることで、広く世界に目を向けることができる。その中で指導者の実体験を交えることで、海外の国々に対する興味関心を高めることができる。途上国が抱える問題についての学習は、実社会との関わりを強く意識させられる題材を含むことから、深い学びを促すことができると考えた。

【指導観】

まずは児童生徒が日本の外に対し興味関心を持てるように楽しく学習できるように授業を進めたい。サモアの写真、小物等も活用していく。児童生徒に対し問題提起をして課題を考える際は、授業に参加する教員も同じ課題に対し共に考え、全員で学ぶ姿勢を促していく。支援を考える際にはもし自分がそこで生きるとしたら、どんなことをしてほしいかなど、国際問題を遠く離れた国の出来事ではなく、自分の身近なこととして、捉えられるようにする。最後に自分たちで考えた意見を発信することで、社会の中での自分の役割を感じさせたい。それが自己肯定感の高まりにつながるよう、授業を進めていきたい。

06 | 単元計画 (全6時間)

時	小単元名	学習のねらい	学習活動	資料など
1	世界を知ろう	<ul style="list-style-type: none"> 海外の国々に興味関心を向ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 本単元での学習内容を知る。 興味のある国を見つける。 先進国と途上国について学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート JICA 北陸の事前研修 パワーポイント資料(改) 世界地図「世界の言葉 でありがとうこんにち は」 JICA 北陸 サモアで得た写真、小 物など キッズ外務省資料
2	世界のつながり を知ろう①	<ul style="list-style-type: none"> SDGsを知る 	<ul style="list-style-type: none"> SDGsを学習する。 日本のSDGsの達成度について考え、 意見を交わす。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート 自作パワーポイント JICAのSDGs資料 「共につくる私たちの未来」 JICA 地球ひろば 写真、SDGs資料
3	世界のつながり を知ろう②	<ul style="list-style-type: none"> 国際間の支援を学 び、支援の必要性 を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 途上国への支援が行われていること を知る。 国際支援の必要性を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート JICA 北陸の事前研修 パワーポイント資料(改) JICA 地球ひろば 写真、SDGs資料
4 本時	世界のために考 えよう①	<ul style="list-style-type: none"> 途上国の現状を知 る。 相手の立場を考え、 自分なりの支援を 考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 途上国が抱える問題を知る。 興味のある問題を選ぶ。 整理した問題をSDGsの分類に整理 する。 2グループに分かれて支援を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート JICA 北陸の事前研修 パワーポイント資料(改) JICA 地球ひろば SDGs資料
5	世界のために考 えよう②	<ul style="list-style-type: none"> 必要な支援とは何 か考える。 実際に行われてい る支援を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料を読み、感じたことを話し合う。 どんな支援が必要かグループワーク を通して改めて考える。 サモアで行われている JICA の支援 を紹介する。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート 資料「ボクのおとうさん は、ボランティアというやつ に殺されました」 サモアでの写真、資料 など
6	自分たちの意見 を発信しよう	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちの意見を 発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> 発表準備をする。 発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> 模造紙など PC

07 | 本時の展開（4時間目）

本時のねらい

途上国が抱える課題に対して、自分なりの支援を考えている。

過程時間	教員の働きかけ・発問および学習活動・指導形態	指導上の留意点（支援）	資料（教材）
導入 (5分)	<ul style="list-style-type: none"> ・途上国の現状を知る。 ・スライドで途上国の写真等を見ながら途上国が抱える問題・課題を見つける 	<p>T1:スライドを操作し、授業を進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「食」に関する内容に配慮が必要な生徒がいるため、食、食べ物に関する問題は扱わない。 <p>T3:意見を黒板に書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自作スライド（JICA 北陸の事前研修パワーポイント資料（改））
展開 (40分)	<p>小グループに分かれる。 (小中 G 3名+ T2、高 G2 名+ T3、中 G1 名+ T4)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに興味のある問題・課題を選ぶ。 <p>・問題・課題の整理。 見つけた問題・課題に関連する SDGs ゴールを見つけ、整理する。(相談しながら紙に SDGs のゴールカードを貼る)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・選んだ問題・課題について、どのような支援が必要か考える。(グループワーク) ・グループ間で意見交流。 各グループで出た意見に対して意見を交わす。 	<p>T2:小Gの筆記支援、代弁を行う。</p> <p>T :選ぶのに困っているようであれば、各問題・課題に関連する例を挙げる。</p> <p>T4:中Gについて、他生徒に注目されないように教室後方で学習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・選んだ問題・課題に関係する SDGs のゴール内容を参考に、支援するための意見を出すよう促す。 <p>T1:意見が出たら、それ自体をまずほめ、意見を言いやすい雰囲気をつくる。</p> <p>T2:各Gの記入用紙を写真に写し、ディスプレイに表示する。</p> <p>T1:各Gの意見を紹介し、賛成や付け加え、反対等の意見を聞く。</p> <p>意見に対しては拍手を促し、意見を言いやすい雰囲気を作る。中Gの意見は本授業中では紹介しない。(次回授業冒頭で)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートグループ用 ・SDGs カード ・タブレット端末
まとめ (5分)	<ul style="list-style-type: none"> ・各グループからの意見を振り返る。 	<p>T4:各Gに対する意見は手元の紙に書く。</p> <p>T1:黒板で話し合いを振り返る。まとめる際はなるべく子供の言葉でまとめる。</p> <p>G用ワークシートの写真を後日個人ワークシートに貼れるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・個人用ワークシート

08 | 評価規準に基づく本時の評価方法

- ・途上国が抱える課題に対し、自分なりの支援を考え、発表している。【思・判・表】

09 | 学習方法及び外部との連携

- ・本授業は異なる学年、学部の児童生徒が参加する。児童生徒同士で相談し、考えをまとめる機会を多く設定する。その際、学習到達度の高い高等部生徒をリーダーにする。リーダーになったことで年下の児童生徒にアドバイスや提言ができるようにし、全員の学習の深まりを促す。TTで授業に入る教員にも学習活動に参加してもらい、全員で学ぶ雰囲気をつくり、主体的な学びを引き出したい。

10 | 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組

本校で、総合的な探究（学習）の時間を主担当として担当するのは自分だけである。しかし小規模校であるがため、協働学習を行うためには学年学部を超えて複数の学年、学部の生徒が一堂に授業に参加する必要がある。そのため授業はTT（チームティーチング）の形式で行う。各時間の授業に向けた打ち合わせは複数教員で行うことになるため、その際に手法、教材を共有していきたい。

また、医王特別支援学校分教室でも出張授業を行った。現在分教室では総合の時間にアジアの国々の学習をしている。サモアから持ち帰ったお土産などを使った感触・感覚遊びを含めたサモア体験を実施した。また分教室担当の教員が引き続きその授業を担当し、複数の児童生徒に対しステンスルを使った「サモア版画」体験なども実施した。

自己評価

● 苦労した点

授業の計画作成、教材の準備に時間がかかったが、今回の単元、テーマで授業を考え、児童生徒たちと学習するのは非常に楽しかった。

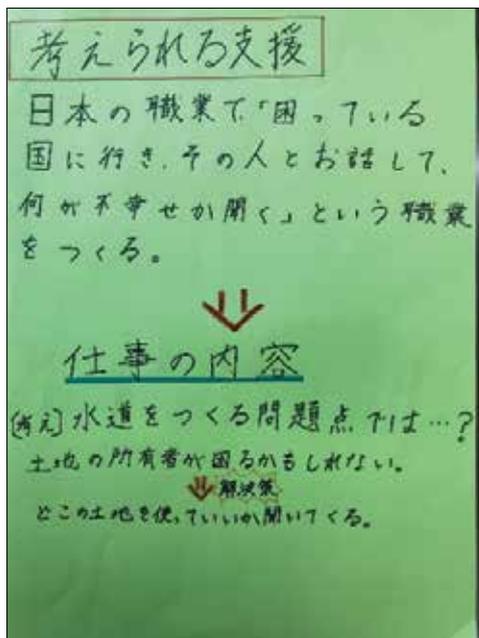
今回の単元ではまずは楽しく海外に目を向ける、そして自分たちで考え、学習したことで自分に自信をつけてもらうことを目標にした。単元の最後に、外部に自分たちの学習の成果を発表し、自信をつける機会を設定しようと思ったが、様々な制約、問題で実現させることができなかった。次にやるときは校内でより入念に計画し、そして早め早めの計画で実現させていきたい。

● 改善点

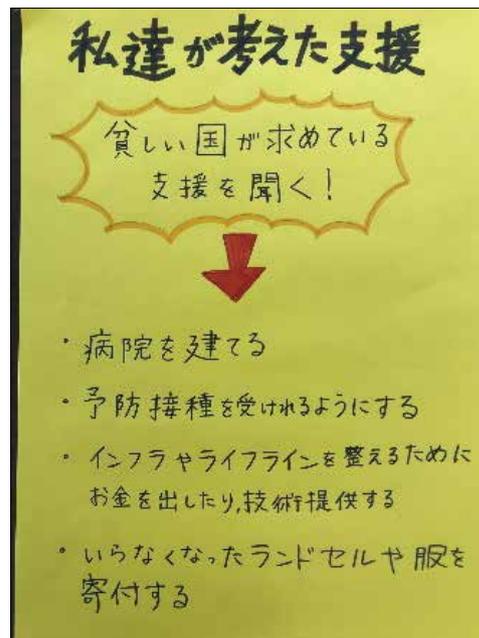
授業案の計画を作成している時は児童生徒からはあまり意見が出ないかもしれないと考えていた。なのでどうやって意見を引き出すか考え、計画を立てていた。しかし授業が始まってみると普段静かな生徒たちも思っていた以上に意見や考えを発表してくれ、特にSDGsの学習が盛り上がり、時間が足りないことがあった。

短い時間で授業を展開するならば例えばSDGsに絞り学習を進めるか、あらかじめ余裕を持った単元計画をたてるかするのいいかもしれない。今後は学年ごとに「世界への興味関心」、「SDGs」、「支援の在り方」など学習項目を立て、その内容を系統的に学べるように学習計画をたて、臨みたい。

また、計画の段階で外部との連携をうまく取れなかった。具体的には本単元最終回に自分たちで考えた意見を発表する機会があったが、この際にJICAの職員やボランティアの方にテレビ会議などで聞いてもらい、講評してもらう機会を設定するとより生徒たちの学習に対する自信につながり充実した学習になったと思われる。

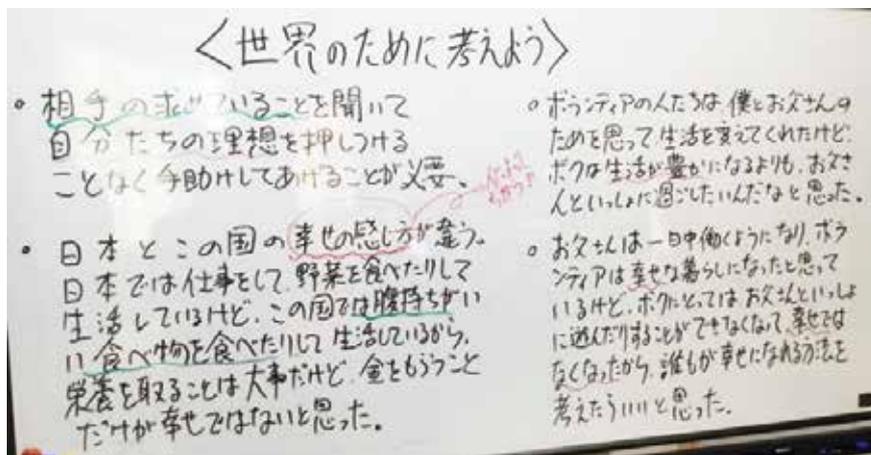


グループ1



グループ2

どのグループもまず相手国の求めること、気持ちを聞いて、そのうえで必要な支援をする、または命に係わる問題に支援をという考えに変化した。本単元5時間目の学習で「自分の求めるものを押し付けてはいけない」ということや「幸せの感じ方が違う」ということに各児童生徒が気づき、意見を出し合ったことで、考えに変化が起こったと考えられる。以下児童生徒の意見（黒板）。



● 担当クラス以外での実践・報告について（内容・対象人数）

- ・2学期始業式において全校児童生徒に向けて「夏休みのお話」としてサモアの写真を提示しながら話をした。2学期に始まる総合的な探究（学習）の授業への興味づけ、初めて会う生徒たちとの関係づくりを目的に「ちょっとびっくり」、「楽しい」話になるように心がけて行った。
- ・医王特別支援学校本校では各クラス人数が少ないため、総合的な探究（学習）の時間を一括して自分が担当している。そのため実践に紹介した授業を全児童生徒が受けた。
- ・また医王特別支援学校分教室に出張授業に行った。サモアから持ち帰ったお土産、写真、音楽などを使ったサモア紹介や感触、感覚遊びを行った。私が直接授業を行ったのは1回であるが、その後引き続き、サモアの教材などを使い、分教室の先生がラグビーWCと関連付けたサモアの授業、現地から持ち帰ったステンシルを使ったクリスマス「サモア版画」など様々な授業を実践した。

● 授業者による自由記述

- ・今回の海外教師研修に参加して、国際理解教育を集中して学べ、そして今まで取り組んだことのない単元を授業にでき、非常に有意義であった。普段教科の授業ばかりしていると、こういった単元は敷居が高く感じるが、実際にやってみると楽しい。興味のある方はぜひ一歩踏み出してほしい。過去の教師海外研修の報告書を読んでいると魅力的な授業や教材があり真似してみたいとも思っている。また、今後は理科の教科の中で国際理解の要素も入れた授業を考え、展開していきたいと思っている。これからも自分も子供たちも楽しめる、様々なことを考えるきっかけになる授業を作していきたい。
- ・さらに自身が海外に行き感じた不自由さを、インクルーシブ教育を見据えた他者理解の教材としても使えると感じた。例えば自分が海外で感じた言葉の壁を題材にした読み書き、意思疎通が難しいことに関する話題、またそのときピクトグラムに救われたことに関するユニバーサルデザインの話題なども今後活用していきたいと考える。

【参考資料】

- ・キッズ外務省 <https://www.mofa.go.jp/mofaj/kids/index.html>
- ・JICA 地球ひろば 先生・生徒のお役立ちサイト <https://www.jica.go.jp/hiroba/teacher/index.html>
- ・JICA 北陸 教師海外研修 事前研修パワーポイント資料 (改)
- ・世界地図「世界の言葉でありがとうこんにちは」 JICA 北陸
- ・資料「ボクのおとうさんは、ボランティアというやつに殺されました」著：宮崎大輔
- ・JICA 北陸 2018 年度 教師海外研修 報告書

【資料 (教材)】

パワーポイント ①世界の国々に目を向けよう!

総合的な学習 (探究) の時間

「世界を知ろう！」

①世界の国々に目を向けよう!



1



2

世界のこと、知っていますか？

世界クイズに答えてみよう!!

3

まずは世界の国の数について

クイズ：
現在、世界には何か国ぐらいありますか？

① 100カ国 ② 150カ国
③ 200カ国 ④ 250カ国

正確には・・・196カ国

4

世界の人口は？

クイズ：
現在、世界の人口はおよそ何億人でしょうか？

① 70 億人 ② 72 億人
③ 75 億人 ④ 77 億人

出典：国際連合広報センター 2019年データ
https://www.un.org/ja/news_press/features_backrounders/33798/

5

日本人について

クイズ：
日本人が多く住む国はどこでしょうか？

① アメリカ ② 中国
③ イギリス ④ タイ

1位 アメリカ 2位 中国 3位 オーストラリア

6

日本人について

クイズ：
日本人が多く訪問している国はどこでしょう？

① **アメリカ** ② 中国
③ 韓国 ④ インドネシア

2016年 アメリカへ357万6955人が訪問している

7

世界遺産について

クイズ：
世界遺産が多い国はどこでしょう？

① 日本 ② **イタリア**
③ 中国 ④ スペイン

日本は第12位（22個）

8

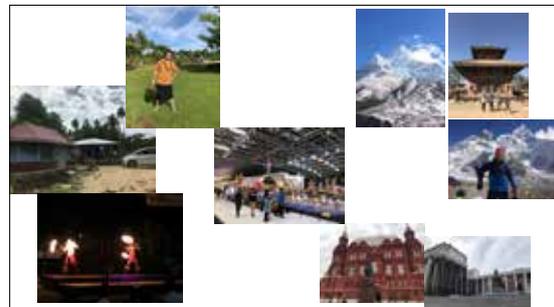
みなさんは行ってみたい国はありますか？

観光、住んでみたい、言葉が話せるようになりたい、興味がある、とてあえず行きたい、、、

どんな理由でもOK！
行ってみたい、興味のある国を書いてみよう！！



9



10

みんなの選んだ国はどこにありますか？



何の地図だろう？

11

途上国のエリア



● 日本
● 途上国
● とくに発展が滞っている国

※途上国とは、OECD（OECD Development Centre）の報告で47か国ある。47か国が途上国である。途上国とは正確な定義は必ずしもない。

12

発展途上国とは、 経済や社会が成長する途中の国々のこと

特に貧しい地域ではこんなことに困っています



出典：JICA国際協力本部「国際協力レポート」

13

働く子供たち



出典：JICA国際協力本部「国際協力レポート」

14

発展途上国の数はどれ位？

① 80カ国 ② 110カ国 ③ **140カ国**

途上国の数 **143**
世界の国・地域の数 **196**

世界の国の数の内、75%が途上国にカテゴリー分けされます

15

振り返りましょう

今日の授業を振り返り、
感じたことや感想を書きましょう！



16

②世界とのつながりを考えよう

総合的な学習（探究）の時間

「世界を知ろう！」

②世界とのつながりを考えよう



1

みなさん、こんなマーク見たことありますか？



2

持続可能な開発目標
Sustainable Development Goals(SDGs)



手元のカードを
見てみよう！

3

SDGsって何？

2015年に制定された、持続可能な社会を実現するための17の目標

簡単に言うと、...

みんなが幸せになるための目標！！

4

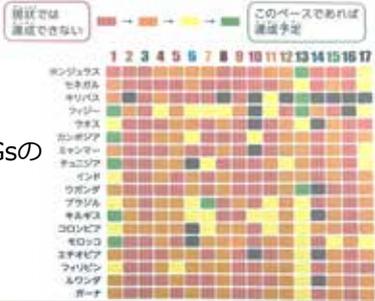
SDGsは誰の目標？

SDGsは誰のための目標だと思いますか？
考えてみましょう！
先進国？ 途上国？

**先進国も、途上国も
みんなの目標！！**

5

国ごとのSDGsの
成績表！



6

ちなみに日本は、、、？

日本のSDGsの達成度は、、、

それぞれの目標は達成できているかな？
みんなで考えてみましょう！

7

日本は？



8

振り返りましょう

今日の授業を振り返り、
感じたことや感想を書きましょう！



9

④世界のために考えよう

総合的な学習（探究）の時間

「世界を知ろう！」

④世界のために考えよう！



1

世界のために考えよう！

困っている人々、国 何を支援してあげるか？



2

写真から問題をみつけよう！

何の写真だろう？
どんなことに困っているだろう？

気付いたことを答えよう！



3

考えよう

みなさんが国の代表です！
みなさんならどの問題を支援して（助けて）あげますか？

- ①問題を選ぶ
- ②SDGsのどのゴールと関係がありますか？
- ③どんなことを支援して（助けて）あげますか？
- ④支援（助けて）あげるとどんないいことがあるかな

4

教えて！

みなさんのグループで考えたことを教えてください。

発表された意見に対し、賛成、付け加え、など大歓迎！
どんどん意見を教えてください！

発表してくれた人に対して拍手しよう！

5

⑥世界のために考えよう!発表しよう!

総合的な学習（探究）の時間

「世界を知ろう！」

⑥世界のために考えよう！
発表しよう！



1

今日の予定

- ・発表準備15分
- ・発表
- ・まとめ、先生の話



2

サモアでのJICAの活動




3

JICAとは？

Japan
International
Cooperation
Agency

独立行政法人 国際協力機構

二国間 **ODA** の実施機関

4



5



6



7



8



9



10



11



12



13

ワークシート ①

①世界の国々に目を向けよう！

名前 _____

<世界を知ろう！>

◎現在、世界の国は、何か国ありますか？ ⇒ _____

◎現在、世界の人口はおよそ何億人でしょうか？丸をつけよう！

① 57億人 ② 65億人 ③ 70億人 ④ 77億人

<みなさんは行ってみたい国はありますか？>

国名（または地域） _____

行きたい、興味のある理由をかこう！

・・・経済や社会が成長する途中の国々のこと。

<今日の授業を振り返ろう！>

感想や感じたことを書きましょう。

ワークシート ②

②世界とのつながりを考えよう！

名前 _____

・・・みんなが幸せになるための17の目標！！

誰のための目標？

⇒ _____



<日本はSDGを達成しているかな？>

それぞれの目標は達成できているかな？
みんなで考えてみましょう！そして、調べてみましょう。

写真を貼ろう

<今日の授業を振り返ろう！>

感想や感じたことを書きましょう。

ワークシート ③

③世界とのつながりを考えよう！

名前 _____

<他国への支援（助け）は必要だと思いますか？>

⇒ ①必要 ②必要ない ③わからない

理由を書こう！

みんなと意見を交換しよう！

写真を貼ろう！

<今日の授業を振り返ろう！>

感想や感じたことを書きましょう。

ワークシート ④

④世界のために考えよう！

名前 _____

私たちのグループでは、

写真を貼ろう！

<今日の授業を振り返ろう！>

感想や感じたことを書きましょう。

ワークシート ⑤

⑤世界のために考えよう！

名前 _____

名前 _____

<資料を読んで考えよう！>
資料を読んで感じたこと、自分で考えたことを書きましょう。

ボクはなぜ「殺された」と言ったのでしょうか？

ボランティアや支援をするとき、どんなことに気を付けたいだろうか？

<今日の授業を振り返ろう！>
感想や感じたことを書きましょう。

ワークシート ⑥

⑥世界のために考えよう！

名前 _____

- ・海外の国、人々に対して興味がありますか？
はい いいえ どちらでもない わからない
- ・外国に行ってみたいですか？
はい いいえ どちらでもない わからない
- ・他国への支援は必要だと思えますか？
はい いいえ どちらでもない わからない
- ・困っている国、人に何かしてあげるとき、あなたは何をしますか？

<これまでの授業を振り返ろう！>
感想や感じたことを自由に書きましょう。

グループ用記入用紙

④世界のために考えよう！

メンバー _____

1. 選んだ問題・課題 _____

2. 関係するSDGsの目標を貼ろう！

目標を貼ろう

3. どのような支援・助けを行いますか？

4. 考えた支援を行うとどのようないいことがあるだろう？

28 ダショー・ニシオカ(あすを生きる2)

氏名	高津 和幸	学校名	福井県立福井特別支援学校
担当教科等	特別の教科 道徳	対象学年(人数)	中学部2、3年生 (2名)
実践期間(時数)	令和元年10月～11月 (4時間)		

実施概要

01 | 実践する教科・領域

特別の教科 道徳

02 | 単元(活動)名

28 ダショー・ニシオカ(あすを生きる2)

03 | 授業テーマ

授業テーマ

「先人に学べ!私にできる国際協力」

単元目標

日本の国際協力について知り、地球市民として自分にできることを考えることができる。

関連する学習指導要領上の目標

世界の中の日本人としての自覚をもち、他国を尊重し、国際的視野に立って、世界の平和と人類の発展に寄与すること。

04 | 単元の評価規準

① 知識及び技能	日本の国際協力について知り、自分に何ができるか多面的に考えることができる。
② 思考力、判断力、表現力等	様々な情報を整理、分析して、自分の考えをまとめ、伝えることができる。
③ 学びに向かう力、人間性等	世界的な諸課題に対して自分なりの解決策を考え、自分の特性を生かしながら、積極的に社会と関わることができる。

05 | 単元設定の理由・単元の意義

【単元設定の理由】

学習指導要領に、主として集団や社会との関わりに関する中で、「国際理解、国際貢献」は「世界の中の日本人としての自覚をもち、他国を尊重し、国際的視野に立って、世界の平和と人類の発展に寄与すること」について扱うとなっている。これからさらにグローバル化が進み、さまざまな国の人々と関わっていく機会が多くなる日本社会の中で、世界に目を向け、国際社会のために何ができるのかを考えていく必要がある。

【単元の意義】

障害の有無にかかわらず、日本人として、国際協力をする重要性を認識すること。

【生徒観】

本校は肢体不自由の特別支援学校であり、クラスの生徒は主に車椅子での生活を送っている。常に介助を要することから、受身であり、自己発信力も高くない。学校の友達同士では話をすることもあるが、授業になると自分の考えや思いを伝えることには抵抗がある。また、学年が違うため、教科の授業は単独になることが多く、友達と話し合ったり、人前で発表したりする経験が少ない。

【教材観】

本単元は、教科書の題材「ダショー・ニシオカ」を使い、真の国際協力について考えた後、一人ひとりができる国際協力を考えることを通して、生徒の意識を広く世界に向けさせ、自己開示や自己発信につなげることをねらいとする。研修の資料や障害者に関するネットの記事など多面的に考えられる材料を使った。

【指導観】

世界の問題や国際協力というのは、自分と関係がない遠いことでなく、今は一人ひとりに関わる大事な問題になっているということを理解させたい。また、障害の有無に関わらず、他者を思う気持ちがあれば、国際協力を行うことはできるということを知ってもらいたい。その上で、自分の意識を外に向けていき、いつか外国の人と交流したりボランティアをしたりすることでやりがいや自己有用感をもてるよう、そのようなことに繋がる素地をこの授業を通して育てたい。

06 | 単元計画（全4時間）

時	小単元名	学習のねらい	学習活動	資料など
1	国際協力とは？	・日本が行っている国際協力について理解する。	・学習の流れを知り、見通しを立てる。 ・国際協力について思っていることを挙げて、ノートに書き、共有する。 ・教科書 28 ダショー・ニシオカ (pp146～pp149) を輪読する。 ・教科書の設問について考え、意見を共有する。 ・JICA の活動を通して日本が行っている国際協力を知る。 ・次回までに、なぜ日本の国際協力は必要かについて考えてくる。	教科書（日本文教出版） 道徳ノート パワーポイント
2	世界の取り組み	・なぜ日本の国際協力は必要か考える。 ・世界的な諸課題に対して、国際機関が取り組んでいる内容を知り、理解する。	・なぜ日本の国際協力は必要かについて、意見を共有する。 ・日本が抱える経済問題などを理解した上で、再度考えて、意見を共有し、ノートにまとめる。 ・日本が抱える問題の中で、気候変動やごみ問題など日本だけで解決できない問題について取り上げ、世界との関わりを意識させる。世界的な諸課題に繋げる。 ・世界における問題解決の取り組みとして、SDG sについて知る。	パワーポイント

3	世界と私のつながり	<ul style="list-style-type: none"> ・日本で生活していても世界に影響を与えていることを知り、より良い世界を創るために自分はどうすべきかを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ストローやスマートフォン、ファストファッションなど生徒の身近な物を例に取り上げて、便利な生活の裏側について知る。 ・便利な暮らしの裏側を知って、自分ができることは何か、また、自分のできる国際協力について考え、ノートにまとめる。 	パワーポイント
4 本時	世界のために私が できること	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者が活動していることや、その活動内容を知り、これから自分がどう生きていくべきかを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分ができる国際協力について、意見を共有する。 ・「あなたも将来ニシオカさんのように途上国に行って、国際協力をしてみたらどうか?」と問いかける。 ・それぞれの思いを共有する。 ・障害者がボランティアをすることについてどう思うか問いかける。 ・障害があっても、国会議員や JICA 専門家として活躍している人がいることを紹介する。 ・紹介した人たちについてどう思うか、感想を聞く。 ・よりよい世界を創るために、自分のできる国際協力は何か考え、意見を共有する。 	Yahoo 知恵袋の質問とその回答 船後（ふなご）靖彦議員と木村英子議員の記事 奥平真砂子さん、廣瀬芽里さん、網川章さんの記事

07 | 本時の展開（4時間目）

本時のねらい

障害者が活動していること、またその活動内容を知り、これから自分がどう生きていくべきかを考える。

過程時間	教員の働きかけ・発問および学習活動・指導形態	指導上の留意点（支援）	資料（教材）
導入 (10分)	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の振り返り ・便利な生活の裏側には問題があることを振り返る。自分のできる国際協力について、意見を発表する。 ・交流や社会参加についても考えるように促す。 ・「あなたも将来ニシオカさんのように途上国に行って、国際協力をするのはどうか?」と問いかける。 ・それぞれの思いを共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・考えがまとまっていない場合は、3分ほど考える時間を与える。 	
展開 (25分)	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者がボランティアをすることについてどう思うか問いかける。 ・それぞれの意見を共有する。 ・障害があっても、国会議員や JICA 専門家として活躍している人たちを紹介する。 ・紹介した人たちについてどう思うか、感想を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者がボランティアをすることについて Yahoo 知恵袋で質問された内容とその回答を紹介し、その可能性に気付かせる。 ・画面が見やすいように TV の位置を配慮する。 	Yahoo 知恵袋の質問とその回答 船後（ふなご）靖彦議員と木村英子議員の記事
まとめ (15分)	<ul style="list-style-type: none"> ・よりよい世界を創るために、自分のできる国際協力は何か考え、意見を共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国際協力の形は人それぞれであることを押さえる。 	奥平真砂子さん、廣瀬芽里さん、網川章さんの記事

08 | 評価規準に基づく本時の評価方法

- ①世界的な問題について、自分に何ができるか多面的に考えられたか。【知・技】
- ②国際協力について、自分の考えをまとめ、伝えることができたか。【思・判断・表】
- ③自分の特性を理解した上で、積極的に社会参加について考えることができたか。【学・人】

09 | 学習方法及び外部との連携

生徒二人は、同じクラスではあるが異学年であるため、普段の授業は別々に受けることが多い。そこで今回は、同じテーマについてお互いの意見や思いを伝え合い共有することが大事であると考え、一緒に授業を行うことにした。また、生徒の一人は、ベッドで横になった状態で授業を受けることが多く、通常は教員が代筆してノートを作ることが多いが、今回はパソコンにリングマウスを使って自分で入力し、ノートをまとめることにした。このことによって、学習内容がより定着し、自己発信により意欲的になったと思われる。ただ、入力にはかなり時間がかかるので、必要に応じて支援をしながら、意見をまとめる時間を十分に確保した。

外部との連携は今回特に行わなかった。

10 | 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組

校内においては、まず個人で、英語や総合的な学習の時間、特別の教科道德の時間に、関連した内容を扱っている単元の中で、国際理解の授業を積極的に取り入れていきたい。また、他の教員に対しては、授業研究の中などで国際理解教育について話し合い、教科の特性を生かした実践を各授業で行うよう働きかけていきたい。担任をしている教員には、総合的な学習の時間等に取り入れられないか、検討してもらえるよう依頼し、必要なら授業作りを支援したい。

校外については、学校間で交流できるように、他校の英語科や特別支援学校の教員に働きかけて、協力を得られるようにしていきたい。

自己評価

● 苦労した点

全4回という限られた時間の中で、多くの情報を提示し、その内容を元に考える活動を行うのは、かなり難しかった。生徒たちは、これまでの学習の中で断片的に国際理解教育を受けてきているが、どの程度の知識があるのか分からず、時間配分に苦労した。また、生徒が二人しかいないので、多様な意見が得られない難しさがあった。

● 改善点

本校で再度実施する場合は、中高合同の講座にしてできるだけ生徒数を確保して、グループでの活動を充実させたり、全校集会や文化祭での発表など多くの人に見てもらう機会を設定したりできると良いと思う。

● 成果が出た点

今までは、ごく身近な出来事や興味のあることしか話題に上らなかったが、本学習後は、日本や世界のニュースについて、生徒から話題が出るようになった。また、フードロスや環境問題などに対する意識が変わったように思う。

● 学びの軌跡（児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど）

最初、「国際協力」について知っていることを聞いたが、二人とも全くイメージがわからず、次のような答えしか返ってこなかった。

国際協力について、知っていること、思うこと

- ・G20
- ・地球温暖化

しかし、プラスチックストローやファストファッション、スマホの問題について学習すると、二人ともさまざまな感想をもち、解決策を考えることができた。

11月1日 国際理解③

①プラスチックストローを使うことについてどう思いますか？
 ・プラスチックストローはリサイクル出来なくて、動物を苦しませているので、紙ストローにしたほうがいい。
 ⇒ 実際にある運動、プラスチックストロー反対運動

②ファストファッションの問題について、どう思いますか？
 ・安く、可愛いですが、危険な事故などが起こることを考えるともう少し考えて洋服を着たほうがいいと思う。
 ⇒ 考えて購入する。

③スマホの裏側を知って、どう思いましたか？
 ・簡単に連絡や、インターネットを使えるけれど、小さな子供がコニコアは小さな子供達が働かされていることにびっくりしました。
 ⇒ 小さな子供が苦しい思いをしている。

11月1日 国際理解③

①プラスチックストローを使うことについてどう思いますか？
 ・プラスチックストローが原因でたくさんの動物を死なせていると分かって、プラスチックストローを使わない動きを広めると良いと思う。

②ファストファッションの問題について、どう思いますか？
 ・安いからといって、すぐに捨てるのは良くないと思う。

③スマホの裏側を知って、どう思いましたか？
 ・スマホを作るために子どもたちが働かされていることを知って、子どもたちを働かせている人たちに怒りを感じました。

単元の終わりには、「国際協力」の必要性について理解し、各自が自分にできる国際協力は何か考えることができた。

○自分に出来る国際協力は何か？

①すぐ出来ること
 ・家にあるペットボトルのキャップや書損じハガキをNGO(非政府組織)に寄付をする。

②中学部の間に来ること
 ・国際協力のことや、現地の状況のことなどを調べて、そこから自分が協力できることを考える。

③社会人になってから出来ること
 ・今、活かしている方々の事を自分でも出来ることを探して自分も挑戦してみる。

いっしょ

○ 3つの身近な物について、その裏側を見てきましたが、それぞれの問題に対して、自分にできることは何ですか？

①すぐできること

・着られなくなった服を再利用する。リサイクルショップに売る。

②中学部の間にできること

・(本人からアイデアはできませんでした。)

③社会人になってからできること

・(本人からアイデアはできませんでした。)

○ 自分ができる国際協力は何ですか？

①すぐできること

・どんなボランティアがあるか調べる。

②中学部の間にできること

・(本人からアイデアはできませんでした。)

③社会人になってからできること

・(本人からアイデアはできませんでした。)

● 担当クラス以外での実践・報告について(内容・対象人数)

①所属校の職員会議で研修内容を報告 対象人数:全教員 70人

②小学部(1クラス)でサモアに関する授業を2時間実施 対象人数:2人

③高等部(合同クラス)で実践授業を1時間実施 対象人数:11人×1クラス

● 授業者による自由記述

サモアで障害児者施設を見学して、障害者理解が進んでいないことを実感した。授業を考えるにあたり、最初日本とサモアの障害児のおかれた環境について比較し、彼らに必要な支援について考えさせる内容はどうかと検討した。しかし、自分たちの方が幸せだと現状に満足したり、人任せの支援について考えたりするだけでは不十分だと思い、障害の有無に関わらず人や世界の為に何かできるという意識を持ってほしいと考え、今回の授業案にした。

【参考資料】

1) JICA 北陸 教師海外研修 事前研修で使用したパワーポイント資料

2) 「国際理解教育実践資料集～世界を知ろう!考えよう!～」埼玉県立総合教育センター監修、国際協力機構(JICA)地球ひろば、2015年

Unit4 Homestay in the United States (NEW HORIZON English Course Book 2)

氏名	前川 麻耶	学校名	白山市立白嶺中学校
担当教科等	英語科	対象学年(人数)	2年1組(8名)
実践期間(時数)	2019年10月～11月(4時間)		

実施概要

01 | 実践する教科・領域

英語科

02 | 単元(活動)名

Unit4 Homestay in the United States (NEW HORIZON English Course Book 2)

03 | 授業テーマ

授業テーマ

「世界とつながる私たち」

単元目標

- ・人にアドバイスすることができる。
- ・自分の意思を述べたり、これからのことを予測したりすることができる。
- ・決まりごとについてたずねたり伝えたりすることができる。

関連する学習指導要領上の目標

中学校(外国語)より

社会的な話題に関し聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて書くことができるようにする。

04 | 単元の評価規準

① コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	しようと思っていることを伝えようとしている。
② 外国語表現の能力	自分の意思を相手に伝えることができる。
③ 外国語理解の能力	ホームステイでの相談とその回答を読んで、内容を理解することができる。
④ 言語や文化についての 知識・理解	have to / 助動詞 will / 助動詞 must の形・意味・用法に関する知識を身につけている。

05 | 単元設定の理由・単元の意義

【単元設定の理由】

本単元には、アメリカでのホームステイで食べきれない量の食事を出され、登場人物がどうすればよいのか困る場面がある。そこから生徒の関心の高い「食」に注目し、日本の食料問題の現状と世界の現状に目を向けさせ、他人事ではない複雑な問題が存在することを知った上で、自分には何ができるのかを考えさせたいと思い設定した。

【単元の意義】

ほとんどの生徒にとってホームステイは未経験である。しかし、教科書本文には「完璧な英語でなくてもいいから英語を話すこと」や「率直かつ丁寧に意志を伝えること」など、コミュニケーション一般に大切なことが含まれており、ホームステイの心構えとともに、コミュニケーションの基本的態度について考えさせられる。

その後に発展的課題として、食料問題を扱う。「持続可能な開発目標」の「2 飢餓をゼロに」の視点からは、日本では毎日様々な食品が手に入り、学校では当たり前のように温かい給食が時間になったら食べられるが、世界中どこでも状況が同じわけではないことに気づかせ、感謝の気持ちを再度認識させる。また、「12 つくる責任 つかう責任」の視点から、日本の食品ロスの問題について考えさせる。

【生徒観】

本学級にはアメリカへ行った経験のある生徒が2名、ホームステイの受け入れを経験した生徒が1名いるものの、普段外国人と接する機会はALTが来るときのみで、なかなか世界へ目を向けたり、つながりを感じたりする機会がない。生徒はUnit4に入る前に全校一斉道徳授業で、サモアの現状を知るとともに、SDGsについて初めて知識を身につけた。ごく限られた地域の中で、限られた人との関わりだけで生きているように思われるが、「食」を学習することを通し、自分の生活は世界とのつながりがあるからこそ成り立るということに気づかせたい。

【教材観】

本単元は、生徒がアメリカでホームステイをしたときの困った事とその解決策とが扱われる教材である。旅行と違い、家族の一員として過ごすホームステイでは、コミュニケーションが重要になる。本文では、家庭内でのルールを教わる場面、ステイ中に困った事についての相談と助言のやり取り、助言を受けて自分の意思を適切に述べる場面などが紹介されており、コミュニケーションの大切さや難しさについて考えさせることができる教材である。

発展的課題として、「持続可能な開発目標」のうち2番と12番の2つの視点から、世界の食料問題と日本の現状を見た上で、自分には何ができるのかを考える。知らず知らずのうちに世界に支えられていることを理解することで、他人事として捉えられがちな世界の問題を自分とのつながりの中で考えさせることができる。

【指導観】

教科書本文を8時間扱ったあとの4時間で構成する。ホームステイをした登場人物の味が困っていた食事の場面に注目させる。ステイ先で出される食事の量が多すぎて困っているが、すべて食べきらなければならないのか、伝えるべきなのか先生に相談している。本校生徒は給食の残食0の記録を日々更新している。小学校と中学校が連携して、自分の食べられる量を把握し、食べきれない量に自分で加減して食べきる指導をしている。学校ではそのような状況であるが、日本全体では廃棄する食料の量がとても多いこと、その一方で世界には飢餓に苦しむ国があることを、SDGsに関連させながら学習させたい。そこから多面的に自分たちの取るべき行動について考えさせたい。

06 | 単元計画 (全4時間)

時	小単元名	学習のねらい	学習活動	資料など
1	食料問題の現状	世界と日本の食料問題の現状を知る	<ul style="list-style-type: none"> ・日本で捨てられる食料品の量と世界の食糧援助量を対比する ・途上国における飢餓の問題と先進国における生活習慣病などの問題を考える ・自分たちの食生活を振り返る 	<ul style="list-style-type: none"> ※『どうなってるの? 世界と日本』 ※『世界の食料』 ※事前研修のスライド (ハンガーマップなどの資料) ※SDGsカード
2	外国に支えられている日本の食卓	私たちの食生活と世界とのつながりを知る	<ul style="list-style-type: none"> ・サモアの食文化と日本の食文化の違いを知る 自給自足／輸入に頼る 年長者から／全員一緒に 学校給食なし／あり ・お好み焼きから日本の食料自給率を知り、世界とのつながりを理解する ・詳しく知りたいテーマを決めて、調べ学習をすることで理解を深める 食料自給率 飢餓をなくすための日本の取り組み 日本の食品ロス など 	<ul style="list-style-type: none"> ※『どうなってるの? 世界と日本』 ※『世界の食料』 ※サモアの食事写真 ※白山市内の中学校の3年間の残食量 ※広報野々市 ※ワークシート
3	食料問題を解決するために	自分たちにできることを考える	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の食料問題の解決に向けたJICAの取り組みを知る ・自分たちには何ができるか考える 今できること 1年以内にできること 大人になったらできること 個人でできること 白嶺(学校)としてできること 家庭でできること 日本(国レベル)でできること ・しようと思っていることを英語で書く 	<ul style="list-style-type: none"> ※ワークシート ※事前研修のスライド ※YouTube「動画ピコ太郎×外務省(SDGs)～PPAP～」
4 本時	自分たちにできること	食料問題を解決するための考えを伝える	<ul style="list-style-type: none"> ・食料問題について調べたことと、解決するために自分たちにできることを英語で発表する ・JICA 武田さんの講評を聞くことで考えを深める 	<ul style="list-style-type: none"> ※ワークシート

07 | 本時の展開（4時間目）

本時のねらい

食料問題を解決するための考えを伝える

過程時間	教員の働きかけ・発問および学習活動・指導形態	指導上の留意点（支援）	資料（教材）
導入 (10分)	<ul style="list-style-type: none"> ・前時までの学習を振り返る ・課題を確認する ＜世界に存在する食料問題を解決するために、自分たちにできることは?＞ ・調べたテーマごとに、スライドを使用しながら考えを発表する 		
展開 (30分)	<ul style="list-style-type: none"> ・発表を聞いて質問または意見を述べる ・参観者からの質問に答える ・ゲストティーチャー（JICA 北陸の武田さん）の講評を聞く（英語に対する講評、個別テーマへのコメント、経験談など） 	相手意識を持った発表の仕方を意識させる	
まとめ (10分)	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が感じたことや考えたことを書く 		ワークシート

08 | 評価規準に基づく本時の評価方法

②外国語表現の能力

自分の意思を相手に伝えることができる。【発表】

09 | 学習方法及び外部との連携

JICA 北陸から武田さんにゲストティーチャーとして来ていただき、生徒の発表に対する指導・講評を得る。お話を聞いた後に、深まった考えを書くことで学びを再認識させる。ペア活動を取り入れることで自分の考えを深める。

10 | 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組

- ・国際理解教育勉強会のチラシを全教職員へ回覧し、参加呼びかけ
- ・国際理解教育勉強会での資料を全教職員へ回覧し、内容報告・還元
- ・国際理解教育の授業（道徳）を全教職員へ公開
- ・実践授業（英語）を全教職員へ公開

自己評価

● 苦労した点

- ・発展的課題として4時間の単元計画を立てたが、実際には調べ学習や発表スライド作成のためにそれ以上の時間がかかった。教科の学習の中で発展学習をするための時間を捻出するには、計画的に考え行わなければならない。

● 改善点

- ・中学校の英語の教科書には、国際理解教育につながる題材が複数存在するので、どの学年のどの単元で扱うか、どこに焦点を絞って深く考えさせるか、あらかじめ計画し決めておく。そして、学年の実態に応じ段階的に、継続的に行う。

● 成果が出た点

- ・本単元に入る前に、SDGs についての概念を全校対象の道徳の授業を通して伝えてあったことで自然に導入ができた。
- ・生徒が自分にできることを考える際に、保護者の意見も聞くことで生徒の考えの幅が広がった。

● 学びの軌跡（児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど）

本時の授業に出席した全生徒5人を対象に、単元終了後にアンケートを実施した。

(1) これまでの学習をやって良かったと思いますか。その理由は？

- YES・いままで知らなかったことを知ることができたから。
- YES・世界中で起こっている食料問題について、前は知らなかったことが知れたから。
- YES・世界にある食料問題や日本にある食品ロスの問題についても知ることができたから。
- YES・世界の現状が知れたから。
- YES・世界環境について見直す点がたくさんあるから。

(2) これまでの学習を通して、最も印象に残っていることは何ですか。

- ・世界には食品ロス、水不足などの問題がある国がたくさんあること。
- ・自分が想像していたよりも、多くの食料が日本では捨てられていたこと。
- ・水不足や食品不足で飢餓で苦しんでいる人がたくさんいること。恵方巻などがロスになっていること。
- ・1分間で17人の子どもが亡くなっていること。
- ・食品ロスの量。

(3) これまでの学習を通して、以前と比べて、どんなふうに関わり方や考え方が変わりましたか。

- ・食品ロスを出さないようにしっかり食べることをしたいと思いました。そして節水も続けたい。
- ・今までは家で作ったものを「食べられないから」と言って捨ててしまっていたけど、それはよくないことだと実感して、ちゃんと食べようと思った。
- ・食品ロスなどを無くしたり、全て食べたりしようと思った。また、他国についてもっと問題があると思うので、それを調べたい。
- ・途上国の問題が知れて、自分も寄付などをして協力したいと思いました。
- ・残さず食べ物は食べようと思いました。

(4) その他、自由に感想を書いてください。

- ・今回この勉強をして SDGs のことや世界のことを知ることができた。これからは、それらを頭に入れながら生

活したいです。

- ・今回の発表までは、飢餓に苦しんでいる人々のことなどは全然知らなかったけど、調べたことによって、今までの生活の中で変えていかなければならないことがあったので、今回調べたものを元に、どんどん変えていきたいと思いました。
- ・初めて知ったことなどを発表し、それから未来の自分にできることなどを考え、他の人の発表も聞き、これからどう改善していかなければいけないのかも一緒に考えながらすることができてよかったです。また、JICAの方からもしっかり話が聞けてよかったです。
- ・初めはパワーポイントを作るのにとっても時間を使いました。次に、日本語から英語に直すときに辞書やネットで単語を調べたら、不自然だったりしたのでびっくりしました。発表では、たくさんの人が見に来ていて緊張も少しはしたけど、自分の主張を言えたのでよかったです。
- ・今日までの学習を通して、日本が豊かで自分たちが途上国にできる事がないかを考えるようになった

● 担当クラス以外での実践・報告について (内容・対象人数)

①全校一斉に道徳の授業を2時間連続して実施

- ・「自分(日本)の当たり前は、みんな(世界)の当たり前?」
(内容項目 C(17) 我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度)
- ・「異文化理解～国際社会に生きる一員として～」
(内容項目 C(18) 国際理解、国際貢献)

対象人数: 全校生徒(計36名)と教員(10名程度)

②中学校棟オープンスペースにSDGsに関する図書とJICA資料を展示

対象人数: 全校児童生徒(計76名)と全教職員(計25名)

③英語科教室でサモアに関する図書やお金、工芸品を展示

対象人数: 教室を使用する小学3年～中学3年の児童生徒(計62名)

● 授業者による自由記述

授業を参観した他教科の先生・併設の小学校の先生の感想

- ・飢餓やフードロスの具体的な量など、通常ならあまり実感を伴わずに終わってしまいそうな事柄について、主体的に深く考えさせることができていてよかった。
- ・生徒が自分にできることを考えている(意図的に考えさせている)ところがよかった。
- ・生徒が自分の知っている英語をしっかりと使っていて、学習が生きていた。
- ・英文を作り、英語でとても上手に発表していた。英語の時間はすべて英語で行う授業を継続してきた成果だと思う。

【参考資料】

- ・日能研教務部「SDGs 国連 世界の未来を変えるための17の目標 2030年までのゴール」2017年
- ・JICA 地球ひろば <https://www.jica.go.jp/hiroba/index.html>
「どうなってるの?世界と日本」
「世界の食料」
「共につくる 私たちの未来」
「国際理解教育実践資料集～世界を知ろう!考えよう!」
- ・国連 KIDS <https://www.unic.or.jp/kids/>

- ・KIDS 外務省 <https://www.mofa.go.jp/mofaj/kids/index.html>
- ・YouTube 「動画ピコ太郎 × 外務省 (SDGs) ~ PPAP ~」
- ・YouTube 「SDGs NOW! 17 Goals to Transform Our World」
- ・広報野々市 2019年10月号 「10月は食品ロス削減月間 合言葉は『もったいない!』」

【資料 (教材)】

パワーポイント①

世界にはどんな
食料問題があるのだろう？

1

食料問題

世界には？

- ・食料が足りない
- 食べられない
- 栄養失調
- ・サモア 栄養バランスが悪い
- 肥満、糖尿病

日本には？

- ・廃棄する食糧 恵方巻、ケーキ etc
- ・豚コレラ、いのしし
- 殺処分される 肉を食べられない
- ・外来種の魚が増加
- 日本産の魚が減少
- ・サンマの漁獲量減少
- 価格上昇
- ・糖尿病、成人病

2

食料問題

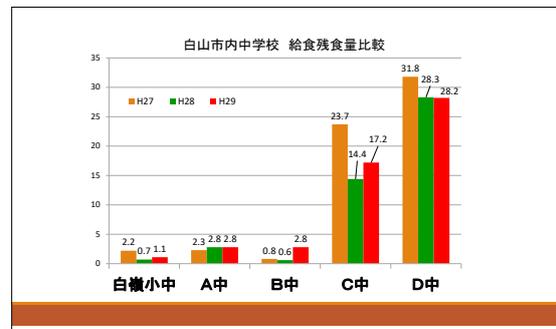
白山市には？

- ・残食多い

白嶺には？

- ・給食の残食
- ほとんどない
- ・去年より増加している？

3



4

開発途上国でも発展度合いには大きなレンジが存在する

現状は？

課題・問題も変わってくる
= 必要な支援も変わってくる

- ・紛争
- ・難民
- ・飢饉
- ・環境汚染
- ・格差

5



6

- ・毎日食事をお腹いっぱい食べられること
- ・学校に行けば温かい給食が用意されていること

当たり前のこと **×**

7

まずは、SDGs(持続可能な開発目標)って何？

世界がこうなったら **SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS** **いよいよ！を表現**

8

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
 目標2: 飢餓に終止符を打ち、食料の安定確保と栄養状態の改善を達成するとともに、持続可能な農業を推進する

9

SDGs レンズを使って比較してみよう

例えば、“食べ物”を通して考える

貧困国：食べ物がない(飢餓)

サモア：低所得国だけでも食べ物の偏り(肥満)が問題になっている

日本：食べ物は豊富にあるけど、食品ロスの問題がある

10

アフリカは栄養改善が依然として課題

【ガーナ】
 味の素(株) 栄養改善食品「KOKO Plus」を開発 (JICA-BOPビジネス連携促進)

- ガーナの伝統的な雑乳食「kokko」(発酵コーンで作るお粥)とエスリキートンタンパク質など乳幼児に必要な栄養素を混ぜ合わせたサプリメント
- 味の素「ガーナ栄養改善プロジェクト」
https://www.jica.go.jp/press/press/2016/06/06_01.html

11

食べ物・栄養状態という視点から見た時

出典先：国際連合世界食糧計画 (WFP) 東京事務所のリム・ヘン・パド (<http://jfa.wfp.org/>)

12

日本の食料問題

年間日本は
約1,800~2,000万トン
食料廃棄物が出ている

その内、まだ食べられるのに捨てられている食べ物、いわゆる「食品ロス」が日本では年間約632万トン

↓これを日本人1人当たり換算すると
毎日お茶碗約1杯分(約136g)のご飯の量を捨てていることになります

13

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
 目標12: 持続可能な消費と生産のパターンを確保する

14

世界には飢餓が存在する一方で、

日本の食料自給率は現在39%(平成27年度)で、大半を輸入に頼っていますが、その一方で、食べられる食料を大量に捨てているという現実があるのです。

世界の食料廃棄量	日本の食品ロス
2014年 約320万トン	年間 約632万トン

動画も見て、よりよく理解しよう!
 <SDGs GOAL2 飢餓をゼロに>
 IICA地球ひろばの動画
<https://www.youtube.com/watch?v=ogKaa2TbpBY&feature=youtu.be>

15

自分たちの食生活を振り返ってみよう

△家族: 冷蔵庫で腐ってしまう食品(ジャム、野菜など)

○自分: 塩分を控えている→健康のため

○自分: なるべく外食を控えている

△自分: どこに置いたか忘れて、そのまま消える?(お菓子)

○自分: なるべく偏りのない食事に心がけている

△家族: 食べきれずに捨てる(作りすぎ)

○みんな: 残さず食べきる、友達にあげる

16

私たちの食生活と世界とのつながり

1

比べてみよう

日本

- ・学校給食あり
- ・みんな一緒に食べる
- ・「いただきます」
- ・主食:米
- ・量が少ない
- ・種類が多い

サモア

- ・学校給食なし
- ・年長者から食べる
- ・「アーメン(アメン)」
- ・主食:タロイモ
- ・量が多い
- ・種類が少ない

2

3

「食卓エネルギー消費マップ」

4

日本の食生活 50年前と今… どう変化した？

※農林水産省 ジュニア農林水産白書(2019)

5

お好み焼きの材料はどこから来ているの？

※お好み焼きの材料はどこから来ているの？ 世界と日本(JICA)

6

たとえばこのお皿にのっている食べものの、日本における自給率を見てみよう

- オレンジジュース 14%
- バナナ 0%
- ポテトフライ 40%
- にんじんの1/5-煎 40%
- 鶏のみそ煮 92%
- エビフライ 92%
- ショートケーキ 29%
- ハンバーグ 12%

7

日本の食料自給率

2017年度 食料自給率(ベース) 23% 生産額ベース 66%

資料) 農林水産省「食料自給率」等

8

もし今、食料の輸入が止まったら…？

9

テーマを決めて調べよう

もっと詳しく知りたいこと・疑問に思うこと

1. 地球温暖化と食料・水の関係
2. SDGs(12)を達成するために
3. 日本の食品ロスについて
4. SDGs(2)を達成するための日本の取組
5. 日本から途上国に送っている食料

10

ワークシート①

P.54-61 Unit 4 世界とつながる私たち
Grade_2_No.____ Name_____

課題<世界に存在する食料問題を解決するために私たちができることは？>

日本を含む先進国とアフリカを中心とする途上国のそれぞれが抱える「食料問題」について学びました。その中で、自分たちの食生活を振り返ると、途上国からの支援なしには成り立たないことも分かりましたね。さまざまな問題を解決するために、私たちにどんなことができるのでしょうか？

自分のテーマ

STEP1 もっと知りたいことについて調べよう。

※出典を必ず書くこと



STEP2 私たちにできることを考えよう。
例：毎日の給食を残さずに食べる。／地元産のものを買う。／行事の食べ物を販売する企業は予約制とする。

	今すぐできる	1年以内にできる	大人になったらできる
個人で			
白標で (学校として)			
家庭で			
日本で (国レベル)			

STEP3 家の人の考えも聞いてみよう。(青ペンで追加する)

ワークシート No.42

ワークシート②

P.54-61 Unit 4 世界とつながる私たち
Grade_2_No.____ Name_____

課題<世界に存在する食料問題を解決するために私たちができることは？>

自分のテーマ

STEP1 発表内容を整理しよう。

	発表内容
事実	
まとめ (感想や 考えたこと など)	

STEP2 発表原稿を英語で書こう。

	My name is... I'm(We're) going to talk about...
Facts

Summary (impression, what you thought)
Thank you for listening. Do you have any questions or comments?	

ワークシート No.43

ワークシート ③

P.54-61 Unit 4 世界とつながる私たち
 Grade No. Name

課題く世界に存在する「食料問題」を解決するために私たちができることは？>

これまでの学習で、先進国と途上国のそれぞれが抱える「食料問題」について学び、それらを解決するためにできることを考えてきました。調べたことや考えたことを伝えるときに、友達の記事やゲストティーチャーの話聞いて、さらに考えを深めましょう。

2
食料

12
食料

STEP1 友達の記事をよく聞いて、質問や意見を書おう。

Name	新たな発見・疑問に思ったこと・ひらめいたこと など

振り返り 今日の授業を振り返ろう。

(1) 授業に積極的に参加することができた。(A B C)
 (2) 英語らしい発音に気をつけて発表することができた。(A B C)
 (3) 聞いている人を意識した発表の仕方ができた。(A B C)

うまくできたところや難しかったところなど

振り返り これまでのUnit4の発展学習「世界とつながる私たち」の学習を振り返ろう。

①世界と日本の食料問題を知る。
 ②私たちの食生活と世界とのつながりを知る。
 ③もっと知りたいテーマを決めて調べる。
 ④自分たちにできることを考え、発表する。



(1) これらの学習をやって良かったと思いますか。その理由は？ (Yes No)

(2) これらの学習を通して、最も印象に残っていることは何ですか。

(3) これらの学習を通して、以前と比べて、どんなふうに感じ方や考え方が変わりましたか。

(4) その他、自由に感想を書いてください。

ワークシート No.44

Unit 4 To Our Future Generations

氏名	上谷 由喜	学校名	石川県かほく市立河北台中学校
担当教科等	英語	対象学年(人数)	3年1、2、3組 (40名)
実践期間(時数)	2019年9月～10月 (4時間)		

実施概要

01 | 実践する教科・領域

英語

02 | 単元(活動)名

Unit 4 To Our Future Generations

03 | 授業テーマ

授業テーマ

「誰もが安心・安全に暮らせる住みよいまちづくり」について考えよう。

単元目標

「東日本大震災」を通して「住み続けられるまちづくり」について関心の目を向け、増加する「外国人と共につくるよりよいまちづくり」について考えることで、「異文化理解」「他者理解」を深めることができる。

関連する学習指導要領上の目標

中学校(外国語)より

- ・外国や我が国の生活や文化についての理解を深めるとともに、言語や文化に対する関心を高め、これらを尊重する態度を養う。
- ・広い視野から国際理解を深め、国際社会に生きる日本人としての自覚を高めるとともに、国際協調の精神を養う。

04 | 単元の評価規準

① 知識及び技能	持続可能な開発のための17の目標の1つである「住み続けられるまちづくり」において、総合的・複合的に関連してくる身近な問題を取り上げ、「外国人と共生するためのよりよいまちづくり」に必要なことについて理解を深める。
② 思考力、判断力、表現力等	自分たちが住む市、石川県における外国人の数やその生活実態についての情報を収集し、そこから見える課題を整理・分析することで、誰もが安心して暮らせるまちづくりに必要なことについて多面的に考え、自分の考えを英語で表現する。
③ 学びに向かう力、人間性等	主体的・協動的に課題解決に取り組むとともに、自他のよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。

05 | 単元設定の理由・単元の意義

【単元設定の理由】

「グローバル人材」の育成には、「異文化理解」「他者理解」が必要不可欠である。本単元において、震災という媒体を通し、「外国人と共につくるまちづくりの在り方」を考えさせることで、人権に対する意識を高めたり、ボランティアなどの社会参画に対する態度を養ったりすることができる。これまで以上に実践的行動力を身につけさせることができると思う。

【単元の意義】

「持続可能な開発のための17の目標」について、11番のアイコンを起点として総合的・複合的に関連してくる身近な課題について考える。多様な意見や価値観に触れることで、問題解決には多面的な見方・考え方が大切であることを学ぶ。

【教材観】

教科書の内容は、英語で書かれた避難訓練のお知らせ、防災に関する登場人物の対話、さらに中澤宗幸さんが被災地の流木で制作したバイオリンと、その演奏リレーについてのエピソードから成っている。バイオリンを通じて引き継がれる「震災の記憶」についての話だが、具体的に、故人の思い出や失われた故郷の姿、あるいは震災から学んだ防災の教訓などについても関心の目を向けさせ、理解を深めさせることができる題材である。

発展的課題として、増加する「外国人とともにつくるよりよいまちづくり」について考える。災害弱者と呼ばれる人たちの中には外国人が含まれるからである。そこで、持続可能な開発のための目標の1つである「住み続けられるまちづくり」について関心の目を向けさせ、総合的・複合的に絡み合うことで生じる問題点について知り、解決策を考える。外国人との共生に焦点を当てることで、防災にとどまらず様々な視点から「異文化理解」「他者理解」を深めることができる。

【生徒観】

これまでの英語の授業では、「地球市民として私たちができることは何だろう?」と題して、教科書の内容を発展させ、様々な課題について考えてきた。Unit2 ではアマゾン川流域の森林伐採を通して環境問題について、Unit3 では力カオ農家の現状を通して世界の子どもたちが抱える問題について取り扱い考えさせた。個人探究、グループ探究など、形態を変えて調べ学習や表現活動をおこなった。SDGs と関連させて多面的にその解決方法について考え、英語で発信することで、世界と自分のつながりについて実感し、当事者意識を高めることができた。また、表現活動をおこなう授業においてはゲストティーチャーを招聘し、語学力だけでなく、その内容についてのフィードバックもおこなってきた。

これを踏まえ、次は身近な地域の現状や課題に目を向けさせたい。かほく市や石川県に住む外国人が、安心安全に生活できる環境を整えるためには何が必要かを考えることで、単なる現状理解にとどまらず、自分たちが身近にできる国際協力についても関心の目を向け、実践力を高めることができる。

【指導観】

防災についての知識だけでなく、震災の記憶の引き継ぐ方法に目を向けさせ、自分たちができることについても考えさせていきたい。また、万一災害が起きた時には、その場にいる人が相互に助け合う必要があり、そこで英語が必要になることも十分に想像できる。本題材をきっかけに、日本の防災や災害について外国人に自分の知っていることや考えていることを表現できるようにさせたい。

「知る」「考える」「行動する」につながるグローバルな視点を身につけさせ、持続可能な開発のための目標の達成に少しでも貢献しようとする意識を高めたい。将来にわたって身近な問題や世界の問題を自分事としてとらえ、その解決のために自分ができることを探究し続けるような生徒を育てたい。また、他者と協働することで様々な価値観に触れ、その中で自分の意見を再構築していく態度を養いたい。そして、実生活や実社会の中で実践していく力を育むための一助となるような課題解決的な学習を進めていきたい。

また、「異文化理解」「他者理解」の大切さを理解させ、誰もが幸せに暮らせるよう、自分たちができることについて多面的に考えさせたい

06 | 単元計画 (全4時間)

時	小単元名	学習のねらい	学習活動	資料など
1	「防災」の視点から考える「住みよいまちづくり」	自国・他国の「防災」事情を知り、自分たちが解決していかなければならない課題について理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・サモアで観測された東日本大震災のデータは、日本が無償で現地の気象局に建設したものからであることを知る。 ・サモア国民の防災に対する意識と自分たちの防災に対する意識を比較する。また、日本に住む外国人は災害弱者になることを理解する。 ・外国人も含めて、「住みよいまちづくり」に必要なことは何かを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・サモア気象局の写真 ・サモア国民の「防災」についてのインタビュー内容 ・SDGs 資料
2	「住みよいまちづくり」に必要なこと	「住みよいまちづくり」について様々な視点から考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・「住みよいまちづくり」には何が必要か、考えを共有し、テーマを絞って調べ学習をする。 ・外国人との共生の在り方について、自分の考えを多面的にまとめる。 	
3	「住みよいまちづくり」について考えを深める	「住みよいまちづくり」について自分の意見を英語で表現する。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の意見を英語で論理的に表現し、プレゼン原稿を作成する。 	
4 本時	「住みよいまちづくり」について発表する	「住みよいまちづくり」について英語で意見交換を行い、助言をもらうことで自分の考えを深める。	<ul style="list-style-type: none"> ・「住みよいまちづくり」についてのプレゼンを行う。 ・ゲストティーチャーから助言をもらうことで、自分の考えをさらに深める。 	

07 | 本時の展開 (4時間目)

過程時間	教員の働きかけ・発問および学習活動・指導形態	指導上の留意点 (支援)	資料(教材)
導入 (3分)	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が司会進行を行う。 ・課題を確認する。 「誰もが安心・安全に暮らせる住みよいまちづくり」について考えよう 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒自身が発表会を企画運営することで、主体的に授業に参加する雰囲気を作る。 	
展開 (40分)	<ul style="list-style-type: none"> ・順番にプレゼンを行う。 ・プレゼンに対する質問や意見を述べる。 ・ゲストティーチャー (県内在住の外国人) からの質問に答える。あわせて指導・講評ももらう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な価値観に触れることを優先させるため、質疑応答の際の使用言語は日本語を可とする。 	
まとめ (7分)	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の授業を通して自分が感じたことや考えたことを書く 		

08 | 評価規準に基づく本時の評価方法

③学びに向かう力、人間性等

主体的・協動的に課題解決に取り組むとともに、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。

→発表、振り返りのワークシートから評価する。

09 | 学習方法及び外部との連携

かほく市生涯学習課に依頼して、かほく市在住の外国人をゲストティーチャーとして招聘し、プレゼンの内容に対する指導・講評を得る。Unit3 では、世界の子どもたちが抱える問題について取り扱い、プレゼンを行った際、講評・指導を JICA 北陸の武田さんにして頂いていた。このようにして、常に「発信する相手（聴き手）」を意識させている。

課題研究の成果を英語で発信・提言することで、グローバル・リーダーとして必要な発信力や論理的思考力、表現力、実践的英語力を身につける機会としている。また、生徒自身が発表会を企画運営することで、主体的行動力をブラッシュアップしていく。

10 | 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組

- ・3年生「総合的な学習の時間」JICA 出前講座による SDGs についての授業とワークショップ。
一人一研究と文化祭での成果発表。
- ・2年生「総合的な学習の時間」SDGs を通して見る「世界の子どもたちが抱える課題」「支援の在り方」「幸せとは何か」について授業。
- ・2年1組「総合的な学習の時間」サモアについての学習。
- ・1年生「総合的な学習の時間」地元の海を通して見えてくる「海」問題について SDG s を通して考える。文化祭での成果発表。

自己評価

● 苦労した点

- ・在日外国人が抱える問題点、その背景・歴史・文化を知識として教えておく必要がある。
- ・マッピングを行う際、多面的に見ることができても、そこから思考を深め、自分事として捉えさせ、具体的な解決策を考えさせていくことに苦労した。

● 改善点

- ・以上のことについては、「総合的な学習の時間」の中で行えるとよい。(カリキュラム・マネジメントが必要。)
- ・知識を増やすために情報収集を行ったり、生徒にその手段・方法を指導したりする必要がある。

● 成果が出た点

- ・「当たり前が当たり前ではないこと、文化の違いを乗り越えていく必要がある。そういう問題を放っておくのではなく、しっかり考えていきたい。」という司会者生徒のしめの言葉にあったように、身の回りの問題を自分事として捉え、解決していこうとする意識が高まった。
- ・発表後、生徒は新たな課題を見つけにフィールドワークに出かけた。そこで取材したことや新たに見つけた課題を授業で発表した。以下にその内容を示します。

<生徒のメモより>

Q. 外国人は何人いた?
A. 1人。国際交流員1人3人。

Q. 中学生は何人いた?
A. 0人。

このイベントはボードゲーム

- ・ルールが難しい
- ・人数が限られていた
- ・途中参加できなかった
- ・国際交流員が1人でおおはじまり的な感じだった!

[外国人が少なかったの(2...)]

- ・まずイベント自体を知らなかった(広まっていた)
- ・ボスターが日本語だけ
- ・そのボスターは前にイベントを行なったときに自ら来なかった(おもしろい話か?)

[中学生が少なかったの(2...)]

- ・国際交流についてよく分かっていなかった(興味があった)
- ・宣伝の仕方(本館に放送・ボスター見送りの)

<外国人にインタビュー>

- ・仕事をしに来た3人がいてその人々にはこういうのに興味がないのでは?
- ・イベントの存在は子供・旦那に教えてもらって
+ 回覧板

<これからすべきこと>

- ・ボスターの多言語化
スーパ・ポスター
- ・高校受け入れ団体に宣伝をする
- ・食べ物系のイベント
(正確に食べ物とは?)
→ マジリアン・学飲に大抵したものに
<学校>
- ・1-2週間前からボスターを見送るべく
- ・直前に1.5.1から改めて放送をする
- ・友達を誘う
- ・国際系について興味をもってもらえる何かを!

<みんなに>

- ・実行しようと分かってはいるけどあま! 調べるのと実際にやってみるとは待たれど違ってくる
- ・これから自分がすべきことは何かにかれてみたいと分かってはいる
- ・“聞く”が大切!
外国人に聞くこと思いつかなくて、アイディアも待たれたし、その人々の外国人としての考え方を大いに
- ・この前のプレゼンで見方がずいぶん変わります!!
前に交流イベントに行くとときは楽しも〜という気持ちだったけど、今回は改善点とかを自然と見つけられたし、質問しようとか実行する気にもなれた!
- ・何かをするにしろ、かぎとして目的をもて参加すべき! 待てるものがある! 自分には質問すべき内容をそこまで考えてなかなかならぬ質問すればよかった〜とか今思っています。

● 学びの軌跡 (児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)

発表が終わって、たくさんコメントをしてくださりありがとうございました。あと、自分たちとちがう視点の意見があるほど、良かったです。(外国の方は災害はコワイ、で思えないのは嬉しい話は特にビックリしました!)

発表しただけで終わったら意味がないと思うので、行動にうつしていきたいです!

日本人だけでなく、実際に日本に住む外国の方からの意見を聞くことで、外国の方からどう感じることを新しい視点で知ることができるといふことが、私たちの案を実現させるにはまだ「考える」ことが必要か、と気づいた。

市役所に頼りたかったが、街を歩く案を考えたのは、いいことだと思いましたが、外国人や外国人に対して、まず日本人がどう思うか、外国人がどう感じるか、どう感じるか、日本人の意見をどうするか、大いに悩まされた。

私たちの発表は、多くの外国人が来るとしても日本の文化のよさを伝えることができないので、外国の文化からの見方は「全くの考えで、おもしろい」と刺激を受けました。両者が持つ異なる文化の最大の相違は文化の違いにあると感じました。

私たちの発表は、多くの外国人が来るとしても日本の文化のよさを伝えることができないので、外国の文化からの見方は「全くの考えで、おもしろい」と刺激を受けました。両者が持つ異なる文化の最大の相違は文化の違いにあると感じました。

外国人との共生に必要なことを考えるうえで、持続可能な開発の視点を持ち、他者と協働し、住みよいまちづくりに向けて自分にできることを考え、発信する。

7

「地球市民として私たちができることは何だろう？」
～東日本大震災を通して考える～

・在日「外国人とともにつくるよいまちづくり」について考え、身近にできる国際協力について関心の目を向け、自分たちができることを多面的に考え、発信する。

8

今後の学習の流れ

- ①個人で考える。
- ②グループで考える。
- ③新聞記事や社会科で学習したキーワード(多民族国家、多文化社会)をもとにグループで考える。
- ④グループ毎に発表し、全体で共有する。
- ⑤個人またはペアで自分の意見をまとめ、英語で表現する。(調べ学習可)

9

10

思考ツール(テータチャート)

[Body 1] 事実と提案内容	
[Body 2] 事実と提案内容	
[Body 3] 事実と提案内容	

【事実】 資料・図や写真・グラフなどデータがあるときよい。(課題の提示)

【理由】 自分たちの解釈・見解

【提案】 自分たちの意見・発言・思い・願い

説得力強化に

11

その他の条件

疑問詞 + 不定詞、
構文不定詞を、
それぞれ1文以上
使用すること。

12

みんなで目標を確認しよう!
発表内容に関するルーブリック

評価の観点	C 一部できているが不足がある	B CLEAR	A プラス 発端が見える
構成	導入-展開-まとめの流れになっていない。	導入-展開-まとめの流れになっている。	設定なし
説得力 (多面的な考え方)	根拠・理由に基づいた意見ではない。	根拠・理由に基づいた意見を述べている。	根拠が明確で、理由に説得力があり、意見の裏付けになっている。
自分の意見や感想	設定なし	テーマに沿った意見や感想が一語論として書かれている。	テーマに沿った意見や感想が自分ごととして書かれている。

13

みんなで目標を確認しよう!
発表内容に関するルーブリック

評価の観点	C	B (CLEAR)	A
声	聞き取りにくく、間や挿入に工夫がない。	部分的に間や挿入に工夫をつけたり、ところどころ聞こえない声で発表している。	相手にわかりやすいように間や挿入に工夫をつけながら、はっきりと大きな声で発表している。
目線・態度	相手を指す、原稿を見ながら発表している。	メモやアウトラインだけを話している。	メモやアウトラインを基に相手と目標を合わせた形で発表している。(時々としている)
Visual Aids	話に合わせて写真やジェスチャーを採用していない。	話に合わせて写真やジェスチャーを使っているがタイミングがずれている。	話に合わせてタイミング良く、また効果的に写真やジェスチャーを使っている。
質疑応答	相手の発表内容に関連した意見や感想を言えない。質問をすることができない。	相手の発表内容に関連した意見や感想を言うことができる。	相手の発表内容について、自分の考えと比較したり、関連付けたりした意見や感想を言うことができる。
	質問に対して答えることができない。	質問に対して、ときどき答えることができる。	質問に対して全て答えることができる。

14

外国人と共存するために～災害時～

3年1組 長谷川幸・杉本羽袖

Facts

Solutions

Suggestion

TALK & PLAY 国際ボードゲーム祭

@河北台健民体育館
第16回かほく市生涯学習フェスティバル

Kahoku
Stammtisch

10:00~15:00
色々な国の方と
交流できます。

ドイツ発祥
世界の旗を
コミュニケーション
ゲームの国

①10:00 スタート(2卓)
②13:00 スタート(2卓)
トッププレイヤーにやさしく
教えてもらいます!

世界のボードゲームを体験!

主催: かほく市生涯学習課 TEL: (076)283-7137 協力: 北越カサクラ

第16回かほく市生涯学習フェスティバル

国際ボードゲーム場 International Board Game Square

10/27 (Sun.)

1. 10:00 START (2 Table)
2. 13:00 START (2 Table)

We play communication games!
参加游戏! 모두 게임을합니다!
Chơi game cùng nhau! Jogue juntos!

TALK & PLAY!!

Kahoku Stammtisch
ドイツ発祥のゲームを外国人と
一緒にしてみよう!!

Let's play the game
from Germany!

◎河北台健民体育館
Kahokudai Kenmin Taiikukan

主催: かほく市生涯学習課 TEL: (076)283-7137 協力: 北越カサクラ

Let's follow the Japan's garbage rules

FACTS

①



②



Solutions

Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				



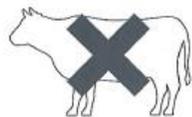
Suggestion



3208
Koshino Ai

Let's learn about religions!! ※宗教

—Facts—

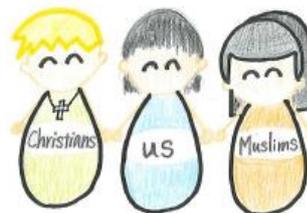


—Solutions—



Religious meals

—Goal—



Tsukina

安心・安全に暮らせるかほく市を築こう！



安心して暮らせる
社会の実現に向けて

未来への
提言・実践

<環境保全について考えよう>

- 2年生保健体育科「健康と環境」、3年生国語科「アラスカとの出会い」
- 3年生理科「人間と環境」、「科学技術と人間」、「科学技術の利用と環境保全」
- 3年生社会科「さまざまな国際問題」
環境・資源、エネルギー、防災・安全などの課題を解決するために、自分たちが家庭や社会でできることを考え、発信する。

課題設定→情報収集→整理・分析→発信・行動・振り返り

<再生可能エネルギーについて考えよう>

- 1年生家庭科「住生活と自立」
 - 2年生家庭科「環境に配慮した消費生活」
 - 3年生理科「エネルギー資源とその利用」
- エネルギー開発や利用における課題、持続可能な社会を目指して、自分たちが家庭や社会でできることを考え、発信する。

3年生 Let's Read 3 An Artist in the Arctic

<防災・補災について考えよう>

- 1年生家庭科「住生活と自立」、1年生理科「大地が揺れる」
 - 2年生社会科「世界から見た日本の自然環境」、「東北地方」
 - 2年生保健体育科「傷害の防止」、3年生理科「自然が人間の生活におよぼす影響」
- 様々な自然災害を取り上げ、地域の地形の特徴などと関連付けて考察する。災害の記憶を引き継いでいくために自分たちができることを考え、発信する。

3年生 Unit4 To Our Future Generations

2年生 Let's Read Cooking with the Sun

かほく市の取り組みについて

山地、丘陵地、段丘地、沖積低地、海岸砂丘地、2本の川で形成されており、緑豊かな自然環境を有しています。「かほく市地域防災計画」の策定、「かほく市あんしん・あんぜん防災マップ」の発行、「いメールかほく」の配信等、防災に対する対策が整っている。子ども達に安心・安全に暮らせるありがたさと、災害が発生した時自分たちはどうすべきかを、考えさせる必要がある。

教材化の視点

多様性：北極に住む民族の伝統、生活様式やそこに共存する生き物の生態について理解することができるとができる。
相互性：よりよい地球環境を作り上げたいという思いが受け継がれていることに気づく。
責任性：自分達一人一人の行動が、環境保全と安全な社会の実現につながることを理解して自分ができることに取り組むことができる。

身に付けさせたい態度・能力（重点）

- ◎様々な視点から防災、環境保全について考え、自分に何ができるかについて提言したり、実践したりすることができる。(多面的・総合的に考える力)
- ◎安心・安全に暮らせる社会を実現するのに大切なことについて自分の考えを友達と交流し、相手と目的を意識して発信することができる。(コミュニケーション力)
- ◎防災・環境保全を実現するには、自分たちにも担うべき役割と責任が社会の一員としてあることに気づき、実現に向け他者と協力して活動に取り組もうとする。(他者と協力する態度)

国際協力と経済発展

氏名	道海 颯太	学校名	富山県立南砺平高等学校
担当教科等	公民	対象学年(人数)	3年1組 (29名)
実践期間(時数)	令和元年12月9日～12月13日 (4時間)		

実施概要

01 | 実践する教科・領域

教科：公民 (科目：政治・経済)

02 | 単元(活動)名

国際協力と経済発展

03 | 授業テーマ

授業テーマ

「国際協力のあり方と国の『発展』とは」

単元目標

- ・途上国が抱える諸課題に対して日本が行っている国際協力の現状を知り、その課題について考察することができる。
- ・国の「発展」とは一義的なものではないことを理解した上で、ふさわしい発展のあり方について構想、議論し、合意形成をはかる。
- ・持続可能な社会づくりに向けてどのようなことが必要か、国際連合等の取り組みを踏まえて自分なりの意見を持つことができる。

関連する学習指導要領上の目標

- ・我が国の国際貢献や国際協調の必要性について、現実社会の諸事情を通して理解を深める。
- ・現代の国際政治・経済に関する諸資料から、課題の解決に向けて考察、構想する際に必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取る技能を身につける。
- ・国際平和と人類の福祉に寄与する日本の役割について多面的・多角的に考察、構想し、表現することができる。
- ・国際経済において果たすことが求められる日本の役割について多面的・多角的に考察、構想し、表現することができる。

04 | 単元の評価規準

① 知識及び技能	国際協力の現状や、開発途上国の定義、持続可能な社会づくりに向けた活動について理解を深め、必要な資料から必要な情報を適切に読み取ることができる。
② 思考力、判断力、表現力等	国の発展への考え方は立場によって異なることを踏まえ、ふさわしい発展のあり方について他者との合意形成を経た上で自分たちの考えを発表できる。
③ 学びに向かう力、人間性等	国際社会の一員として、よりよい世界の形成に向けて積極的に役割を果たそうとする姿勢・態度が見られる。

05 | 単元設定の理由・単元の意義

【生徒観】

対象生徒の中には、国際政治や国際社会という大きなテーマに対して他人事のように感じ、関心を持ってない生徒が少なからずいる。ただ全体として素直な一面が多く見られ、与えられた課題に対して積極的に取り組むことができる。また、世界遺産である五箇山合掌造りが学校の近くにあることや、2年次には台湾への修学旅行を経験していることから、外国人と接する場面は少なくない。こうした環境を生かすためにも、導入や問いの設定を工夫し、意欲的・主体的な参加を促すことが必要である。

【単元設定の理由・教材観】

「グローバル化」という言葉が各種メディアや教科書上で頻繁に登場している。この言葉だけが一人歩きしている一面も否定できないが、現実問題として他国・他地域とのつながりを一切断ち切って現代の国際社会を生きていくことはできない。このことから、世界が抱える課題に対して「遠い国のこと」「自分とは関係のないこと」と決めつけてしまう姿勢は望ましくない。少しでも自分たちとの関わりや共通点・相違点を発見し、自分事にしていく姿勢が必要である。この単元を通して、様々なつながりの上に成り立つグローバル社会を生きる一員として、国際協力のあり方とは何か、国の「発展」とは何かについて考えを深め、他者との合意形成を経ながら自分なりの考えを持つことを目指す。

【指導観】

まずは導入や問いの設定を工夫することで生徒が関心を持てるようにし、海外のことに対する生徒の苦手意識や他人事意識を少しでも解消していくことが必要である。そのために、写真・画像・動画といった視覚的効果のある教材を積極的に活用し、教員自身のサモアでの体験談を織り交ぜながら単元を通して意欲的な参加を促す指導を行う。また、発展途上国における頭脳流出（Brain Drain）などの問題は、生徒が暮らす市町村が抱えている問題と共通する部分がある。最終的にはこうした身近な話題との共通点から、生徒が当事者意識や世界と自分たちとのつながりを感じることができるようにしたい。

06 | 単元計画 (全4時間)

時	小単元名	学習のねらい	学習活動	資料など
1	レベル別に見る国の発展	◎「先進国」「開発途上国」とは？ 発展レベル別に見た世界の国々とそれぞれの現状について理解を深める。	・「LDC」「中進国」「先進国」の定義を学び、特に中進国ではサモアの現状について理解を深める。 ・それぞれの国が求める支援や発展がどのようなものか、ペアワークを通して予想する。	PowerPoint ワークシート
2	途上国に対する援助と国際協力	◎国際協力のあり方とは？ 日本が行っている援助や国際協力の現状を理解し、必要性や課題について考察する。	・ODA や JICA による援助・国際協力の現状を学ぶ。 ・日本が国際協力においてどのような役割を果たすべきか、その必要性も踏まえて考察する。	PowerPoint ワークシート
3 本時	国の発展	◎ふさわしい「発展」のあり方とは？ ～タイラ国におけるゴカヤマ空港の整備を考える～ 国の発展が一義的でないこと、その上での合意形成の難しさを実感する。また、頭脳流出等の問題と自分の暮らす地域が抱える問題との共通点に気づく。	・仮定の国における空港整備のあり方についてグループワークを行う。 ・指定された役割を演じながらグループで議論する。望ましい発展について合意形成をはかり、考えを発表する。 ・各班員の考えを記録することで、一方的な発展を進めることの問題点を整理する。	PowerPoint タブレット
4	持続可能な社会の形成	◎持続可能な社会づくりに向けてSDGsをはじめとした取り組みを知り、自分に何が出来るか考える。	・SDGs について学び、身近な活動事例を知る。 ・前時までの学習を踏まえ、自分にできることや望ましい支援のあり方について考え、グループで意見を共有する。	PowerPoint ワークシート

07 | 本時の展開 (3時間目)

本時のねらい

- ・望ましい発展のあり方は一人一人の立場によって変わること理解し、その上での合意形成の難しさを実感する。
- ・開発途上国における頭脳流出等の問題と自分の暮らす地域が抱える問題との共通点に気づく。

過程時間	教員の働きかけ・発問および学習活動・指導形態	指導上の留意点 (支援)	資料(教材)
導入 (3分)	○前時までの復習 ・発展レベルによって各国が求める支援が異なること、ODA や JICA を通じた日本の国際協力の現状を確認する。	・前時までの PowerPoint を要点ごとに生徒用タブレット PC へ再提示し、復習を促す。	PowerPoint タブレット PC
	タイラ国におけるゴカヤマ空港の整備計画について議論する		

<p>展開 (40分)</p>	<p>○個人ワーク(7分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゴカヤマ空港の現状を確認する。 ・5つの役に分かれ、自分が担当する役の主張を確認する。(①タイラ国政府関係者A、②タイラ国政府関係者B、③タイラ国民(老人)、④タイラ国民(労働者)、⑤タイラ国民(高校生)の5つ。) ・グループワークでどのように自分の意見を述べるか、整理する。 <p>○グループワーク(20分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各役1人ずつの5人グループに分かれ、ゴカヤマ空港の発展がどうあるべきか合意形成を行う。ゴカヤマ空港の整備レベルは、(1)現状維持、(2)老朽箇所のみ整備するが増便はしない、(3)老朽箇所を整備し大幅な増便もできるようにする、(4)その他、の4つの選択肢から選ぶ。その後、その選択に至った理由や条件などをまとめる。 <p>○各グループの意見発表(13分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表を行い、意見をクラス全体で共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴカヤマ空港の現状を配信し、生徒がタブレットPC上で確認できるようにする。 ・タブレットPCに、自分の配役と主張を示すよう設計したワークシートを配信する。 ・各グループで進行係、記録係を決める。 ・タブレットPCの機能を活用して、自分の意見と周りの意見を可視化し、生徒がグループワークに取り組みやすくする。 ・出てきた意見を取り上げながら発表を回す。 	<p>PowerPoint タブレットPC 配役設定が書かれたプリント(紙) 〔各役の立場(要約)〕 ①…急速な整備推進派、②…条件次第の穏和推進派、③…伝統的な暮らしを重んじる保守派、④⑤…労働と留学のための増便希望者</p>
<p>まとめ (3分)</p>	<p>タイラ国における頭脳流出は日本のどこかが抱える問題と同じではないか?</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国の発展は一義的ではないこと、②と③が危惧した頭脳流出は日本における地方の人口流出と共通することを確認する。 ・授業を通して感じたこと、考えたことを振り返り欄に記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本における課題との共通点に生徒が気づけるように、PowerPointでまとめのスライドを提示しておく。 	<p>PowerPoint 振り返りプリント(紙)</p>

08 | 評価規準に基づく本時の評価方法

- ・復習時の様子を観察し、前時までの知識の定着度を確認する。【知・技】
- ・個人ワークの様子を観察し、空港の現状を示す資料を適切に読み取れているか確認する。【知・技】
- ・グループワークと発表の様子を観察し、自分の意見を表明し、意見の対立を調整しながら合意形成をはかっているか確認する。グループの意見を適切に発表できていることを確認する。【思・判・表】
- ・グループワークの様子を観察し、積極的かつ主体的に課題解決に向けて他者とともに協働しようとする態度が見られるか確認する。【人間性】

09 | 学習方法及び外部との連携

- ・5つの配役を行った上で行うグループワークは、立場によって望ましい発展のあり方が異なることを実感できるようにしている。さらに、その上で合意形成をはかるとの難しさも実感できるように次のように設定した。(1)多数決を禁止したこと。(2)空港整備のあり方に選択肢を設けたこと。(3) 選択肢の中に「その他」を設けたこと。これらはそれぞれ、(1) 生徒同士の対話を促すこと、(2) ゴールをある程度明確にして考えやすくすること、(3) 生徒が議論の中で出てきた条件を自ら新たに設定し新たな選択肢を創造できるようにすること、の3つのねらいに対応する。こちらの支援と生徒側の自由度とのバランス維持が難しく、議論がある程度こちらの意図したように進むかどうかの鍵となる。

- ・5つの配役の中で、②③の役が頭脳流出を懸念している設定にした。これは日本の地方が抱えている人口流出問題との共通点に気づき、身近な話題と感じられることを期待したものである。この授業の展開が誘導的になりすぎていないかが懸念点である。
- ・本校にタブレット PC が導入されたこともあり、タブレット PC を活用する授業とした。主な使い方は2つで、1つは教員が作成した PowerPoint を生徒のタブレット PC に配信すること、もう1つはタブレット PC に内蔵されている授業支援ソフトを活用して個人ワーク、グループワークを実施することである。前者は、一人ひとりのタブレット PC にスライドが提示されるため、スクリーン（黒板上）だと見えづらい生徒や、集中力が途切れがちな生徒に有効であった。后者は、個人で記入したワークシートを、グループワーク時にメンバー全員と共有する機能が便利で、グループでの話し合いがしやすくなる効果があった。

10 | 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組

- ・「グローバル化について考える」（学校外、有志の教員研修時）
- ・教師海外研修 in サモアの報告会 兼 特別授業（HR 時、全教職員・生徒対象）
- ・国際教育研究会指導者養成講座 話題提供者として（富山県立入善高等学校にて）

自己評価

● 苦労した点

第3時（本時）で苦労した点は以下の2点である。

(1) 生徒への配役

生徒は、自分自身→配役された立場→他者との合意形成というように自分の考えを再構成する場面を2回持つこととなった。配役された時点と、グループになって合意形成を行う時点である。特に前者において、初めのうちには役柄に入り込むのに苦労する生徒が何人か見られ、自分自身の考えをまとめるのか、配役されたうえでの考えをまとめるのか迷っている様子だった。

(2) タブレット PC の操作

本時ではタブレット PC を用いて個人ワークとグループワークを行った。グループワークでは、一目でメンバーの意見を確認することができるなど、ICT の活用ならではのメリットが見られた。ただ、タブレット PC の使用が日常化していないため、操作に手間取る生徒も多く見られた。ここでの時間のロスがもったいなかったように思う。

● 改善点

(1) 時間配分

空港の現状把握から配役、グループでの合意形成までの内容を46分間で行うのは少し無理があった。2時間構成にして、クラス全体での意見共有の時間を増やしたり、教員自身も考えを述べたうえで最終的に生徒が一人としてどう考えるかという時間を設けたりしたかった。

(2) 条件設定のレベル

空港の現状や役柄、整備レベルの選択肢などは教員が全てを独自に設定したものであったため、設定が不十分なところは生徒が想像することによって補われる場面が多くあった。それすらもねらいの一部にすれば話は別だが、もう少しきめ細やかに条件設定をして、生徒のスムーズな活動を促すことができればよかった。

● 成果が出た点

(1) 活発なディスカッション

役柄になりきって意見を考え、異なる立場の者と合意形成をはかるという難しいワークでありながら、生徒は活発に議論していた。これは、漠然と一から自身の考えを練るよりも、役柄や立場があらかじめ設定されていたほうが意見を出しやすかったのではないかと考えている。また、最終的なグループとしての意見に偏りが少なかった(整備レベル①が0班、②が2班、③が1班、④が2班)ことから、5種の役柄がうまく機能して多様な意見交換が行われたことがわかった。

(2) 予想以上の多様な意見

タブレット PC で個人ワークとグループワークを行ったが、多様な意見が記入されていた。また、「段階的な整備が必要」、「国内産業の育成が優先」、「目の前の生活に幸せを感じるべき」などといった、生徒が自ら考え、誰にも指図されずに練り上げた条件や意見が多く見られたこともよかった。

● 学びの軌跡 (児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)

◎個人ワーク→グループワークの中で変化した生徒の考え

伝統的な生活を重んじるタイラ国民 (65歳) の役を演じ、「空港の拡張によって環境が破壊されてしまうかもしれないし、若者の流出を促進させてどうする。何気ない日常にもっと幸せを感じるべきだ。」という考えを述べた生徒が、近隣の先進国で働くタイラ国民 (35歳) の役を演じた生徒の、「最低限の安全性を確保してから、環境に配慮しながら段階的に拡張工事をしていく。それと同時に国内産業の発達も促進することができれば文句なし。」という考えを聞いて、最終的に賛同していた。立場の異なる者との意見交換を経ることで、「急激な発展ではなく段階的であれば納得できる」という新たな考えに至ることができていた。合意形成の難しさを実感しながらも、グループとして一つの答えを出すことができた好例である。

ゴカヤマ空港の整備を考える【個人ワーク】
番 名前:
◆私の立場は、A C D E です。(丸をつける)
◆私が望む整備レベルは、① ② ③ ④ です。(丸をつける)
その理由： 貿易の発展のためにも現状の整備では不十分。 しかし、大規模な拡張工事を行うと国外への人材流出が懸念される。 よって、空港の整備は中規模に抑え、国内の産業をもっと発展させるべき。

個人ワーク例 1

ゴカヤマ空港の整備を考える【個人ワーク】
番 名前:
◆私の立場は、A B C D E です。(丸をつける)
◆私が望む整備レベルは、① ② ③ ④ です。(丸をつける)
その理由：ゴカヤマ空港のヘビーユーザーなので空港の大規模な拡張工事は嬉しい。 しかし小さな島国で貧しい状況なので大規模な工事は国内に混乱を招く恐れがある。 そのため最低限の安全性を確保してから環境に配慮しながら段階的に拡張工事をするべき。 それと同時に国内産業の発達を段階的に促進することができれば文句なし。

個人ワーク例 2

ゴカヤマ空港の整備を考える【個人ワーク】
番 名前:
◆私の立場は、 A B C D E です。(丸をつける)
◆私が望む整備レベルは、① ② ③ ④ です。(丸をつける)
その理由：老朽化が進んだ建物をそのまま利用し続けるのは壊れる時を考えて整備したほうがよいと僕は考える。タイラ国は豪雨や浸水などの水害に悩まされているので五ゴカヤマ空港は大規模な拡張工事をするより建物の安全性を第一に考えたほうがよいはずだ！
わん えんぞい 50オ

個人ワーク例 3

ゴカヤマ空港の整備を考える【グループワーク】

1班

◆私たちの班が望む整備レベルは、① ② ③ ④です。
その理由や、話し合いで苦労したこと：大規模な工事は国内に混乱を招く恐れがある。そのため最低限の安全性を確保してから環境に配慮しながら段階的に拡張工事をすべき。

写真・1213班人ウラ・ル・92

グループワーク例 1

ゴカヤマ空港の整備を考える【グループワーク】

3班

◆私たちの班が望む整備レベルは、① ② ③ ④です。
その理由や、話し合いで苦労したこと：
-① 18歳DK 進学先など見れば進路選択の幅が増えるから。
-① 65歳おじい 拡張工事による環境破壊、若者の流出。
-③ 35歳おとん 単身赴任さみしい、家族に会いたい、老朽化国際線の少なさx
-② 42歳政府 国内の産業を先に発達させるべき。
-② 50歳政府 まずは空港の建物の安全性を

～結論～
必要最低限に安全に出入りできれば良い！！

写真・1213班人ウラ・ル・92

グループワーク例 2

● 担当クラス以外での実践・報告について (内容・対象人数)

- ・有志による教員研修時に研修内容を報告…対象人数：県内外の教員 15 名
- ・合同 HR 時に報告会 兼 特別授業…対象人数：全校生徒 80 名+教員 6 名
- ・国際教育研究会指導者養成講座で研修内容を報告…対象人数：県内の教員 15 名

● 授業者による自由記述

今回の授業実践は、サモアの魅力や課題を紹介するだけといったような特別で限定的なものではなく、いかに普通の授業に織り交ぜて実践できるか、ということに主眼を置いて行った。こうした汎用性のある教材作成、今後も継続していける授業計画づくりは容易ではなかったが、なんとか一つの形にすることができた。また、本研修に参加していない教員でも授業実践ができるように、という目的を考えると、今回の授業実践を振り返って他教員と意見を交わし、改善点や今後実践する上での注意点などについて話し合う時間をとることが重要であると感じた。さらに、今回の授業で用いた、「配役→合意形成」という手法はその都度設定を変更しても応用が効くと思われるので、今後の授業実践で改良を重ねて活用していきたい。

【資料 (教材)】

パワーポイント

1

2

【国際協力・国際支援の担い手】

- 県/市町村
- (非政府組織)
- (非営利組織)
- ボランティア団体
- 研究機関
- 教育機関 (学校など)
- 民間企業
- ...

☞ 様々な [] が異なる [] で活動している！

3

1. 政府による支援

* [] (政府開発援助)

…開発途上国の発展を目的に政府が行う、[] を用いた援助。
開発途上国または国際機関に対し、資金(贈与・貸与)や技術提供を行う。

↓
その一環が [] (国際協力機構)の取り組み！

4

2. NGO(非政府組織)による支援

◎ [] 氏
国際NGO団体「ベシヤワール会」代表。
アフガニスタンで治水事業など様々な支援を行う。

※2019年12月4日
何者かによって銃撃され死去

☞ NGOにしかできない支援のあり方もある

5

Q.なぜ国際協力・国際支援が必要なの？

☞ 国内にも数多くの問題があるのに、それでも必要？

【理由の例】

- ① [] な理由
…苦しむ人々のために何もしないわけにはいかない。
- ② [] の理由
…エネルギーや食料などを輸入に頼る日本。→他国への協力が不可欠。
- ③ 他国への「[]」
…戦後間もない頃は日本も支援を受けていた。今でも災害時にはたくさんの支援を受ける。

6

支援による負の側面を考えてみよう

- 急速な都市開発を行ってしまうと…
→ [] などの発生
- 相手国の人材を育てずに「支援しすぎて」しまうと
→ 支援に [] してしまい、「[]」の発生
- 相手国内産業の育成を怠ってしまうと…
→ 国外に優秀な人材が出ていく「[]」の発生

「自立」と「支援」のバランスを取りながら、多種多様な層からのアプローチが不可欠

7

Today's Goal (December 13, 2019)

- ① 一人ひとりの立場の違いによって、望ましい発展のあり方が変わることを理解する。
- ② 発展のあり方が多様にある中で合意形成をする難しさを実感する。
- ③ 開発途上国における発展をめぐる問題と、自分の暮らす地域が抱える問題との共通点に気づく。

8

【テーマ】タイラ国 ゴカヤマ空港の整備について考えよう

9

タイラ国の現状

- タイラ国は太平洋に浮かぶ小さな島国。
- 人口は20万人と小規模で、国内産業はあまり発達していない。
- 国外にほぼ同数のタイラ人が暮らしており、彼らからの送金で生計を立てている家庭が多い。
- 国内の仕事の多くは低賃金で、近隣の先進国で働いたほうが多くの賃金がもらえる。
- 様々な面で先進国からの支援を受けており、政府関係者の一部には「支援慣れ」してしまっている者もいる。

10

ゴカヤマ空港の現状

- ・タイラ国内唯一、最大の空港。
- ・建物の老朽化が進んでおり、豪雨時には浸水被害が起ることもしばしば。
- ・1日の国際便は近隣の先進国と行き来する2便のみ。
- ・近年、国民の中では海外への渡航需要が高まっているが、ゴカヤマ空港には駐機スペースがなく増便に対応できない。
- ・レーダーや照明の設備が古く、空港職員からも整備要望が出ている。



11

目指すべきゴカヤマ空港の整備レベル

- ①しばらく現状維持（支援規模：小）
 - ②老朽箇所は整備し、最低限の安全性を確保することに定める。（支援規模：中）
 - ③老朽箇所の整備だけでなく、増便に向けた大規模な拡張工事を行う。（支援規模：大）
 - ④その他（①～③にない場合、新たなレベルを作ろう）
- ☞この4段階から選ぶ。



12

5つの配役（=5人グループに1人ずつ）

- A：タイラ国政府関係者（50歳）
- B：タイラ国政府関係者（42歳）
- C：タイラ国民（65歳）
- D：タイラ国民（35歳）
- E：タイラ国民（18歳）



- ☞今から配役を決めましょう！
- それぞれ立場が全く異なります。
- 自分がその人の立場になったつもりで、望ましい整備レベルを考えよう！！

13

個人ワーク

1人のタイラ国民として考えよう！



14

グループワーク

空港の整備レベルをみんなで決めよう！

- 【ルール】
- ・誕生日が一番早い人（1月→12月の順）が司会で、一番最初に自分の意見を話してください。
 - ・司会は、自分から時計回りに順番に意見を出させてください。
 - ・全員の意見を聞いたあと、どの整備レベルにするか話し合います。
 - ・多数決は禁止します。全員の合意をうまく取って、選択肢を決めましょう。
 - ・資料置き場にいくつか資料があります。

15

まとめ

「支援」・「発展」のむずかしさ

- ・たとえひとつの国であっても、一人ひとりの立場によって、望んでいる国の「発展」のあり方は異なる。
→簡単に一言で「発展する」なんて言えない！
- ・立場によって望む発展のあり方が異なれば、望む支援のあり方も異なる。
→簡単に一言で「支援する」なんて言えない！
- ・開発途上国における「頭脳流出」の発生
→わたしたちが暮らす地域における「人口流出」に似てませんか？

16

国が「発展」するとは？
どうなることが「発展」なのか？



17

どのような支援が望ましいのか？



18

次回予告

私たちに何ができるのか、世界は何をしているのか

- ・私たちができる国際協力とは？
- ・いま、世界はどのような社会を目指しているのか。
- ・「持続可能な社会」とは？



19

国際協力と経済発展③

タイ王国コカヤマ空港の整備について考えよう！

番 氏名： _____

1. 前時の復習…スクリーン／モニター

Memo： _____

2. Today's Goalの確認…スクリーン／モニター

3. タイ王国・コカヤマ空港の現状の確認…スクリーン／モニター

Memo： _____

4. 目指すコカヤマ空港の整備レベルの確認…スクリーン／モニター

5. 各自配役を決定…グループでくじ引き

6. 個人ワーク…タブレットで！

7. グループワーク…タブレットで！メモはこのプリントに！

Memo： _____

8. クラス内で発表／意見共有

Memo： _____

9. 今日の振り返り

1	2	3	4	5
1	2	3	4	5
1	2	3	4	5
1	2	3	4	5

※裏面に資料あり
(タイ王国・コカヤマ空港の現状・
目指す整備レベル)

【タイ王国の現状】

- ・タイ王国は太平洋に浮かぶ小さな島国。人口は20万人と小規模で、国内産業はあまり発達していない。
- ・国外に同程度の人口のタイ人が暮らしており、彼らからの海外送金によって生計を立てている家庭が多い。
- ・国内の仕事の多くは低賃金で、近隣の先進国で労働した方が多くの賃金を獲得できる。
- ・今回のコカヤマ空港を含めたインフラ整備などにおいて、様々な面で先進国による支援を受けている。そのため、支援されることに慣れている一部の政府関係者もいる。

【コカヤマ空港の現状】

- ・タイ国内唯一、最大の空港。
- ・経年による建物の老朽化が進んでおり、豪雨時には浸水被害が起こることもしばしば。
- ・1日の国際便は近隣の先進国に飛ぶ2便と、同じく近隣の先進国から戻る2便のみ。
- ・近年、国民の中では海外への渡航需要が高まりを見せているが、コカヤマ空港には駐機スペースが足りず、増便に対応できない。
- ・レーダーや照明の設備も古く、空港職員からの整備要請も出ている。

【コカヤマ空港の整備レベル（選択肢）】

- ① しばらく現状維持（支援規模：小）
- ② 老朽箇所は整備し、最低限の安全性を確保するにとどめる。（支援規模：中）
- ③ 老朽箇所の整備にとどまらず、増便に向けた大規模な拡張工事を要請する。（支援規模：大）
- ④ その他（①～③にない場合、新たなレベルを作ろう）

〔5つの配役〕

- あなたは、**A：タイ王国政府関係者 A(50歳)** です。
以下のような立場になって、自分ならどの整備レベルを望むか、考えてください。

【立場】

 - ・コカヤマ空港の整備は、海外に行きたい国民の希望に添えるだけでなく、他国との貿易を発展させるためにも必要なことである。よって老朽箇所の改築だけでなく、大規模な増便に対応するための拡張工事まで推し進めたいと考えている。
 - ・コカヤマ空港整備の財源はタイ王国財政だけでは到底まかなえず、先進国からの支援に頼ろうと考えている。資金だけでなく、技術的な面での支援も頼るつもりである。
 - ・現状、自国の力だけでは整備できないと割り切っており、国民のニーズと今後のタイ王国経済のために、とくに空港を整備・拡張させたい。

*グループワークでもこの立場になって、自分の考えを主張しましょう！

- あなたは、**B：タイ王国政府関係者 B(42歳)** です。
以下のような立場になって、自分ならどの整備レベルを望むか、考えてください。

【立場】

 - ・コカヤマ空港の整備は、海外に行きたい国民の希望に添えるだけでなく、他国との貿易を発展させるためにも必要なことである。
 - ・ただ、大規模な増便に踏み込むと、国外へ人材流出(頭脳流出)を促してしまうという危機感も持っている。
 - ・空港整備には基本的に賛成だが、急激な拡張はせず、慎重にしていきたいと考えている。
 - ・費用面、技術面で先進国に頼ることも危機感を持っている。最終的には自立していかなければならぬ。いとむ自覚しており、大規模な支援を受けることに対して複雑な気持ちがある。
 - ・危機感をうまく和らげる条件がないか、模索している。

*グループワークでもこの立場になって、自分の考えを主張しましょう！

- あなたは、**C：タイ王国(65歳)** です。
以下のような立場になって、自分ならどの整備レベルを望むか、考えてください。

【立場】

 - ・伝統的な自給自足の生活を好んでおり、何気ない日常のすべてに幸せを感じている。
 - ・近年の他国とのやりとりで輸入品や安い輸入品が入ってきており、昔の村が変わりつつあることに気づいている。
 - ・多くの若世代の若者たちが村から海外へと渡っており、送金に対する感謝を感じながらもどこかさみしい気持ちもある。
 - ・空港整備については基本的に反対。拡張工事によって環境が破壊されないか、また多くの若者たちの流出もするのではないかと危惧している。

*グループワークでもこの立場になって、自分の考えを主張しましょう！

- あなたは、**D：タイ王国(35歳)** です。
以下のような立場になって、自分ならどの整備レベルを望むか、考えてください。

【立場】

 - ・5人のこともたちの父親で、一家の大黒柱。
 - ・現在一時的に帰国しているが、1年のほとんどを近隣の先進国で過ごしており、オレンジ農家で働いている。タイ国内で働くよりもはるかに多い賃金を獲得できるので、単身赴任は正直さみしいが、家族のために一生懸命働いている。
 - ・コカヤマ空港はよく利用しており、老朽化が進んでいることや国際線の便が少ないことに不満を持っている。そのため整備・拡張には基本的に賛成している。便が増えれば出国・帰国の利便性が高まると期待している。

*グループワークでもこの立場になって、自分の考えを主張しましょう！

- あなたは、**E：タイ王国(18歳)** です。
以下のような立場になって、自分ならどの整備レベルを望むか、考えてください。

【立場】

 - ・現在高校生で、校内でも上位に入る頭脳の持ち主。タイ国内に行きたい進学先がなく、まずは卒業後近隣の先進国に留学したいと考えている。
 - ・留学後もタイ国内に戻ってくるつもりはない。国内には魅力的な仕事(内容面・賃金面とも)がないと感じており、先進国で働きたいと思っている。
 - ・コカヤマ空港が整備されれば移動の利便性が上がり、自分の進路選択の幅も広がると考えている。

サモアを通して、国際問題に対して自分にできることを考える

氏名	米澤 みのり	学校名	富山県立上市高等学校
担当教科等	英語	対象学年(人数)	2年3、4組(19名)
実践期間(時数)	2019年10月～11月(4時間)		

実施概要

01 | 実践する教科・領域

英語表現 I

02 | 単元(活動)名

サモアを通して、国際問題に対して自分にできることを考える

03 | 授業テーマ

授業テーマ

「世界の一員としてできることって?」

単元目標

- ・サモアを通して世界で起きている問題を自分ごととしてとらえる。
- ・問題解決のために自分の行動をどのように見直したら良いのか考える

関連する学習指導要領上の目標

日常的な話題や社会的な課題について、情報や自分の考えなど伝える内容を整理し、また要点や意図などを明確にしなが、英語で話したり書いたりして伝え合うことができる。

04 | 単元の評価規準

① 知識及び技能	仮定法過去の用法を理解し、正しく使うことができる。
② 思考力、判断力、表現力等	世界で起きている問題の原因を理解し、身近な行動から順序立てて解決策を考えることができる。
③ 学びに向かう力、人間性等	異文化に関心を持ち、自分と世界のつながりを意識できる。

05 | 単元設定の理由・単元の意義

【単元設定の理由】

美しい自然を持ち、暖かい人々を育むサモアを例に、異文化に関心を持たせるとともに、途上国が抱える問題と日本に住む自分との繋がりを感じさせたい。仮定法「もし私が～したら・・・だろう」を用いた活動を行うことで、途上国で起きている問題を解決することにつながるまでのプロセス・行動を順序立てて考えさせることができる。

【単元の意義】

サモアという異文化に触れることで日本の生徒たちの日常から世界に視野を広げさせられる。もっと知りたい、関わりたいという気持を刺激することが新たな挑戦に繋がると考える。また、世界の一員として、遠くにいる誰かに思いを馳せることで、自分の行動を見直すきっかけが生まれることも期待できる。この単元を通し、考えを行動に移せる生徒を育てたい。

【児童 / 生徒観】

自然科学分野の男子 10 名、女子 9 名の生徒たちから成るクラスである。落ち着いて授業に取り組むことができる好奇心旺盛な生徒たちである。知らないことには耳を傾けてよく聞こうとするが、英語への苦手意識はやや強い。グループでの話し合いや発表することには消極的な生徒が多い。

【教材観】

生徒の異文化への関心や好奇心を刺激する内容を作成し（パワーポイント資料）、教員の体験や感じたサモアを紹介する。次にサモアが抱える問題、他の途上国が抱える問題を、原因や日本との繋がりが分かるように説明し、どうしたら解決できるかを何度も問いかけて考えさせたい。また、話し合いを通してグループ内の意見をまとめる活動では、他の人の意見に耳を傾けることと、積極的に発言することを促し、生徒のコミュニケーション能力を養いたい。そのため、英語を使う活動は、なるべくストレスを感じないように、ワークシートのレイアウトを工夫し、思考や話し合いに集中できるようにしたい。

【指導観】

教師がサモアで実体験として見たことや感じたことを紹介することで、世界に対する興味を生徒に持たせるとともに、新たなことに挑戦する大切さを伝えたい。そして、魅力的に見えるサモアという国が抱えるゴミや海面上昇などの現実の問題を示し、他の途上国にも範囲を広げ、途上国が直面する問題には自分たちの生活も影響を与えていることを捉えさせたい。仮定法過去「もし～なら、…だろうに」を用いたアクティビティを通して、自分ができる行動から問題の解決までを順序立てて考えさせ、グループ内でシェアし、より良い解決方法になるよう話し合いをさせる。生徒が問題を自分ごととしてとらえ、行動に移せるようになることを期待したい。

06 | 単元計画（全 4 時間）

時	小単元名	学習のねらい	学習活動	資料など
1	サモアと世界の問題について知る	<ul style="list-style-type: none">・異文化に関心を持つ。・途上国が抱える問題を知り、自分たちとのつながりを感じる。	<ul style="list-style-type: none">・warm up としてリスニングをする。・サモアに関する紹介を聞いて、ワークシートに自分の意見をまとめる。・グループで意見を交換する。・自分たちができることを次回までに考えてくる。	<ul style="list-style-type: none">・教員が作成したサモアに関するパワーポイント資料・JICA 北陸の事前研修で使用したパワーポイント資料・ワークシート

2	仮定法過去を用いて解決方法を書く	<ul style="list-style-type: none"> 自分なりの解決方法を順序立てて見つけることができる。 仮定法過去を用いて表現することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 前時の振り返りをする。 個人で自分ができることから解決までを順序立てて考える。 仮定法過去の用法を復習する。 ALT や JTE に質問しながら仮定法過去を用いて解決方法を書き、理由も考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート
3 本時	よりよい解決方法をグループで考える	意見を出し合い解決方法をより具体的にすることができる。	<ul style="list-style-type: none"> グループ内で前時に用意した意見を一人ずつ理由とともに英語で発表する。 グループ内で出た意見から、より具体的な解決方法になるように意見を組み立てる。また、そうなった理由も考える。 解決策を模造紙にまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> パワーポイントスライド ワークシート 模造紙
4	クラスで解決方法をシェアする	グループ内での話し合いの結果を発表し、考えを深める。	<ul style="list-style-type: none"> グループごとに前に出て発表する。 疑問に思ったことを話し合う。 この授業を通して考えたことをワークシートに記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> パワーポイントスライド ワークシート 模造紙

07 | 本時の展開 (3時間目)

本時のねらい

世界の問題に対する解決方法について話し合うことができる。

過程時間	教員の働きかけ・発問および学習活動・指導形態	指導上の留意点 (支援)	資料 (教材)
導入 (10分)	<ul style="list-style-type: none"> 前時の振り返りを行う。 ワークシートを返却し、文法上の間違いなどを確認させる。 本時の活動の説明をする。 		<ul style="list-style-type: none"> ワークシート パワーポイントスライド
展開 (30分)	<ul style="list-style-type: none"> 時間を設定し、グループ内で一人ずつ自分の解決方法を発表させる。 一人一人の発表後、班長を中心によりよい解決方法を話し合わせる。 話し合いのポイント (最初のステップが実現可能なものか、実践してみたいものか、おもしろそうか) を踏まえて、意見をより良いものにする。 意見がまとまったら、模造紙に書く。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の意見と理由を必ず発表するよう徹底する。 話し合いのポイントを提示する。 前後に繋がりを持った解決方法になるように、活発な話し合いのため言葉は英語に限定しない。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート パワーポイントスライド 模造紙
まとめ (10分)	<ul style="list-style-type: none"> 発表内容の確認をする。 次の時間の発表順を決める。 グループで発表の役割分担をする。 ワークシートを集める。 	次時の発表がスムーズに始められるよう、流れを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート

08 | 評価規準に基づく本時の評価方法

- ・ワークシートに仮定法過去を正しく使って意見を書いているか①
- ・グループ内での話し合いで、自分たちの身近なことから解決方法を探しているか②

09 | 学習方法及び外部との連携

1学期はあまりグループワークを取り入れていなかったのですが、2学期から徐々にグループワークの時間を増やし、生徒たちに慣れさせていった。単元に入る前には、グループワークの練習も兼ねて JICA の「ものはどこからきているの? カードゲーム」を行った。ゲームのおもしろさも相まって、普段話すことのない生徒同士でも会話をする姿が見られた。本単元中は全時間1組5人のグループでグループワークを行った。意見をシェアし、考えを深めることが主目的ではあるが、率先して役割分担や話し合いを進めることができる生徒を増やすためにもグループワークを多く取り入れた。

10 | 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組

- ・国際理解教育に関する授業を校内で公開
- ・学年通信を通しての報告
- ・富山県高等学校国際教育研究会指導者養成講座での発表

自己評価

● 苦労した点

生徒の活動への取り組みは大変積極的であったが、自分の考えを英語にするとき想像以上に時間がかかった。生徒の取り組みの勢いを維持し、やる気を失わないような雰囲気作りを意識したが、活動中での英語と日本語のバランスが計画通りにいかず苦労した。また、ワークシートの構成をよく理解できていない生徒が数人おり、その生徒たちに関しては大幅な遅れがでてしまった。

● 改善点

- ・グループの意見を模造紙にまとめるときに、様々な工夫を凝らして書きたい生徒がいたが時間がとれなかったため、余裕を持った時間設定が必要だった。
- ・単元とは別に JICA や国際協力について知る時間がとれたため、内容の理解はスムーズだった。そのため、単元計画のはじめにそれらについて学ぶ時間を1時間増やすと良いと思った。
- ・クラス発表では出なかった良い意見を紹介する時間を設けるべきだった

● 成果が出た点

国際理解教育は正解がない問題であり、知れば知るほど世界との繋がりを感じ、自分にあてはめて考えることができる。そのため、普段コミュニケーションをとることや表現することが苦手な生徒もいきいきと授業に組み込み、グループ内でも評価されたため、本人の自信に繋がる経験が多く生まれた。この授業がそのような機会となったことに嬉しさややりがいを感じた。

また、新しい知識や疑問がたくさん生まれたことで、多くの生徒が課題に対し自主的に調べていた。その姿を見て、自分自身ももっと良い教材作りをして、生徒に世界について知る楽しさを伝えたいと思った。

普段あまり自分の意見を表に出さない生徒たちが、サモアという国や環境問題の解決について知るうちに、外国に行ってみたい、持続可能なエネルギー開発について学びたいと言ってきた。新しい挑戦を始めるきっかけになったと思う。

授業実践当日は、本校教員が20名近く見に来てくださった。普段見られない生徒の表情や、ユニークな考えを見て、単元を通してどのような授業が行われたのか興味を持ってもらえた。また、生徒たちが解決方法を考えている問題について詳しく知りたいという声や、どうしたら情報が手に入るのかという声もあった。特に生徒にとっては身近だったファストファッションの問題については、教員の中にはなじみがない人もおり、高校生だからこそ率先して伝えられることや解決に向けて行動できることがあると感じた。

● 学びの軌跡（児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど）

○国際協力は必要？

単元の最初にこの質問をすると、19名中17名が必要、2名が必要ないと回答した。

主な理由は以下のものである。

<必要>

- ・助け合いは大切だから。
- ・災害が起きたときに支援し合えるから。
- ・日本が発展するために必要だから。

<必要ない>

- ・日本国内でも問題がたくさんある。外国へ支援をしている余裕はない。
- ・国と国が関わると戦争や紛争が起きるから。

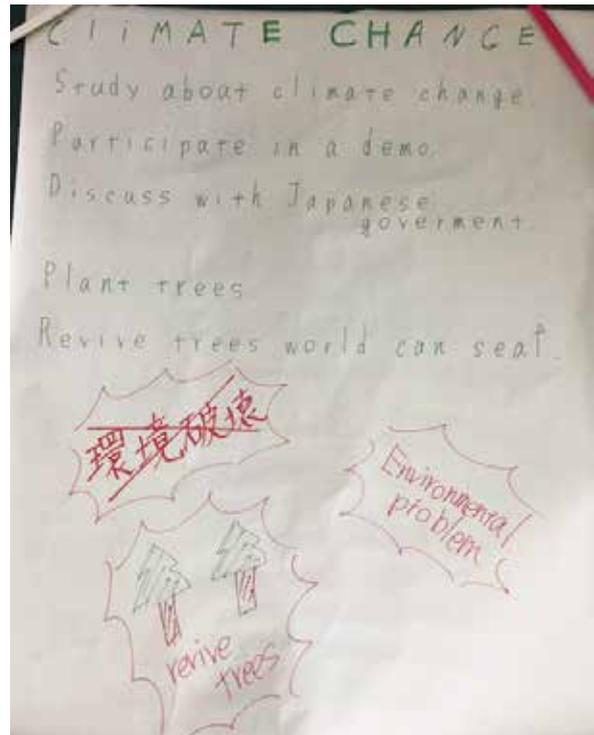
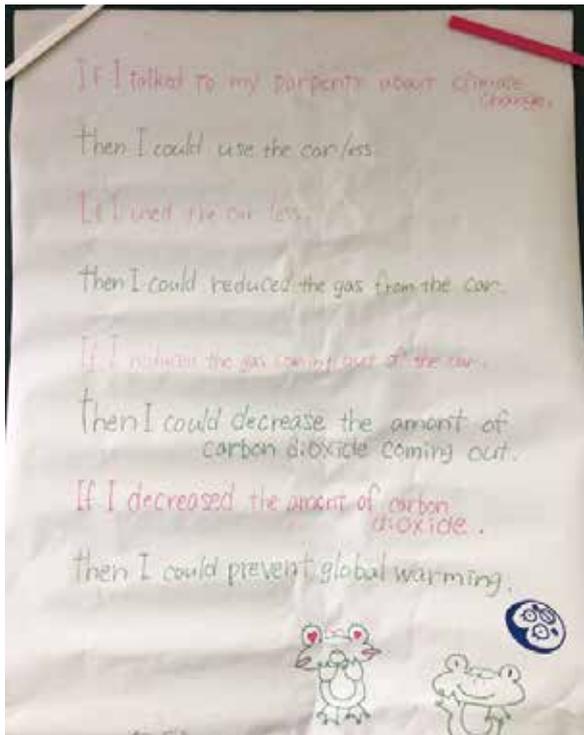
単元の最後に同じ質問をすると全員が<必要>と回答。以下はその理由。

世界の問題は世界全体で取り組まなければならぬと改善されると思います。
一部の国では自分達には関係のないことだと考えているところもあります。
しかし、いずれその一部の国でも大きな被害をこうむることもあると思います。
だからこそ、完全に手遅れになる前に国同士の協力で問題を解決し積極的に関わり
取り組まなければならぬと思います。もちろん、国同士の協力よりも、まず国内での
土壌や環境などの協力も必要になってくるのではないかと私は思います。私は、国際協力は
必要だと思います。しかし、国同士の協力だけではそれは形だけのものではないです。
ですから、もっと身近なところから協力は行われなければならないかとも思います。

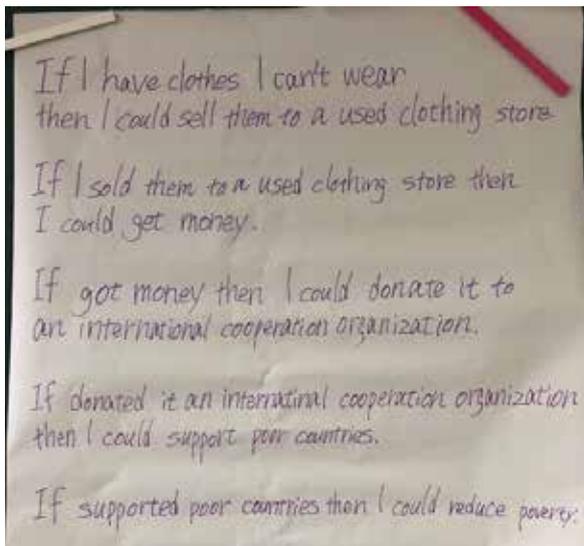
国際協力がなければサモアのような国は生きていけないからです。
日本と比べて生活のほとんどが輸入品で成り立っているのに
それを止められたら生活が成り立たなくなってしまうから。
その他に災害があったら、日本の様に台風や地震で被災した人
の地域で被害を受けて、日本国内で助け手が回らないと、
他の国から支援を求めたりできるので国際協力は必要だと
思いました

日本は、いろいろな国の輸入に支えられて、それが「生活」と私
たちは生活できません。助けを借りてから、私たちがいろいろな国
を助けたいと思っています。また、国際協力をすることで
生活が便利になることを証明して、CO2の排出量を減らせるかも
しれないから、私も、外国の人々や様々な人々と協力をして、
何かをできるように努力したいです。

○問題の解決方法 <気候変動>



○問題の解決方法 <ファストファッション>



○単元を通して学んだこと、感じたこと

気候変動によって沈んでしまう住居が「あること」や大量の「ゴミ」があるという事に驚きました。
理由は南米の氷が「溶けた」ため(しかも)水が海に「上昇」して沈んでしまうという「一件小惑星」のように「ゴミ」で「地球」が「沈んでしまう」と思いました。
そして大量の「ゴミ」は「最新の洋服」が「売れ残っている」状態で「ゴミ」になるという「ゴミ」で「生活」が「支えられ」ないという「悲しい」現実が「こんな」こと「に」なると「思いました」。

私はこの授業を通して、普段なにげなく着ているファストファッションが、地球温暖化や発展途上国の人々の生活に関わっているということを知りました。日本に住んでいる私には関係ないことでは、私たちがファストファッションで遊ぶことで起きている問題について知りました。

この授業を通して、自分が知っていることと知らないこととを区別することができました。

普段環境のことに特に大きな興味を感じておらず、授業を通して環境問題とそれによる影響について考えました。授業の内容として環境問題の解決を過程法を作りながら考えました。やはり、今の世界は環境に対して少し簡単に考え過ぎているのではないかと思います。友達の意見を聞くことで、身近で出来る対策や国や世界を通して出来る可能な少々の対策など、様々な考えがありました。学生でも考えることが出来ることを世界全体が取り組むべきだと思います。英語の授業を通して、世界の問題を学ぶことはとても面白かったので、英語を学ぶのは大変ですが、また学びたいです。

● 担当クラス以外での実践・報告について (内容・対象人数)

- ・授業でサモアを題材にして国際理解の授業 対象人数：生徒 25 名
- ・富山県国際教育研究会で研修の報告 対象人数：教員 11 名

● 授業者による自由記述

本指導案では、今まで国際理解教育にあまり触れたことがない生徒が、まず世界の問題を他人事ではなく「自分ごと」として捉える機会を与えられるものになったと思う。名前も知らなかった遠い国の人々の生活を写真や動画で見ることにより、現実感が増し、生徒は彼らに親近感を感じることができる。それにより問題解決のためにより積極的に考え、話し合うことができる。生徒自身が遠い国々との繋がりを意識できればできるほど、授業に取り組む姿勢が変わると感じた。

また、私自身、今まで国際理解教育をあまり実践したことがなかったが、授業をしながら生徒と考えを深め、自分では思いつかなかった生徒の意見に刺激を受け、生徒と共に学ぶことができた。今後は、内容をもう一段階ステップアップさせ、また生徒と共に理解を深めていきたい。

【参考資料】

- ・JICA 北陸の教師海外研修 事前研修で使用されたパワーポイント
- ・JICA 東京「ものはどこからきているの？」カードゲーム
- ・JSL サステナブルラベル <https://jsl.life/>

【資料 (教材)】

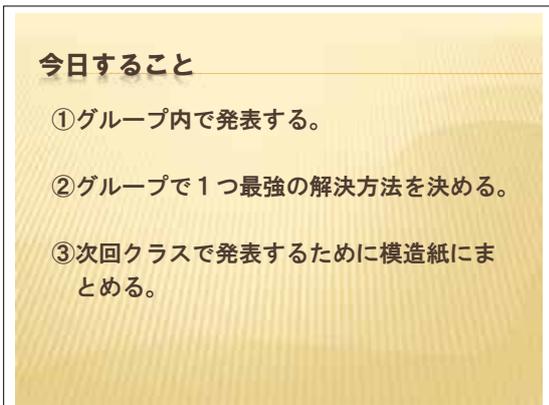
パワーポイント



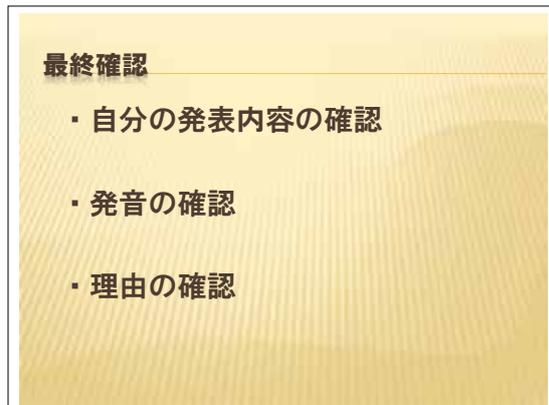
1



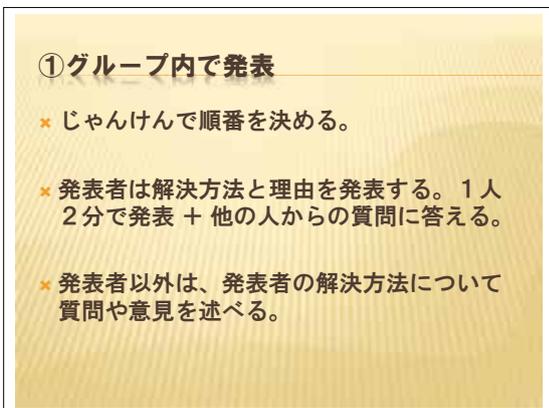
2



3



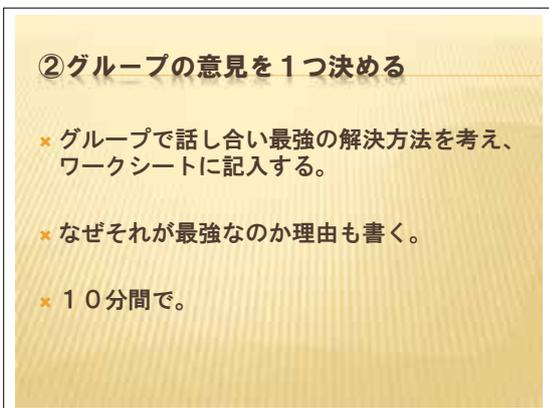
4



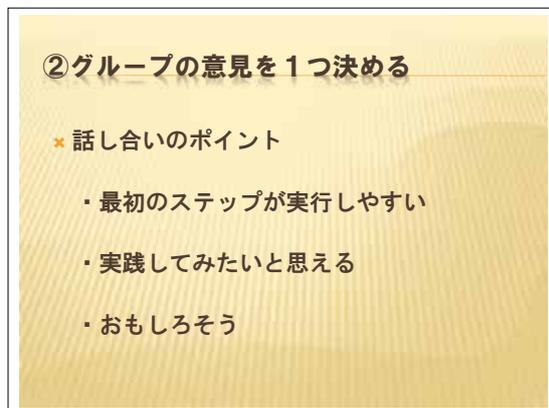
5



6



7



8



9

③模造紙にまとめる

- ✕ 次回の全体発表に向けて、模造紙に解決方法をまとめよう。
- ✕ 発表時に、みんなに見やすいように工夫して書こう。

10



11

④次回に向けて

- ✕ じゃんけんで発表順を決めよう。
- ✕ 自分が発表する部分を決めよう。1人1回必ず発言する。

12

【資料（教材）】

ワークシート①

English Expression I H. No. Name _____

国際理解 International Understanding①

How to solve [climate change / fast fashion problem].

もし _____ だったら
_____ できるだろう。

↓

もし _____ だったら
_____ できるだろう。

↓

もし _____ だったら
_____ できるだろう。

↓

もし _____ だったら
_____ できるだろう。

I will show you ...

how to solve [climate change / fast fashion problem].

If I _____ ,
then I could _____ .

↓

If I _____ ,
then I could _____ .

↓

If I _____ ,
then I could _____ .

↓

If I _____ ,
then I could _____ .

↓

If I _____ ,
then I could _____ .

ワークシート②

English Expression I H No. Name _____

国際理解 International Understanding②

<Presentation script>

I will show you how to solve _____

If I _____

then I could _____

I will tell you why this is good.

Thank you.

JICAは、開発途上国に関する「知見の還元」、自分に何ができるかを「考える機会の提供」、国際理解教育推進のための「橋渡し役」の3つを柱に、日本国内で開発教育支援事業を実施しています。

参加型・体験型の学習を通して、世界各国で起こっているさまざまな問題が、私たちの生活と関連していることに気づき、一人一人がその問題の解決に向けて考えることが出来る様、JICA北陸では以下の国際理解教育メニューを用意しています。どうぞ積極的にご活用ください。

JICA国際協力出前講座

開発途上国の現場で国際協力に携わった経験のある青年海外協力隊等のJICA海外協力隊経験者やJICA職員、JICA外国人研修員を学校や地域の学習会などに派遣します。現場で活躍した講師達から国際協力の体験談や開発途上国の実状・文化を直接聞くことができます。



民族衣装を着て講師を務めるJICA職員

みなさまからのご要望にお応えし、目的に合った講師を派遣します。

こんな活用法
があります！



- 例1 講師：青年海外協力隊 内容：開発途上国で行ったボランティア活動を紹介
例2 講師：JICA 職員 内容：国際協力の仕事やキャリアパスを紹介

JICA国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト

次の世代を担う中学生・高校生を対象に作文コンクールを毎年開催しています。身近な地域や世界が直面している問題や課題について、「なぜこのようなことが起きるのだろうか?」、「解決するために私たちには何ができるのだろうか?」、と考えるところからまずは始めてみましょう。日本国内や国際社会で起こっている様々な現実を「自分にも関係のある出来事」として受け止め、そして考えることは、みなさんの人生をより豊かにし、また世界をより良くしていく一歩になると思います。

～大きな世界を変えるのも、一人の意識から～



●応募について●

募集：毎年6月中旬～9月中旬（応募は1人1作品、日本語で書かれた未発表のもの）

文字数：中学生は本文1200字（400字詰原稿用紙3枚）以内、高校生は本文1600字（400字詰原稿用紙4枚）以内

最優秀賞・優秀賞・審査員特別賞には、賞状および約1週間の海外研修が副賞として贈られます。海外研修には、JICAプロジェクトの訪問やホームステイ、現地の人たちとの交流などが含まれます。

世界地図もご用意しています

世界では様々な言葉が話されています。多様性を知るきっかけとして、JICA北陸の世界地図、「世界の言葉でありがとう／こんにちは」を授業などにご活用ください。

世界各国の民族衣装を着たキャラクターがそれぞれの現地語で「ありがとう」と「こんにちは」を紹介しています。無料で提供していますので、必要な方はJICA北陸までお問い合わせください。



教師海外研修

開発教育・国際理解教育に取り組む教員の方々に、実際に開発途上国を訪問する機会を提供することで、まずはその現状や国際協力の現場、日本との関係について理解を深めて頂きます。帰国後は、訪問によって得た気づきや素材を教材にして学校現場で国際理解の授業を実践して頂きます。本プログラムは研修の成果を次代を担う児童・生徒への国際理解教育に役立てて頂くことを目的としています。また、研修終了後も、開発教育・国際理解教育の中核的指導者として活躍いただくことを期待しています。

研修の流れ



国内事前研修



海外研修前に事前研修を行います。メンバー間の親睦を深めながら、訪問国の概要などを学習します。

海外研修



海外研修中は、JICAの国際協力の現場や現地の学校を訪問します。

実践授業



海外研修終了後はそれぞれの所属校で様々なテーマで授業を行います。

大学生向け人材育成プログラム:グローバルキャンパス

JICA北陸では、国際理解・国際協力体験型プログラム「JICA北陸グローバルキャンパス」を毎年開催しています。対象は北陸3県に在住の大学生、大学院生、専門学校生の方々です。グローバルキャンパスは、海外での国際協力活動や国内で出来る国際貢献について知り、考えるための入門プログラムです。同じ興味・目標を持っている、違う学校の人達とも知り合える機会になります。国際協力の専門機関であるJICAがアレンジするプログラムだからこそ体験出来る内容が確実にあります。学校から飛び出して、教科書や教室では学べないことを皆で一緒に体験して成長しませんか？



JICA研修員と交流を深める参加学生



ワークショップを通じたSDGs学習

学校で使える国際理解授業用 セット一式

JICA北陸は、教師海外研修に参加された先生方が作成した授業用の教材一式をウェブサイト上で提供しています。誰でもそのまま使える、真似できるセットになっていますので、作業負担を減らしながら国際理解教育に取り組むことができます。

アップロードしているデータは全て著作権フリーの教材として皆さまにご活用頂けるものです。ワードファイルなどの元データも掲載しています。元データをダウンロードして、そのまま使うことも、必要部分を上書き修正し利用することも可能です。ぜひご活用ください。



ぜひ検索して
見つけて下さい!

JICA 北陸 開発教育

検索



携帯から
QRコードでも
検索できます

JICA北陸へようこそ



金沢駅兼六園口(東口)から徒歩5分
北鉄バス「リファール前」バス停目の前

国際協力のことならおまかせ!

受付時間 / 9:30~17:45(12:30~13:15は昼休み)

休 日 / 土・日・祝日・年末年始

所 在 地 / 〒920-0853

石川県金沢市本町1-5-2リファール (オフィス棟) 4F

連 絡 先 / TEL 076-233-5931

FAX 076-233-5959

E-mail / jicahric@jica.go.jp

■ウェブサイト

JICA全体 <http://www.jica.go.jp>

JICA北陸 <http://www.jica.go.jp/hokuriku/>

■Facebook(フェイスブック)

JICA北陸 <http://www.facebook.com/jicahokuriku>

富山・福井にもJICAデスクがあります

富山県と福井県の国際交流協会内に、「国際協力推進員」をJICAデスクとして配置しています。皆さまの身近な国際協力のサポート役として、様々な地域の国際協力に取り組んでいます。

JICA事業や国際協力に関することなら何でもお気軽にご相談ください。

富山県デスク

富山市牛島新町5-5 インテックビル4F
公益財団法人 とやま国際センター内 富山県国際協力推進員
TEL : 076-464-6491 FAX : 076-464-6491
E-Mail : jicadpd-desk-toyamaken@jica.go.jp

福井県デスク

福井市宝永3-1-1 福井県国際交流会館
公益財団法人 福井県国際交流協会内 福井県国際協力推進員
TEL : 0776-28-8800 FAX : 0776-28-8818
E-Mail : jicadpd-desk-fukuiken@jica.go.jp

